

協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業

令和元年度 成果報告書

協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業  
令和元年度 成果報告書



## COC+推進室長あいさつ

若者の地域定着と地域活性化に関する取り組み



山形大学COC+推進室長  
三上 英司

山形県は、全国でも五指に入る人口減少地域です。県の人口は昭和 25（1950）年に 136 万人を記録してから、減少の一途をたどり、令和 2（2020）年には 107 万人になります。これは、昭和 5（1930）年における山形県の人口とほぼ同じです。この 80 年間、南東北に位置する山形という県は東京をはじめとする大都市圏に人材を供給し続けました。今、日本全体で少子高齢化や地方の過疎化に起因する諸問題の解決に取り組む必要性が叫ばれ、これに対応可能な人材の育成が急がれる根本的な理由は、ここにあります。

これ対して山形大学では、平成 25（2013）年から、COC 事業として地域志向科目・研究の増加と地域社会貢献事業等の展開とを進めてきました。そして平成 27（2015）年度に採択された COC+ 事業では、山形県内の高等教育機関、自治体、企業、民間団体、NPO 等と連携して県内高等教育機関卒業生の地元就職率の 10% 向上を目標とし、地域連携科目の必修化、県内インターンシップ履修学生の増加、課題解決科目・協働研究科目等の充実による学生の地域理解力と主体的課題解決能力の向上に努めました。また、地元企業による新規雇用 150 人の創出を目指し、産学協働を進めました。人口減少が進行する地方には、地域社会の発展に寄与する若者の存在が必要です。年齢層や立場を超えて多くの人々を巻き込みながら、地元で活躍する若者が必要です。そのような人材育成の基盤を地域に形成することが、COC+ 事業に参加する高等教育機関や自治体、NPO 等が共有する目標です。

平成 29 年度から、山形大学では地域教育文化学部が責任学部として COC+ 事業を進める体制になりました。これは、COC、そして COC+ の活動が積み上げてきた成果を実際のカリキュラムに反映させて効果を検証するためです。また同時に、COC+ 事業が創出した地域協働のネットワークと地域貢献人材の育成システムとを発展させることを目的としています。このような取り組みは、一つ一つ実を結び、成果が上がり始めています。例えば、山形大学が山形県中小企業家同友会と連携を深めながら構築した低学年・地域密着型インターンシップの制度は、平成 29（2017）年 12 月に文部科学省から最優秀賞を授与されました。また、平成 30（2018）年 1 月 10 日に「オールやまがたによる若者定着を目指して」と題して開催したシンポジウムでは、吉村美栄子山形県知事、清野伸昭山形県商工会議所連合会長、小山清人山形大学学長が、危機意識を共有し、産学官が緊密に連携して若者定着に取り組むとするメッセージを発信しました。さらに、COC+ 事業を契機に生まれた信頼関係が山形の最上地区や置賜地区において人材育成・地域活性のための新しい取り組みとなって実現しています。私たちは、地域の活性化を人のつながりによって創出して行く所存です。今後ともご鞭撻いただきたく、お願い申し上げます。

## 1 事業の概要

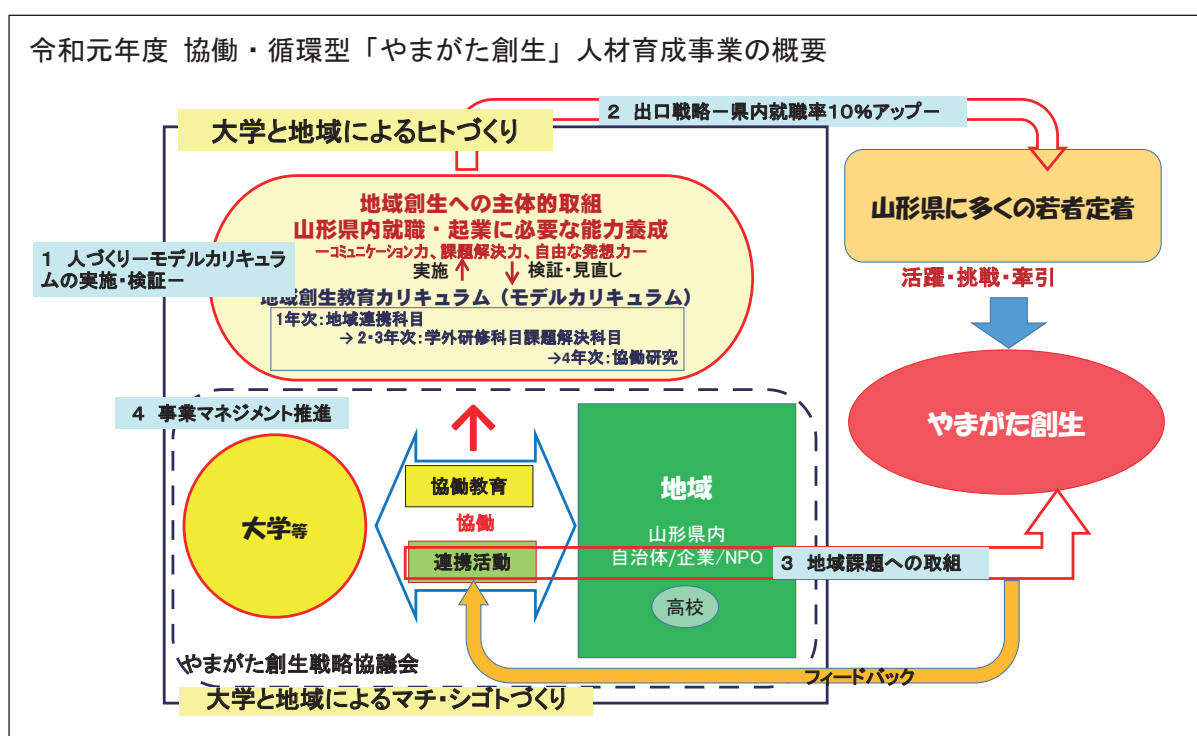
### (1) 事業名称

協働・循環型「やまがた創生」人材育成

### (2) 事業の目的[申請書版]

- ・若者の県内定着に向けて、1 年次から卒業年次まで一貫して地域理解が深められる教育カリキュラムを整備する。養成される人材像は、「コミュニケーション力、課題解決力、自由な発想力」を備えた人材。
- ・産学官金連携で、既存企業の事業拡大、起業促進などによる雇用創出を進める。

### (3) 令和元年度事業の取組



#### 1) 人づくりーモデルカリキュラムの実施・検証ー

##### ① 地域創生カリキュラムの実施と教育効果の検証

山形大学・地域教育文化学部をモデルに地域創生カリキュラムを平成30年度より実施し、その履修状況の調査と教育効果の検証を行った。

##### ② 地域志向科目授業推進（バス等借り上げ助成）

#### 2) 出口戦略ー県内就職者率10%アップー

##### ① キャリア Café

県内就職率の低い工学部及び農学部において、県内企業の魅力を伝えるための県内企業に就職したOB・OGと学生とのキャリアCaféを開催。

##### ② 低学年インターンシップの推進

### 3) 地域課題への取組

#### ① 最上地域の取組

高等教育機関のない最上地域における、地域・企業と協働した地元の魅力を知る多彩な取組。

#### ② 地域創生関連授業による地域課題への取組

#### ③ 大学生と高校生との協働活動—高大連携—

### 4) 事業マネジメント推進

#### ① やまがた創生戦略協議会

- ・やまがた創生戦略協議会
- ・教育プログラム開発委員会
- ・協働人材育成部会
- ・若者定着推進部会

#### ② 広報

- ・シンポジウムの開催
- ・「やまがた創生便り」による広報

#### ③ 調査

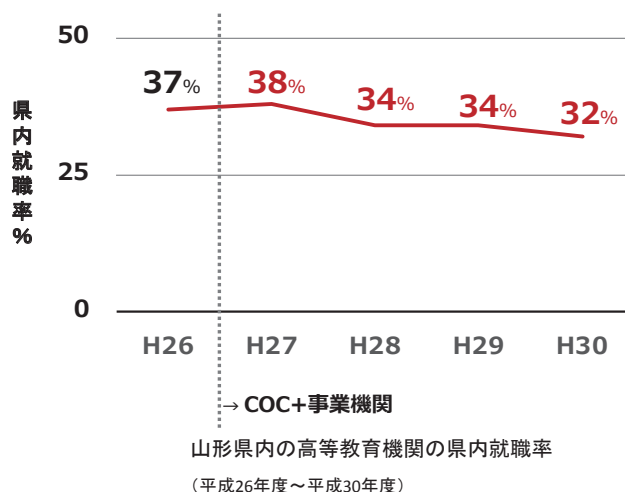
- ・山形大学就職調査
- ・就職意識調査

## 2 事業目標と実績

| 目標と実績<br>目標項目（単位）        | H26  | H27  |     | H28  |     | H29  |     | H30  |     | R1   |
|--------------------------|------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
|                          | 実績   | 実績   | 目標  | 実績   | 目標  | 実績   | 目標  | 実績   | 目標  | 目標   |
| 山形県内企業等就職率（％）            | 36.8 | 38.3 | 37  | 34.3 | 38  | 34.4 | 41  | 32.2 | 43  | 47.4 |
| うち山形大学（％）                | 25   | 28.7 | 25  | 28.8 | 27  | 28.3 | 29  | 26.2 | 32  | 37   |
| 山形県内企業等へのインターンシップ参加者数（人） | 389  | 484  | 400 | 455  | 450 | 534  | 506 | 550  | 657 | 858  |
| うち山形大学（人）                | 166  | 226  | 170 | 222  | 200 | 228  | 250 | 208  | 350 | 500  |
| 寄附講座数（講座）                | 1    | 3    | 1   | 6    | 4   | 9    | 5   | 11   | 6   | 8    |
| うち山形大学（講座）               | 1    | 2    | 1   | 2    | 1   | 2    | 1   | 2    | 2   | 3    |

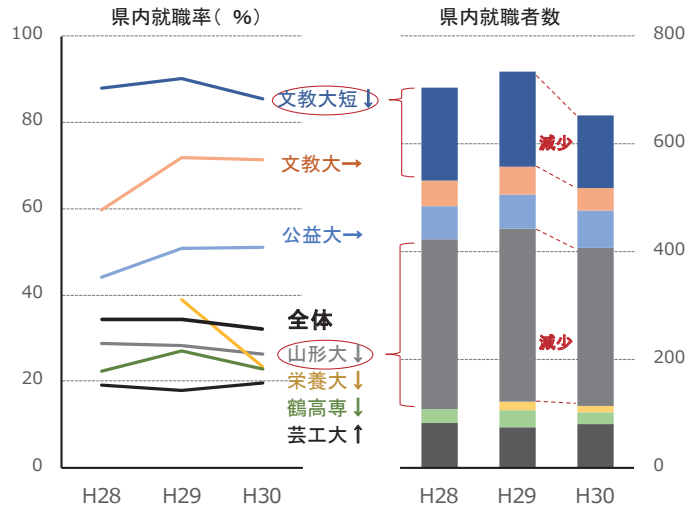
#### 【山形県内企業等就職率】

県内高等教育機関の卒業生の県内就職率の向上へむけて取り組みましたが、残念ながら事業期間を通じて緩やかに低下しました。





各教育機関の変化をみると、平成 29 年度から 30 年度にかけて多くの機関で県内就職率が低下しました。そのなかでも、県内就職者数の多い山形大学および東北文教大学短期大学部での減少が、全体の就職率低下につながったと考えられます。（章末の各校の学部・学科別データも併せて参照）

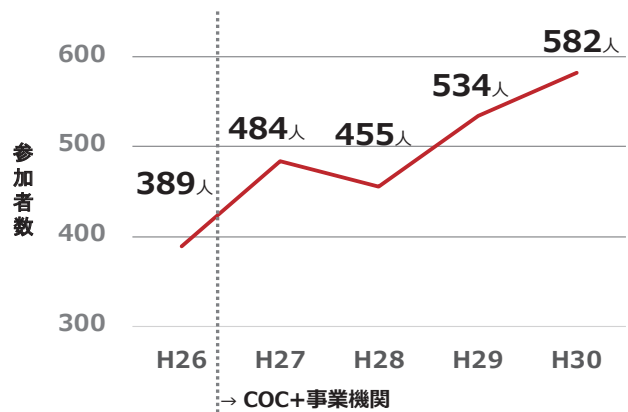


各高等教育機関の県内就職率および県内就職者数  
（平成28年度～平成30年度）

### 【山形県内企業等へのインターンシップ参加者数】

事業期間を通して、県内の企業・自治体でのインターンシップ（就業体験）の機会拡大に取り組み、事業前に比べ参加者数を 1.5 倍近く増加させました。（章末の各機関別のデータも併せて参照）

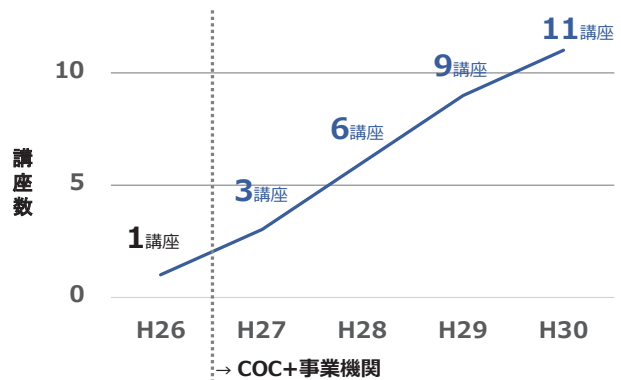
事業協働機関との連携を強化し、受け入れ企業や自治体数を増加させるとともに、県内企業に就職した OB・OG から体験談を直接聞く“キャリア Café”や特徴ある県内企業の魅力を伝える“オーダーメイド工場見学会”を実施しました。



県内インターンシップに参加した学生数  
（平成26年度～平成30年度）

### 【寄附講座数】

さらに、事業協働機関による寄附講座は 11 講座にまで増加し、地域と連携した教育・研究の強化が図られました。（章末の寄附講座の詳細データも併せて参照）



事業協働機関からの寄附講座数  
（平成26年度～平成30年度）

連携教育機関の県内就職者数

| 【山形大学】        |         | (上段:H30. 4. 1現在 下段:H31. 4. 1現在) |             |         |
|---------------|---------|---------------------------------|-------------|---------|
| 学部名等          | 卒業者数(A) | 就職者数(B)                         | うち県内就職者数(C) | 比率(C/B) |
| 人文学部          | 327     | 279                             | 90          | 32.3%   |
|               | 315     | 279                             | 83          | 29.7% ↓ |
| 地域教育文化学部      | 233     | 195                             | 74          | 37.9%   |
|               | 239     | 199                             | 69          | 34.7% ↓ |
| 理学部           | 178     | 91                              | 22          | 24.2%   |
|               | 178     | 93                              | 19          | 20.4% ↓ |
| 医学部           | 196     | 179                             | 74          | 41.3%   |
|               | 192     | 173                             | 68          | 39.3% ↓ |
| 工学部           | 597     | 262                             | 36          | 13.7%   |
|               | 609     | 264                             | 41          | 15.5% ↑ |
| 農学部           | 161     | 125                             | 24          | 19.2%   |
|               | 154     | 116                             | 14          | 12.1% ↓ |
| 計             | 1,692   | 1,131                           | 320         | 28.3%   |
|               | 1,687   | 1,124                           | 294         | 26.2% ↓ |
| 【山形県立米沢栄養大学】  |         |                                 |             |         |
| 学部名等          | 卒業者数(A) | 就職者数(B)                         | うち県内就職者数(C) | 比率(C/B) |
| 健康栄養学部        | 42      | 41                              | 16          | 39.0%   |
|               | 47      | 47                              | 11          | 23.4% ↓ |
| 【鶴岡工業高等専門学校】  |         |                                 |             |         |
| 学部名等          | 卒業者数(A) | 就職者数(B)                         | うち県内就職者数(C) | 比率(C/B) |
| 本科            | 154     | 104                             | 28          | 26.9%   |
|               | 154     | 101                             | 23          | 22.8% ↓ |
| 専攻科           | 20      | 16                              | 4           | 25.0%   |
|               | 22      | 17                              | 3           | 17.6% ↓ |
| 計             | 174     | 120                             | 32          | 26.7%   |
|               | 176     | 118                             | 26          | 22.0% ↓ |
| 【東北公益文科大学】    |         |                                 |             |         |
| 学部名等          | 卒業者数(A) | 就職者数(B)                         | うち県内就職者数(C) | 比率(C/B) |
| 公益学部          | 134     | 128                             | 65          | 50.8%   |
|               | 144     | 133                             | 68          | 51.1% ⇨ |
| 【東北芸術工科大学】    |         |                                 |             |         |
| 学部名等          | 卒業者数(A) | 就職者数(B)                         | うち県内就職者数(C) | 比率(C/B) |
| 芸術学部          | 229     | 179                             | 41          | 22.9%   |
|               | 199     | 149                             | 31          | 20.8% ↓ |
| デザイン工学部       | 282     | 266                             | 41          | 15.4%   |
|               | 274     | 257                             | 49          | 19.1% ↑ |
| 計             | 511     | 445                             | 82          | 18.4%   |
|               | 473     | 406                             | 80          | 19.7% ↑ |
| 【東北文教大学】      |         |                                 |             |         |
| 学部名等          | 卒業者数(A) | 就職者数(B)                         | うち県内就職者数(C) | 比率(C/B) |
| 人間科学部         | 73      | 71                              | 51          | 71.8%   |
|               | 65      | 59                              | 42          | 71.2% ⇨ |
| 【東北文教大学短期大学部】 |         |                                 |             |         |
| 学部名等          | 卒業者数(A) | 就職者数(B)                         | うち県内就職者数(C) | 比率(C/B) |
| 3学科計          | 202     | 192                             | 173         | 90.1%   |
|               | 174     | 157                             | 134         | 85.4% ↓ |
| 【合 計】         |         |                                 |             |         |
| 区 分           | 卒業者数(A) | 就職者数(B)                         | うち県内就職者数(C) | 比率(C/B) |
| H29. 4. 1現在   | 2,828   | 2,128                           | 739         | 34.7%   |
| H30. 4. 1現在   | 2,766   | 2,044                           | 655         | 32.0% ↓ |



連携教育機関の県内インターンシップ参加者数

| 大学等名        | 平26 | 平成27年度 |     | 平成28年度 |     | 平成29年度 |     | 平成30年度 |     | 令和元年度 |    |
|-------------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|-------|----|
|             | 実績  | 目標     | 実績  | 目標     | 実績  | 目標     | 実績  | 目標     | 実績  | 目標    | 実績 |
| 山形大学        | 166 | 170    | 226 | 200    | 222 | 250    | 228 | 350    | 208 | 500   | －  |
| 山形県立米沢栄養大学  |     |        |     | 2      | 8   | 2      | 13  | 2      | 0   | 5     | －  |
| 鶴岡工業高等専門学校  | 127 | 130    | 38  | 140    | 33  | 140    | 32  | 145    | 24  | 150   | －  |
| 東北公益文科大学    | 92  | 94     | 101 | 100    | 82  | 100    | 112 | 142    | 106 | 180   | －  |
| 東北芸術工科大学    |     |        |     | 5      | 8   | 6      | 17  | 7      | 109 | 8     | －  |
| 東北文教大学      | 0   | 1      | 85  | 1      | 52  | 1      | 66  | 3      | 72  | 5     | －  |
| 東北文教大学短期大学部 | 4   | 5      | 34  | 7      | 50  | 7      | 66  | 8      | 63  | 10    | －  |
| 計           | 389 | 400    | 484 | 455    | 455 | 506    | 534 | 657    | 582 | 858   | －  |

連携教育機関の寄附講座数

| 大学等名        | 平26 | 平成27年度 |    | 平成28年度 |    | 平成29年度 |    | 平成30年度 |    | 令和元年度 |    |
|-------------|-----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|-------|----|
|             | 実績  | 目標     | 実績 | 目標     | 実績 | 目標     | 実績 | 目標     | 実績 | 目標    | 実績 |
| 山形大学        | 1   | 1      | 2  | 1      | 2  | 1      | 2  | 2      | 2  | 3     | －  |
| 山形県立米沢栄養大学  |     |        |    | 0      | 0  | 0      | 0  | 0      | 0  | 0     | －  |
| 鶴岡工業高等専門学校  | 0   | 0      | 0  | 0      | 0  | 0      | 0  | 0      | 0  | 1     | －  |
| 東北公益文科大学    | 0   | 0      | 1  | 0      | 1  | 0      | 2  | 0      | 2  | 0     | －  |
| 東北芸術工科大学    |     |        |    | 3      | 3  | 4      | 5  | 4      | 7  | 4     | －  |
| 東北文教大学      | 0   | 0      | 0  | 0      | 0  | 0      | 0  | 0      | 0  | 0     | －  |
| 東北文教大学短期大学部 | 0   | 0      | 0  | 0      | 0  | 0      | 0  | 0      | 0  | 0     | －  |
| 計           | 1   | 1      | 3  | 4      | 6  | 5      | 9  | 6      | 11 | 8     | －  |

### 3 地域創生カリキュラムの実施と教育効果の検証

山形大学ではCOC+の責任学部である地域教育文化学部をモデルに「地域創生カリキュラム」を展開している。そこでは、平成30年度から定められた地域連携に関する科目を9科目:18単位(必修3科目:6単位、選択6科目:12単位)以上を履修して単位を取得した学生に履修認定証を与え、地域貢献の実践力を高める学びを深めたことを大学として認めている。

#### 【地域創生カリキュラム科目一覧】

|           | 開講時期 | 科目区分 | 授業科目                | 授業形式 | 開講単位 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | 3年前期 | 3年後期 |
|-----------|------|------|---------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 地域創生・必修科目 | 1年   | 基幹科目 | 「山形から考える」科目群        | -    | 2    | 2    |      |      |      |      |      |
|           | 3年前期 | 中心科目 | フィールドプロジェクト         | 実習   | 2    |      |      |      |      | 集中   |      |
|           | 3年前期 | 発展科目 | 社会体験(インターンシップ)      | 実習   | 2    |      |      |      |      | 集中   |      |
| 地域創生・選択科目 | 1年前期 | 基礎科目 | 地域芸術文化実践論           | 講義   | 2    | 2    |      |      |      |      |      |
|           |      | 基礎科目 | 心身健康支援実践論           | 講義   | 2    | 2    |      |      |      |      |      |
|           | 1年後期 | 基礎科目 | ライフステージとスポーツ        | 講義   | 2    | 2    |      |      |      |      |      |
|           |      | 基礎科目 | 食と健康                | 講義   | 2    | 2    |      |      |      |      |      |
|           | 2年前期 | 基礎科目 | ライフステージと食           | 講義   | 2    |      |      | 2    |      |      |      |
|           |      | 基礎科目 | 食育論                 | 講義   | 2    |      |      | 2    |      |      |      |
|           |      | 基礎科目 | 社会教育論               | 講義   | 2    |      |      | 2    |      |      |      |
|           | 2年後期 | 基礎科目 | 地域文化創生演習            | 演習   | 2    |      |      | 2    |      |      |      |
|           |      | 専門科目 | 舞台表現演習              | 演習   | 2    |      |      | 2    |      |      |      |
|           |      | 専門科目 | 衛生・公衆衛生学            | 講義   | 2    |      |      | 2    |      |      |      |
|           |      | 専門科目 | 食と疾病                | 講義   | 2    |      |      | 2    |      |      |      |
|           |      | 中心科目 | 地域社会とファシリテーション      | 講義   | 2    |      |      | 2    |      |      |      |
|           |      | 中心科目 | 生涯学習論               | 講義   | 2    |      |      | 2    |      |      |      |
|           |      | 発展科目 | キャリア教育              | 演習   | 2    |      |      | 2    |      |      |      |
|           |      | 基礎科目 | 芸術アウトリーチ基礎          | 講義   | 2    |      |      | 集中   |      |      |      |
|           |      | 専門科目 | 地域ファシリテート実践論(芸術文化)  | 講義   | 2    |      |      |      |      | 2    |      |
|           |      | 専門科目 | 武道文化論               | 講義   | 2    |      |      |      |      | 2    |      |
|           | 3年後期 | 専門科目 | 地域ファシリテート実践演習(芸術文化) | 演習   | 2    |      |      |      |      | 2    |      |
|           |      | 専門科目 | コミュニティ心理学           | 講義   | 2    |      |      |      |      | 2    |      |
|           |      | 専門科目 | スポーツマネジメント          | 講義   | 2    |      |      |      |      | 2    |      |

地域創生・必修科目:本履修認定にあたり必修とする。

地域創生・選択科目:6科目以上履修し12単位以上の取得が求められる。

カリキュラムでは、基盤教育課程の「山形から考える」科目および地域教育文化学部3年次のフィールドプロジェクト(地域体験型科目)や社会体験(インターンシップ科目)を必修科目とし、地域教育文化学部・文化創生コースの既存科目を中心に選択科目を展開している。

#### 【履修状況】

平成29年度以降に入学した地域教育文化学部・文化創生コースの学生が対象となっている。今年度開始時までの履修状況を次頁の表にまとめた。

| 科目区分 授業科目 |      |      |                     | H30履修者  | H29履修者  |
|-----------|------|------|---------------------|---------|---------|
| 地域創生・必修科目 | 1年   | 基幹科目 | 「山形から考える」科目群        | 必修 (96) | 必修 (95) |
|           | 3年前期 | 中心科目 | フィールドプロジェクト         | -       | -       |
|           | 3年前期 | 発展科目 | 社会体験（インターンシップ）      | -       | -       |
|           |      |      |                     | H30履修者  | H29履修者  |
| 地域創生・選択科目 | 1年前期 | 基礎科目 | 地域芸術文化実践論           | 97      | 95      |
|           |      | 基礎科目 | 心身健康支援実践論           | 96      | 95      |
|           | 1年後期 | 基礎科目 | ライフステージとスポーツ        | 52      | 45      |
|           |      | 基礎科目 | 食と健康                | 42      | 15      |
|           | 2年前期 | 基礎科目 | ライフステージと食           | 66      | -       |
|           |      | 基礎科目 | 食育論                 | 42      | -       |
|           |      | 基礎科目 | 社会教育論               | 19      | -       |
|           | 2年後期 | 基礎科目 | 地域文化創生演習            | 18      | -       |
|           |      | 専門科目 | 舞台表現演習              | 23      | -       |
|           |      | 専門科目 | 衛生・公衆衛生学            | 55      | -       |
|           |      | 専門科目 | 食と疾病                | 37      | -       |
|           |      | 中心科目 | 地域社会とファシリテーション      | 55      | -       |
|           |      | 中心科目 | 生涯学習論               | 22      | -       |
|           |      | 発展科目 | キャリア教育              | 31      | -       |
|           |      | 基礎科目 | 芸術アウトリーチ基礎          | 23      | -       |
|           | 3年前期 | 専門科目 | 地域ファシリテート実践論（芸術文化）  | -       | -       |
|           |      | 専門科目 | 武道文化論               | -       | -       |
|           | 3年後期 | 専門科目 | 地域ファシリテート実践演習（芸術文化） | -       | -       |
|           |      | 専門科目 | コミュニティ心理学           | -       | -       |
|           |      | 専門科目 | スポーツマネジメント          | -       | -       |

対象コースの平成 29 年度入学生：95 人、平成 30 年度入学者：96 人

多くの科目で、一定程度の履修者が見られており、来年度には地域創生カリキュラムの履修認定を希望する学生が現れるものと期待される。

### 【教育効果の測定】

地域創生・必修科目「山形から考える」科目群（COC＋コーディネーターが中心となって開講している以下の科目）および「フィールドプロジェクト」を対象に教育効果の測定を行った。

#### ●山形から考える科目

- 1) 体験型科目：山形の森づくり体験・地域のにぎわいづくり体験・雪とともに生きる体験
- 2) 混合型科目：地域体験スタートアップ

#### ●3) 体験型科目：フィールドプロジェクト（11 プロジェクト）



## 科目内容

### 1) 体験型科目：山形の森づくり体験（対象：1年次）

#### 【授業概要】

山形の豊かな森を体験的に学習することを目的に、森林保全活動「ND ソフト・こもればの郷プロジェクト」に参加し、下草刈りや歩道敷設などの森林整備作業を行った。そして、社員の方々とグループで作業することを通じて、組織で活動する際に必要なコミュニケーション力や、自ら作業を見つけて出す行動力の育成を図った。



### 1) 体験型科目：地域のにぎわいづくり体験（対象：1年次）

#### 【授業概要】

柏倉にぎわいづくりネットワークが主催する行事の運営に参加し、地域の文化や魅力とそれらを活用したまちづくりを体験した。「干柿まつり」では、柏倉地区で収穫されていない柿を利用し、七日町の商業施設を干柿で彩る活動を行った。「柏倉ぼんぼりまつり」では、御柴灯の会場をキャンドルや雪灯籠の灯りで彩り、地域の伝統行事を盛り上げる活動を行った。これらを通じて、年長者から進んで学ぶ積極性、グループの中で効率的に活動する行動力などの向上にも努めた。



### 1) 体験型科目：雪とともに生きる体験（対象：1年次）

#### 【授業概要】

豪雪地である尾花沢で、雪の実態と生活のご苦労にふれながら、そこから生まれた知恵・文化・楽しさを学んだ。降雪前の体験では雪に備える生活を中心に学び、指導いただいた技術で地域施設の冬支度を行った。降雪期の授業では、基本技術と安全についてご指導いただいた後、公民館の除雪を行った。これらの活動を通じて、共助により生活を支え合う尾花沢の方々のつながりにふれると共に、

年長の方々から積極的に習う姿勢や安全に配慮しながら共同で作業を行うことを経験した。



## 2) 混合型科目：地域体験スタートアップ（対象：1年次）

### 【授業概要】

地域に関連する講義（12回）+地域体験（1日程度）を行った。

1) 講義：地域の現状と課題、山形の魅力を専門の異なる教員のリレー形式により実施した。

2) 地域体験：4～5名のグループにわかれ、小白川キャンパス周辺の地域活動に参加した。

日本及び山形の現状と課題、山形固有の魅力を講義で学びつつ、地域活動を通じて地域の現状を体験的に理解することを目的とした。



## 3) 体験型科目：フィールドプロジェクト（民話語り部体験）（対象：3年次）

### 【授業概要】

このプロジェクトでは①鶴の恩返しの舞台である山形県南陽市で語り継がれてきた民話を語り部の方々からご指導を受けて学習し、②憶えた民話を山形市の学童保育で子どもたちに語り聞かせる。①民話学習を通じて山形の伝統文化や歴史を体験的に学んだ。さらに、年長者から進んで学ぶ積極性や自身の成長につなげる柔軟性などのコミュニケーション力の育成を図った。②民話語りでは子どもたちを楽しませる表現力や企画力、さらにメンバーと協力するチームワーク力の向上をはかった。このように、山形の魅力にふれながら、社会人として求められる能力の向上を目的とした。



## 調査方法

### (1) 社会人力調査

社会人力の変化を捉えるため、従来用いられてきた学生の主観による評価（例：五件法）に代わり、地域系科目に共通する能力要素具体的な行動指標から判断する客観的評価法（ルーブリック：本章末の社会人力自己点検表を参照）を作成した。

### (2) 就労希望地調査

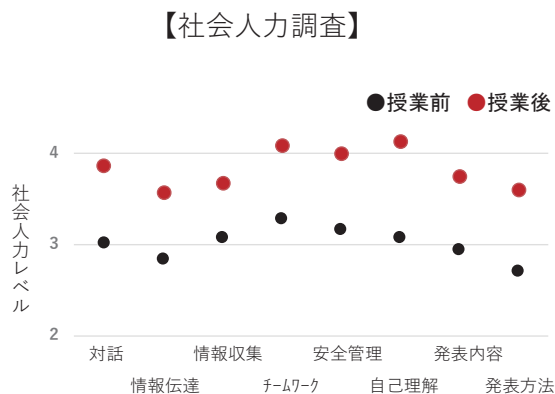
地域志向性の変化を捉えるため、将来就労を希望する場所を 6 項目（山形県・自身の地元・仙台圏・首都圏・他の大都市圏・未定）から選択する就労希望地調査を行った。

## 調査結果

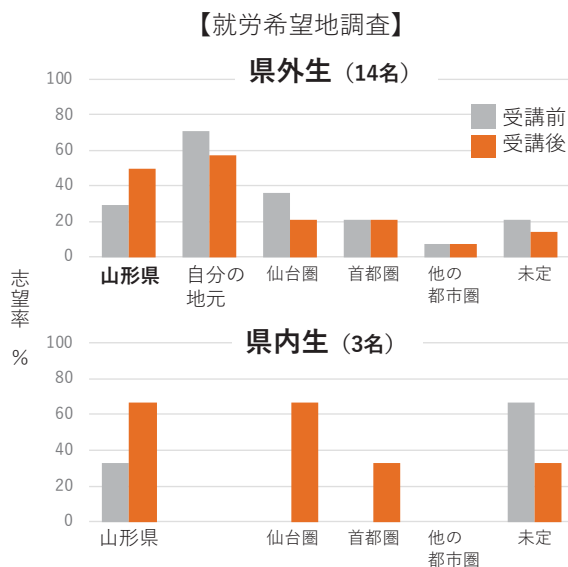
### 1) 体験型科目：山形の森づくり体験・地域のにぎわいづくり体験・雪とともに生きる体験

受講前後で社会人力に変化が見られており、調査した 8 つの社会人力要素の全てが向上していた。

就労地希望も変化しており、県外出身の学生のうち山形県への就労を希望した割合が増加していた。受講者は少ないが、県内出身者においても山形県への就労希望の増加が見られた。



**社会人力が向上**



**県外生の山形への就労志向が高まる。**

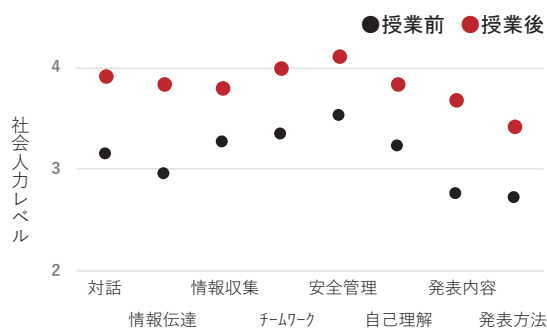
### 2) 混合型科目：地域体験スタートアップ

受講前後で社会人力に変化が見られており、調査した 8 つの社会人力要素の全てが受講によって向上していた。

就労地希望も変化しており、県外出身の学生のうち山形県への就労を希望した割合が増加していた。また、自身の地元への就職を希望する学生の割合も増加していた。県内出身者の山形県への就労希望には変化が見られなかったが、受講前に既に 60% と高い割合であったことが起因していると思われる。

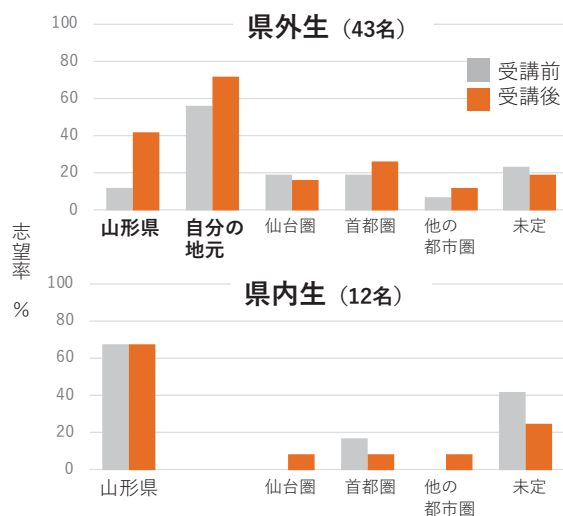


【社会人力調査】



社会人力が向上

【就労希望地調査】



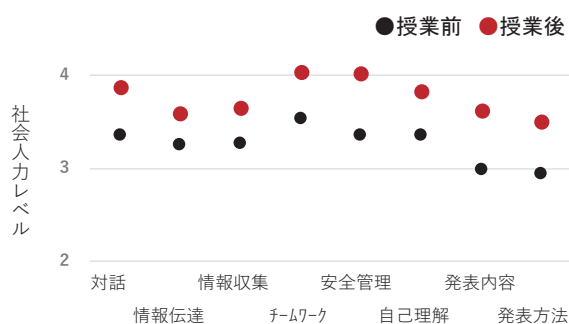
県外生の山形・地元への就労志向が高まる。

### 3) 体験型科目：フィールドプロジェクト

調査した 8 つの社会人力要素の全てが受講によって向上していた。

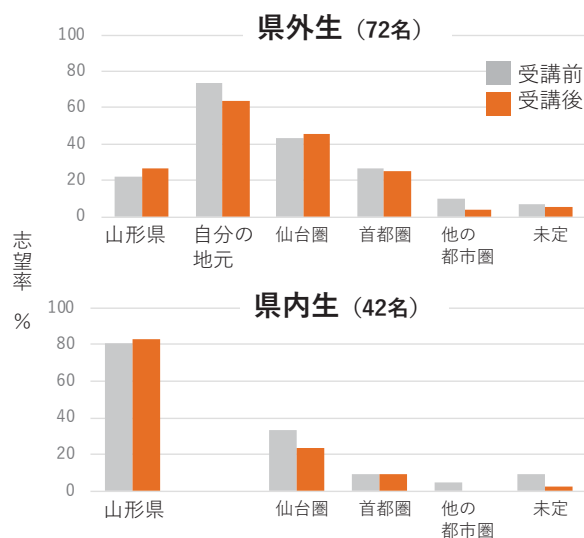
県外出身、県内出身の学生ともに就労希望地に受講前後で大きな変化は見られなかった。

【社会人力調査】



社会人力が向上

【就労希望地調査】



就労地志向に大きな変化なし

### まとめ

地域創生カリキュラムの地域創生・必修科目から 3 タイプの科目を選択し、教育効果を測定した。その結果、地域で活躍するために必要な社会人力の育成につながる学習効果は、科目内容や学年に関わらず、どの科目でも確認できた。



一方で、受講による就労希望地の変化は、1年次の科目で見られており、県外出身者の山形および自身の地元への志向が高まる結果が確認された。しかしながら、3年次の科目ではこのような変化は見られなかった。

これらより、社会人力の育成は科目内容や学年によらず一貫して効果が期待されるが、地域志向性の醸成効果は学年により効果に差が見られており、カリキュラムにおける科目配置に留意する必要があることが示唆された。

| 科目   | 学年 | 形式          | 社会人力 | 希望就労地            |
|------|----|-------------|------|------------------|
| ①体験型 | 1年 | 現地学習        | 向上   | 県外生が<br>山形志向に    |
| ②混合型 | 1年 | 講義+<br>現地学習 | 向上   | 県外生が<br>山形・地元志向に |
| ③体験型 | 3年 | 現地学習        | 向上   | 変化なし             |

社会人力自己点検表

|                  |      | 能力      | 行動内容               | 5(理想的)                                                                           | 4(よくてきる)                                                                              | 3(できる)                                                                    | 2(ややできる)                                                                      | 1(努力を要する)                                                             |
|------------------|------|---------|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| コミュニケーション<br>シヨク | 対話   | 協調性     | 相手との関係を良好に保つ。      | 冗談を交えるなど、相手とあなた自身が楽しく会話でき、 <u>関係を続けたいと感じる良好な関係を常に作りだせる。</u>                      | 相づち、目線、語句などを相手に応じ適切に変化させ、 <u>誰でも多くの場面で良好な関係を作りだせる。</u>                                | <u>誰でも会話ができ、問題ない関係を作り出せる。</u>                                             | 会話はできるが、 <u>あいさつ、言葉使い、内容（タフナー）など</u> が不適切で、 <u>良好な関係を</u> 作り出せない。             | 自分から話しかけることができず、 <u>話しかけられても答えられず、会話ができない。</u>                        |
|                  | 情報伝達 | 発信力     | 自分から情報を個人へ伝える。     | 右記に加え、必要に応じて発言する内容や順序を変化させ相手の理解を助けるなど、 <u>説得力のある伝達が行える。</u>                      | 相手の状況（年齢・状態）に合わせた表現により、 <u>スムーズに自分の意図を伝えることができる。</u>                                  | 相手に応じた発信とはいえないが、（相手が汲み取ることににより） <u>内容を理解させられる。</u>                        | 話すことはできるが、 <u>一方的な発言で、相手の理解は充分でない。</u>                                        | うまく話すことができず、 <u>相手に伝えることが全くできない。</u>                                  |
|                  | 情報収集 | 理解力     | 相手から情報を得る。         | 右記に加えて、新たな視点を付加するなど話題を展開・発展させ、 <u>相手から必要以上の情報を得ることができ</u> る。                     | 相手とのスムーズなやり取りにより、 <u>滞り無く情報を得ることができ</u> る。さらに、 <u>付加的な情報を拾うことができる。</u>                | 相手との適切なやり取りにより、 <u>目的とする情報を得ることができ</u> る。一度で難しい場合、会話の中で修正しながら進めることができる。   | 相手の返答が理解できず、 <u>会話から目的とする情報が得にくい。</u>                                         | 相手に自分の目的を伝えることができない <u>い</u> や相手の発言が全く理解できず、 <u>会話から情報を得ることができない。</u> |
| チームワーク           |      | 協調性     | 他人と協働で活動する。        | 右記に加えて、各人が全体を把握し、 <u>客観的な視点から相互作用的な協働作業ができる。</u>                                 | 各人に役割が分担されるが、必要に応じて <u>他者の活動を補助し、総和を越える成果を上げる</u> ことができる。                             | チームで活動ができる。しかし、 <u>個々人の活動の集合となってしまう。</u>                                  | チームでの活動はあるが、 <u>効率が悪い</u> orメンバー間で活動が重複するなど、 <u>分担が上手くない。</u>                 | 各自が独りで活動し、 <u>チームでの活動が全くない。</u>                                       |
| 安全管理             |      | 注意力・想像力 | 安全に作業を行う。          | 周辺環境に充分な注意を払い、 <u>事故が起こる可能性を極力低くする</u> ように努めることができる。                             | 幾つかの“潜在的な失敗”に気づくことができ、 <u>事故を未然に防ぐ</u> ことができる。                                        | 周辺環境や安全に対し配慮でき、 <u>事故をおこすこと</u> はない。                                      | 周辺環境や自分の状態など安全に対し多少配慮でき、 <u>その結果、事故は起きるが怪我を</u> することはない。（ニアミスを認識）             | 周辺環境や自分の状態など安全に対して意識を向けることができず、 <u>結果として怪我を</u> してしまう。                |
| 自己理解             |      | 客観性・分析力 | 活動を通じて、自己の特性を理解する。 | 右記に加えて、経験の中から自己の興味や実感に繋がる要素を感じ取り、 <u>それを通じて自分の特性を深く理解する。</u>                     | 活動内で多くの役割を積極的に経験し、 <u>自分の得手と不得手を理解</u> することができる。                                      | 活動を通じて、 <u>自分の興味や得手を理解</u> することができる。                                      | 自分の興味を知ることができ <u>る</u> が、 <u>実際の活動を通じて自分の得手・不得手について理解</u> することはできない。          | 活動することとどにより、 <u>自己の興味・特性を意識</u> することが全くできない。                          |
| プレゼンテーション        | 発表内容 | 発信力     | 複数の人間に情報を発信（発表）する。 | 右記に加えて、 <u>表現の工夫がなされ、多くの聴衆の興味と関心を引き出す</u> ことができる。その結果として、 <u>活発な質問が寄せられる。</u>    | 「まじめ」や「強調」など <u>適切な表現を整理し</u> わかりやすく伝える工夫ができる。より深い内容を理解させるための論理的展開も <u>しっかりとっている。</u> | <u>情報を整理し内容を伝えることができる</u> 。しかし、 <u>論理的展開が少なく、内容が表面的な伝達になっている。</u>         | 必要な情報は伝えられるが、 <u>「まじめ」や「強調」など情報整理の工夫に</u> 欠け、 <u>情報の羅列</u> となっている。            | 情報を解りやすく表現できず、（それを補う追加情報も発表に盛り込まれず）、 <u>聴衆が全く理解できない。</u>              |
|                  | 発表方法 | 発信力・表現力 | 複数の人間に情報を発信（発表）する。 | 右記に加え、聴衆の反応を感じ取り、 <u>口調やスピードを変化させ、聴衆の理解を高める</u> ことができる。その結果、 <u>活発な質問が寄せられる。</u> | <u>原稿を見ずに表現力のある発表を行い、聴衆を惹きつける</u> ことができる。                                             | <u>準備した原稿頼りに発表し、聴衆に情報を伝える</u> ことができる。しかし、 <u>表現に工夫はなく、一方的な発信</u> になってしまう。 | <u>準備した原稿を読み上げる</u> こととどであるが、 <u>時間配分や聴衆の反応を</u> 気にし、 <u>内容を変化</u> させることができる。 | 人前で話すことができない。また、それを補完する手段も不完全である。                                     |

## 4 地域志向科目授業推進（バス等借り上げ助成）

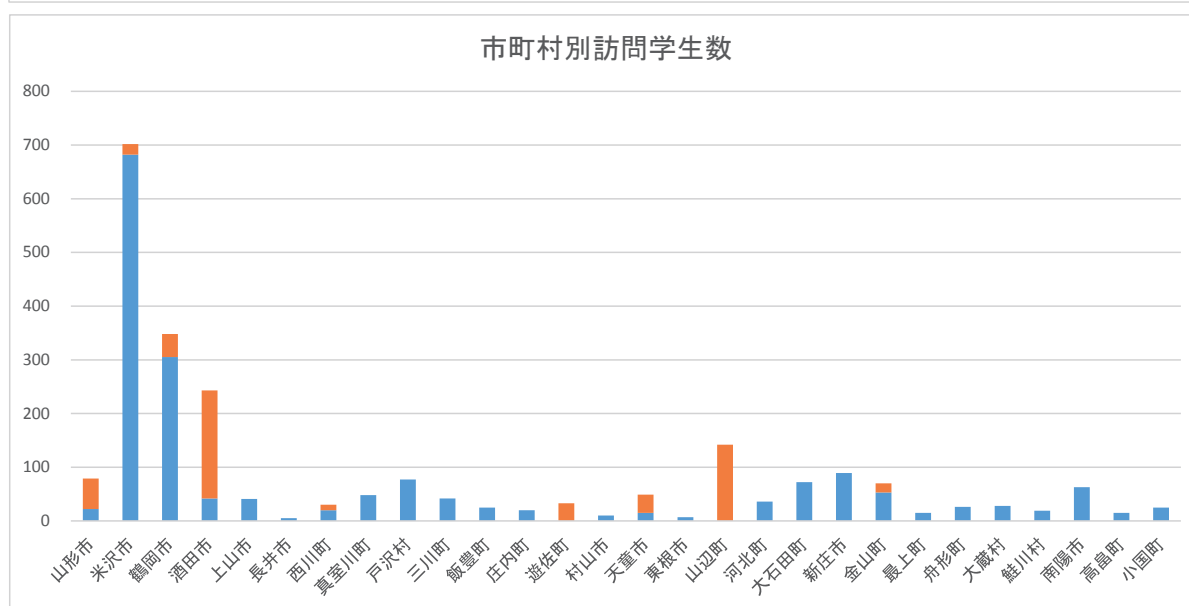
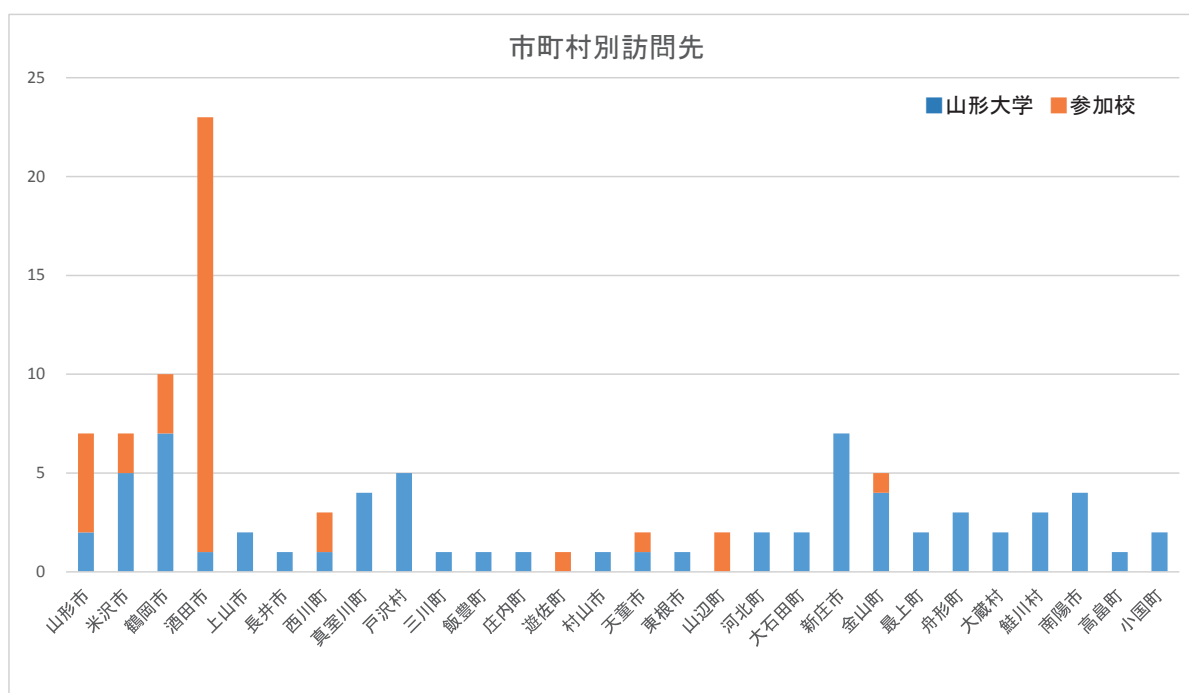
地域志向科目は、地域魅力の理解、アクティブラーニング等授業効果が高いことから、COC事業から力を入れて取り組んできた。本事業でも、その授業推進のために学生の地域への移動を支援するバス等借り上げ助成を継続し、令和元年度は、28市町村で実施された科目や活動に約2400人の学生が参加した。

○市町村別訪問先

| 市町村  | 件数  |       |         |       |        | 計   |
|------|-----|-------|---------|-------|--------|-----|
|      | 山形大 | 米沢栄養大 | 東北公益文科大 | 東北文教大 | 東北文教短大 |     |
| 山形市  | 2   | 2     | 3       |       |        | 7   |
| 米沢市  | 5   | 1     |         |       | 1      | 7   |
| 鶴岡市  | 7   |       | 3       |       |        | 10  |
| 酒田市  | 1   |       | 22      |       |        | 23  |
| 上山市  | 2   |       |         |       |        | 2   |
| 長井市  | 1   |       |         |       |        | 1   |
| 西川町  | 1   |       |         | 1     | 1      | 3   |
| 真室川町 | 4   |       |         |       |        | 4   |
| 戸沢村  | 5   |       |         |       |        | 5   |
| 飯豊町  | 1   |       |         |       |        | 1   |
| 三川町  | 1   |       |         |       |        | 1   |
| 庄内町  | 1   |       |         |       |        | 1   |
| 遊佐町  | 0   |       | 1       |       |        | 1   |
| 寒河江市 | 0   |       |         |       |        | 0   |
| 村山市  | 1   |       |         |       |        | 1   |
| 天童市  | 1   |       |         | 1     |        | 2   |
| 東根市  | 1   |       |         |       |        | 1   |
| 尾花沢市 | 0   |       |         |       |        | 0   |
| 山辺町  | 0   |       |         | 2     |        | 2   |
| 中山町  | 0   |       |         |       |        | 0   |
| 河北町  | 2   |       |         |       |        | 2   |
| 大石田町 | 2   |       |         |       |        | 2   |
| 新庄市  | 7   |       |         |       |        | 7   |
| 金山町  | 4   |       |         |       | 1      | 5   |
| 最上町  | 2   |       |         |       |        | 2   |
| 舟形町  | 3   |       |         |       |        | 3   |
| 大蔵村  | 2   |       |         |       |        | 2   |
| 鮭川村  | 3   |       |         |       |        | 3   |
| 南陽市  | 4   |       |         |       |        | 4   |
| 高畠町  | 1   |       |         |       |        | 1   |
| 白鷹町  | 0   |       |         |       |        | 0   |
| 小国町  | 2   |       |         |       |        | 2   |
| 合計   | 66  | 3     | 29      | 4     | 3      | 105 |

○市町村別訪問学生数（延べ人数）

| 市町村  | 件数   |       |         |       |        | 計     |
|------|------|-------|---------|-------|--------|-------|
|      | 山形大  | 米沢栄養大 | 東北公益文科大 | 東北文教大 | 東北文教短大 |       |
| 山形市  | 22   | 16    | 41      |       |        | 79    |
| 米沢市  | 682  | 7     |         |       | 13     | 702   |
| 鶴岡市  | 305  |       | 43      |       |        | 348   |
| 酒田市  | 42   |       | 201     |       |        | 243   |
| 上山市  | 41   |       |         |       |        | 41    |
| 長井市  | 5    |       |         |       |        | 5     |
| 西川町  | 20   |       |         | 7     | 3      | 30    |
| 真室川町 | 48   |       |         |       |        | 48    |
| 戸沢村  | 77   |       |         |       |        | 77    |
| 飯豊町  | 25   |       |         |       |        | 25    |
| 三川町  | 42   |       |         |       |        | 42    |
| 庄内町  | 20   |       |         |       |        | 20    |
| 遊佐町  | 0    |       | 33      |       |        | 33    |
| 寒河江市 | 0    |       |         |       |        | 0     |
| 村山市  | 10   |       |         |       |        | 10    |
| 天童市  | 15   |       |         | 34    |        | 49    |
| 東根市  | 7    |       |         |       |        | 7     |
| 尾花沢市 | 0    |       |         |       |        | 0     |
| 山辺町  | 0    |       |         | 142   |        | 142   |
| 中山町  | 0    |       |         |       |        | 0     |
| 河北町  | 36   |       |         |       |        | 36    |
| 大石田町 | 72   |       |         |       |        | 72    |
| 新庄市  | 89   |       |         |       |        | 89    |
| 金山町  | 53   |       |         |       | 17     | 70    |
| 最上町  | 15   |       |         |       |        | 15    |
| 舟形町  | 26   |       |         |       |        | 26    |
| 大蔵村  | 28   |       |         |       |        | 28    |
| 鮭川村  | 19   |       |         |       |        | 19    |
| 南陽市  | 63   |       |         |       |        | 63    |
| 高畠町  | 15   |       |         |       |        | 15    |
| 白鷹町  | 0    |       |         |       |        | 0     |
| 小国町  | 25   |       |         |       |        | 25    |
| 合計   | 1802 | 23    | 318     | 183   | 33     | 2,359 |





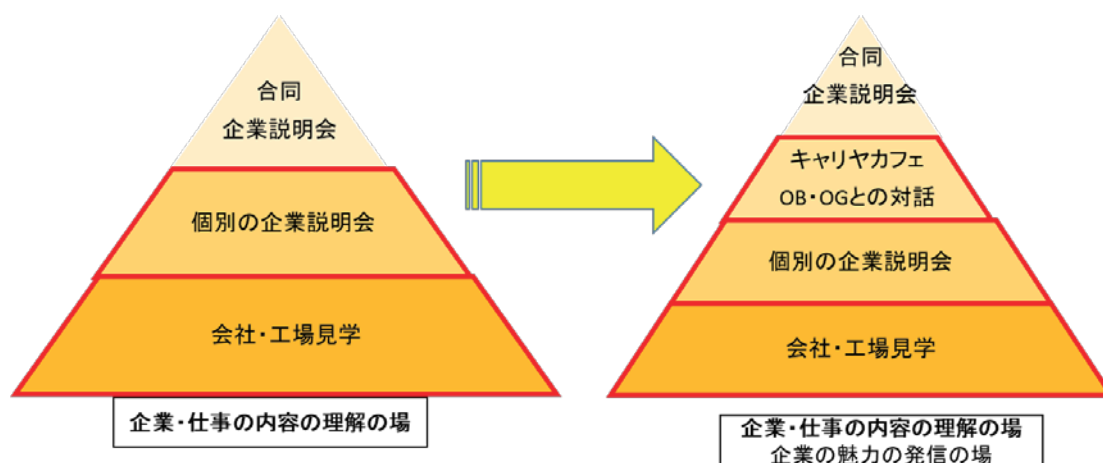
## 5 地元企業の魅力発信（キャリア Café）

—学生に県内企業の魅力を知らせる機会を増やす—

### 1. キャリア Café の必要性

山形大学の卒業生全体の県内定着率は27～28%であるのに対し、農学部および工学部の学生の県内定着率は15～16%程度と他学部比べて顕著に低い。県内に定着して活躍する人材を確保するためには、学生に地元企業の魅力を伝え、地域企業を見直す場を構築することが必要である。従来、山形大学ではキャリアカフェは行われてきたが、県内企業が対象というより、企業研究のような形態で大手企業の中に地元企業加わる規模のものであり、多くの県内企業の良さや魅力を学生に直接伝える機会はほとんどなかった。

山形県内のものづくり企業の魅力を伝えるために、県内の企業の採用担当者からではなく、若手のOB・OGが学生に対して直接対話をする場として、工学部および農学部で「キャリア Café」を実施した。



(a) 採用担当者から会社の説明を受ける（従来）

(b) OB から地元で働く意義を学ぶ

図1 キャリア Café の位置づけ

### 2. 3年間の Café の実施状況

工学部の卒業生が在籍する県内企業 75 社を個別に訪問し、採用担当者との面談を行って工学部サポート登録とキャリア Café への山形大学の20～30歳代のOB・OGの派遣を依頼した。山形大学OBが在籍していない企業の場合には他大学のOBでも派遣してもらうこととした。2018年度からは、山形大学校友会の支援を受けてCOC+推進室が工学部および農学部の学務担当職員、株式会社マイナビの担当者と連携して実施した。

2017年度には、工学部でキャリア Café を2回実施し、学生に対してものづくり企業の魅力を発信する場となるだけでなく、OB・OGの助言により、学生の就職活動における不安を解消する場にもなっていることが

表1 2017～2019年度キャリア Café の実施状況

| 開催年度 | 工学部                |             |       | 農学部                |       |       |
|------|--------------------|-------------|-------|--------------------|-------|-------|
|      | 月日                 | 企業（社）       | 学生（名） | 月日                 | 企業（社） | 学生（名） |
| 2017 | 12月13日 16:15-18:00 | 15          | 15    |                    |       |       |
|      | 2月16日 13:00-16:20  | 23          | 25    |                    |       |       |
| 2018 | 11月22日 16:00-17:30 | 9           | 9     |                    |       |       |
|      | 12月13日 16:00-17:30 | 13          | 19    | 12月14日 16:00-17:30 | 5     | 19    |
|      | 2月13日 13:00-16:00  | 23          | 22    | 2月15日 13:00-15:00  | 5     | 12    |
|      | 情報交換会 16:00-17:30  | (1・2回の参加企業) |       | 情報交換会 15:00-16:30  |       |       |
| 2019 | 12月10日 14:40-17:10 | 12          | 17    |                    |       |       |
|      | 情報交換会 17:10-18:00  | (機械化学材料系)   |       |                    |       |       |
|      | 1月21日 14:40-17:10  | 10          | 7     | 1月23日 16:10-17:10  | 5     | 11    |
|      | 情報交換会 17:10-18:00  | (電機電子情報系)   |       | 情報交換会 17:10-18:00  |       |       |



「地元の企業について知ることができたので良かった。来てくださった方達に気軽に質問することができ色々な話を聞くことができました」、「今まで知らなかった多くの企業について知ることができました」など、キャリア Café の本来の目的に沿った感想も見られた。

OB・OG からの感想でも、「和気あいあいとした雰囲気でしたし、学生からの質問もたくさんあったため楽しく参加できました」、「カフェスタイルによって気持ちに垣根なく話せたのはよかった。あのようになり上がるのであれば、時間を延ばしてもいいのではないかと思います」、「学生にも企業側にも利点が多いよいイベントだと思う」、「学生の頃を思い出して、初心に帰る機会になったので参加して良かったと思います」など有意義な時間を過ごしていることがうかがえる。

人事担当者からは、「人事担当者間での情報交換や先生との話ができ」、「当社を知ってもらう機会となり満足しています」、「他社の人材担当の考え意見を聞くことが出来ました」、「本来の趣旨通りの運営がされたと思います」と肯定的で、人事担当者用のテーブルを別に設けたこともよい評価がされている。



(a) OB・OG と語る



(b) OB は語る



(c) 人事担当者同士で情報交換



(d) 終了後は情報交換会

図3 2019年度工学部第1回キャリアCafé（4号館2階ゼミ室1,2）



(c) 人事担当者は情報交換



(d) 終了後は情報交換会

図4 2019年度工学部第2回キャリアCafé（百周年記念会館セミナー室）



## 2019 年度キャリア Café への参加企業(五十音順)

### 【工学部 22 社】

アイジー工業、ASE ジャパン、NEC エンベデッドプロダクツ、オリエンタルモータ、かわでん、小森マシンナリ、鈴木製作所、スズキハイテック、チノー山形事業所、データシステム米沢、デンソーFA 山形、トプコン山形、ナブテスコオートモーティブ、ニクニアサヒ、ニフコ山形、日立建機カミーノ、ミクロン精密、ミツミ電機山形事業所、YCC 情報システム、山形航空電子、山本製作所、米沢浜理薬品工業

### 【農学部 5 社】

カトーコーポレーション、日東ベスト、丸善食品工業、山本製作所、ワーコム農業研究所

## 4. キャリア Café の課題

地元就職を希望する学生にとってはこのキャリア Café は地元企業を知り、理解するための良い機会であるが、全体に、参加学生が少ない。この理由として挙げられるのは、(1) 学生はキャリア Café のような OB・OG との対話自体を必要としていない、(2) 時期的に仕事や就職に対する意識が高まっていない(3) 開催時期が悪い、(4) 意義が周知されていない、などがある。

### (1) 学生はキャリア Café を必要としていないか？

工学部では進路説明会において就職担当教員から説明と参加の呼びかけをしている。ある学科では、カフェの意義を理解している教員の授業の際にも、受講している学生に参加を呼び掛けてくれたが、その中で参加したのは1名だけであった。このことから、Café のような対話そのものを必要としていない学生が多いことは推測できる。だからと言って、何もやらずに、手をこまねいていて地域の活力が低下していくのをただ見ていることでよいのだろうか。

工学部 2 回目のカフェに参加した新庄市の会社の OB (山形市出身) の中に Café 経験者がいた。大学院 1 年次に小白川キャンパスでのキャリア Café に参加し、「Café で OB から、モノづくりについて熱く語られ、その会社に魅力を感じて入社した」という。キャリア Café を「必要とする学生」は必要としているし、「必要としていない学生」には必要ではないかもしれない。しかし、このカフェの役割は意識の変容を促す契機を提供することにあるので、「今、必要としていない学生」の中のほんの数人に対してでも、実施していくことは必要である。

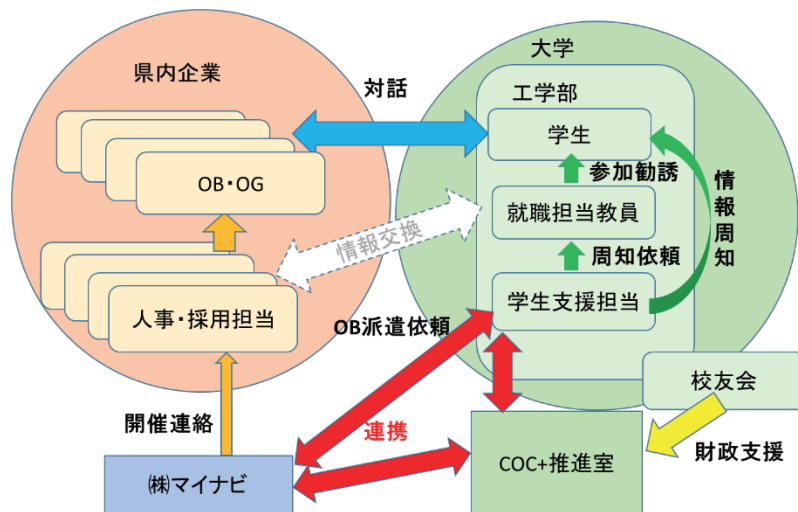
### (2) 意義が周知されていないか？

県内学生よりも県外の学生の参加の割合が多いという実態は、県内企業にとっては地元学生への魅力発信を趣旨とするキャリア Café にとっては、参加する企業側にとっても不満足な点であり、実施する側の不十分な点である。元々、県内出身の学生が県内企業に目が向いていない中で、キャリア Café そのものの存在、開催の意義を周知させていくことは必要である。向上心や外を向いている学生の志向や意識はすぐに変えられるものではなく、大学生でも、成長に応じた情報提供や生き方を考える時間を持たせることは必要であろう。

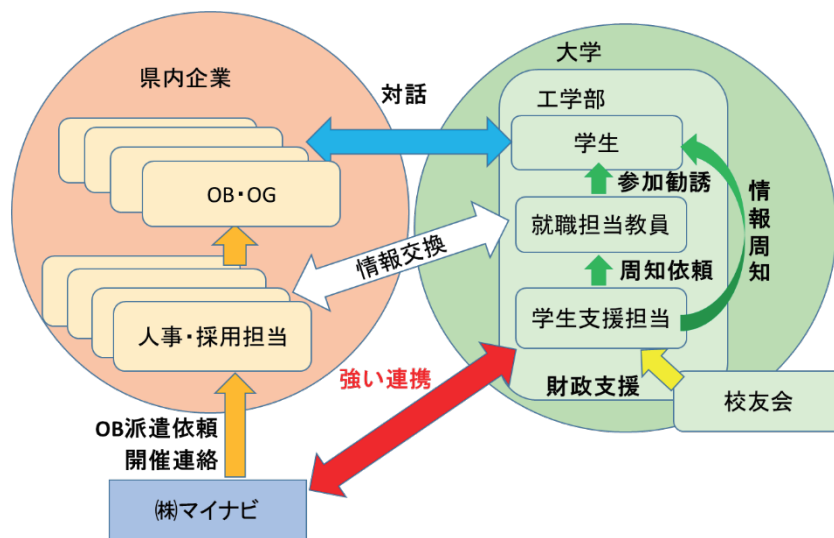
## 5. 2020 年度以降の実施体制

キャリア Café に参加した学生、OB・OG、人事担当者ともに、キャリア Café の意義や有用性は認めていることから、今後も引き続き実施していくことが必要である。Café そのものは、就職課の年次計画の中で、工学部、農学部でも年に 1 回のカフェを独自に実施していたので、2020 年度以降はそれまでの実施体制に戻るようになる。大きな違いは、(1) 株式会社マイナビが当初から企画・運営に参画していること、(2) 工学部では工学部サポーターとなる県内の魅力ある企業が登録されていて人事・採用担当者の情報が、COC+推進室、工学部学務課およびマイナビ 3 者で共有できていること、(3) 校友会の支援を受けて OB・OG との協調体制ができていることである。したがって、キャリア Café を継続して実施するための大きな支障はない状況にある。これまでのCOC+推進室—工学部(農学部)学務課—マイナビの3者の連携から、学務課—マイナビ—人事担当者による連携事業という位置づけで実施体制が構築できる。図4に2020年度以降のCafé実施体制の関係者とその役割を従来と比較して示すとともに、関係者の役割とメリットを表2にまとめた。大学と企業との連携から、学生の地域を見る目や地域マインドが醸成されることが望まれる。





(a) COC+推進室の役割 (2017～2019 年度)



(b) 2020 年度以降の新しい関係

図5 キャリアCaféにおける関係者の役割と実行体制

表2 キャリアCaféにおける関係者の役割と得られる効果

| 関係者    | 役割                                           | 得られる効果                    |
|--------|----------------------------------------------|---------------------------|
| 企業     | OB・OG をアドバイザーとして派遣                           | 魅力発信・企業説明会・見学会へのつながり      |
| OB・OG  | キャリアアドバイザーとして助言                              | 気楽に大学を訪問、大学と卒業生の関係の持続     |
| 学生     | 参加・友人を勧誘                                     | 地域の魅力のある企業・地元で働くことの意味     |
| 学務担当   | 学生への通知・連絡<br>就職担当教員・校友会との連携<br>ポスター・チラシ印刷と配布 | 教員との関係強化<br>学部 OB 会との連携強化 |
| 就職担当教員 | 学生の意識の変化を後押し                                 | 地域企業の実情の理解                |
| マイナビ   | 企業への参加勧誘、ポスター作成<br>日程案内                      | 企業や学生との新たなつながり            |
| 大学校友会  | キャリアCafé の支援                                 | OB・OG との関係強化              |

## 6 地域企業への理解促進（オーダーメイド工場見学会）

山形県には優れた技術を持つ多くの中小企業が存在しますが、多くの中小企業は情報発信力が弱く、学生が県内企業に興味を持つ機会もなく、特徴ある県内企業の魅力が伝わっていないのが現状です。最上地域では、この状況を打開し、学生に県内企業の魅力を伝えて頂くために行政・企業・大学が連携し、「小学生・中学生・高校生・大学生」を対象としたオーダーメイド工場見学会を開催しています。今年度は学校の教員、父兄とさらに対象を拡大し取り組んでいます。

### 「システム創成工学科の学生を対象としたオーダーメイド工場見学会 開催概要」

昨年から開催し今年度が2年目となります。システム創成工学科の1年生を対象として開催しました。所属する学生はこれから電機、機械等、様々な分野を選択して自身の進路を決定していきます。県内企業の地域活性化に貢献できる県内への人材定着のために、新庄地区・尾花沢地区の企業の皆様にご協力いただき、学生に工場見学や対話をする場を提供しました。県内の優れた企業を見学し、在籍する若手のOB・OG社員の皆様と学生が直接対話することが出来る「オーダーメイド工場見学会」は地元企業の知名度を向上させ、ものづくり企業の魅力を発信する場だけでなく、OB・OGの皆様により、学生の就職活動における不安を解消する場として捉えています。

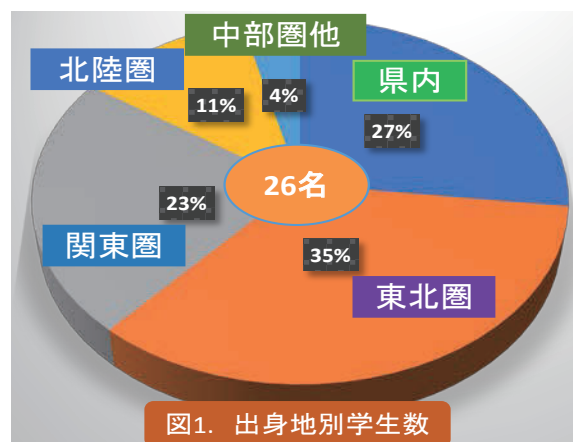
（1）新庄地区 実施日：2019年9月27日（金）

視察企業：Gr1 ヤマトテック、KEBジャパン、山形メタル

Gr2 新庄エレメックス、マスコエンジニアリング、山形東亜DKK

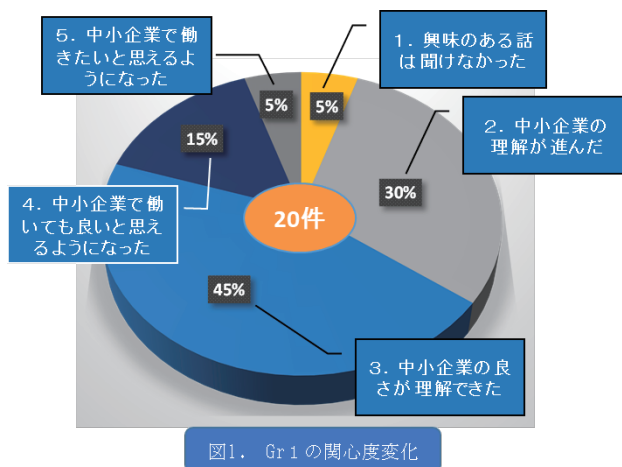
#### 1) 参加者出身地

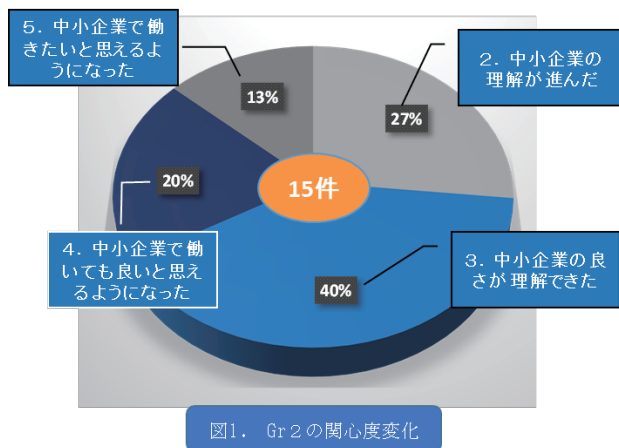
| 区 分     | 人数 | 内 訳                      |
|---------|----|--------------------------|
| 山形県内    | 7  | 山形市1、長井市2、河北町1、朝日町1、小国町1 |
| 北海道・東北圏 | 9  | 北海道1、青森2、岩手1、宮城3、福島2     |
| 関東圏     | 6  | 群馬1、栃木3、埼玉1、茨城1          |
| 北陸圏     | 3  | 富山1、新潟2                  |
| 中部圏他    | 1  | 愛知1                      |
| 計       | 26 |                          |



#### 2) 今回の企業視察ツアーで中小企業への考え方はかわりましたか？（複数回答可）

| 項目                         | Gr1 | Gr2 |
|----------------------------|-----|-----|
| 1. 興味のある話は聞けなかった           | 1   | 0   |
| 2. 中小企業への理解が進んだ            | 6   | 4   |
| 3. 中小企業の良さが理解できた。          | 9   | 6   |
| 4. 中小企業で働いてもよいとおもえるようになった。 | 3   | 3   |
| 5. 中小企業で働きたいとおもえるようになった。   | 1   | 2   |
|                            | 20  | 15  |





### 3) 見学の様子



ヤマトテックの沓澤課長による工場説明



KEB ジャパン鈴木工場長の製品説明



新庄エレメックス間社長の会社説明

### 4) 視察した企業の感想（自由記載から主なものを抜粋）

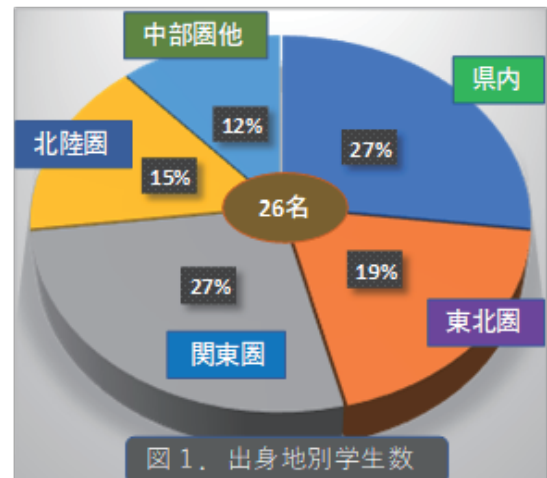
- ・身近にあったり、使ったことのある機械の一部として多く使われている技術で驚いた。
- ・海外に本社を置いて、海外の技術や市場との繋がりがとても強く英語の会議にも対応していてすごいと感じた。
- ・とても広い工場で加工から組立まで生産ラインが見ることが出来て良かった。中小企業が持つ技術の重要性を知ることが出来た。
- ・いい製品をつくるために6Sに力をいれている。作業は自動化され、ほとんどの部品製造が自動化されていて人が少なかった。
- ・中小企業の利点として一つの仕事だけでなく設計や営業といった仕事が複数まかせてもらえ、やりがいがある点を学んだ。
- ・6Sに取り組み社内や機械がきれいだと思いました。退職者が7年間いないという事を聞いて驚きましたよほどいい環境なのだと思います。
- ・授業の時に中小企業を調べていたので良さは知っていたが、実際に見ることで中小企業の良さが分かった。

(2) 尾花沢地区 実施日 : 2019年9月27日(金)

視察企業: Gr1 大金電子工業、山陽精機 Gr2 オプテックス工業、最上世紀

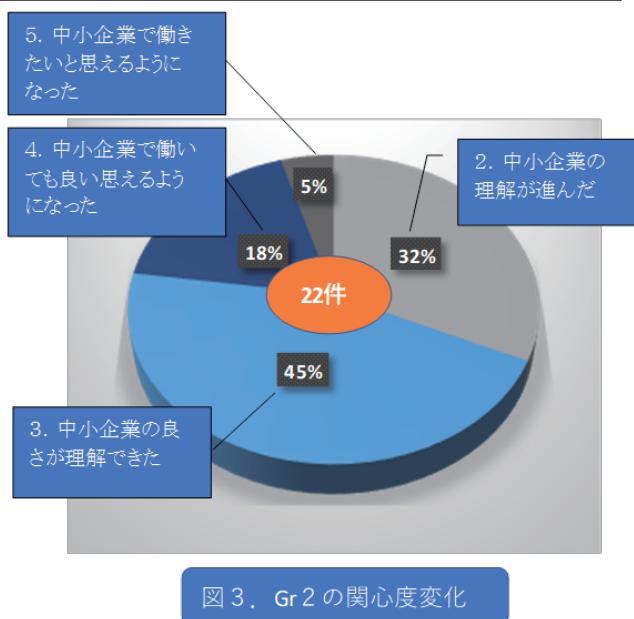
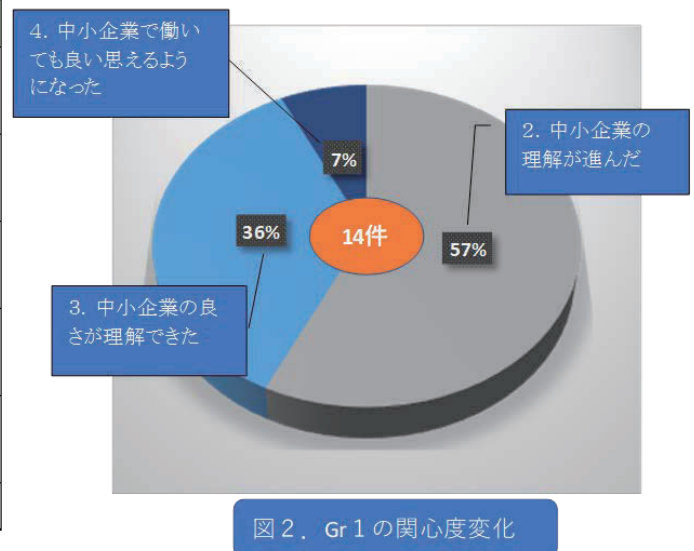
### 1) 参加者出身地

| 区 分     | 人数 | 内 訳                         |
|---------|----|-----------------------------|
| 山形県内    | 7  | 山形市1、鶴岡1、酒田2<br>米沢1、長井1、高島1 |
| 北海道・東北圏 | 5  | 岩手1、宮城2、福島1、秋田1             |
| 関東圏     | 7  | 群馬1、栃木4、埼玉1、千葉1             |
| 北陸圏     | 4  | 富山1、新潟2、福井1                 |
| 中部圏他    | 3  | 愛知2、愛媛1                     |
| 計       | 26 |                             |



### 2) 今回の企業視察ツアーで中小企業への考え方はかわりましたか？(複数回答可)

| 項目                         | Gr1 | Gr2 |
|----------------------------|-----|-----|
| 1. 興味のある話は聞けなかった           | 0   | 0   |
| 2. 中小企業への理解が進んだ            | 8   | 7   |
| 3. 中小企業の良さが理解できた。          | 5   | 10  |
| 4. 中小企業で働いてもよいとおもえるようになった。 | 1   | 4   |
| 5. 中小企業で働きたいとおもえるようになった。   | 0   | 1   |
|                            | 14  | 22  |



### 3) 見学の様子







山陽精機会社説明



オプテックス工業会社説明

#### 4) 視察した企業の感想（自由記載から主なものを抜粋）

- ・工場というイメージを払拭する 4S の行き届いた作業環境であった。
- ・品質に神経を使ってモノづくりしていると実感した。
- ・首都圏等に事務所（営業、設計など）を設けるなど意欲的な企業が多い。
- ・経営トップ自らわかりやすい説明をしてくれるなど社員を大切にする企業風土を感じた。
- ・ロールなどの尾花沢で製造された生産材から生まれた二次製品が身近にあることを知り、技術の高さに驚いた。
- ・初めて工学的な工場を見ることが出来た。また、地域活性化に具体的に取り組む企業姿勢は素晴らしいと思った。
- ・真剣な仕事と別に社員全員が楽しめるような活動があつてとても良いと思った。また、技術を活かしたASOBI もとても興味深く将来はこう言った働き方がしたいです。
- ・主に金属を使った作業が多く自分が思っていた工場の通りだった。自分はこういったところで働きたい。
- ・最高の品質で届けたいという情熱が伝わった、素晴らしい考え方だと思います。仕事に誇りが持てそうです

#### 【まとめ】

2年目となるシステム創成工学科の企業見学会（オーダーメイド工場見学会）は新庄地区 6 社、尾花沢地区 4 社の中小企業を訪問する見学会として開催しました。工場を見学する前に会社の説明を受け、各社特徴的な技術や地域の中で社会に貢献する姿を説明して頂きました。OB との意見交換会では OB が就職する際にどのようなことに悩み、会社を選択し入社後どのような苦勞があったかなど具体的にお話しいただきました。

1年生であった為、ほとんど「モノづくり企業の現場」を視る機会が無く、知識不足から質問も少なかった様ですが、視察後のアンケート結果から、県北地域のモノづくり企業から世界に発信されている実態を共有できたことで、頑張る地方の中小企業への関心度は高まったと思います。

参加した学生は真剣な眼差しで見学しており、毎年、この企画を継続して実施できる体制整備を行い、学生の目線を誘導し、新庄・尾花沢（県北地域）の大学生採用に繋げていきたいと思っています。

## 7. 1 C O C + 参加大学の取組

### ①山形大学

#### 地域創生関連授業による地域課題への取組

##### (1) 目的

山形大学では2017年度から1年生全員が必修科目として履修する基盤教育科目「山形から考える」が開講されている。この科目には山形に関係した科目群（2017～2019年度で、それぞれ35、40、45科目）から構成されているが、それらの中でも地域の課題に取り組むものが、C O C +推進室で担当した2つの講義「地方で考える」（前期）と「雪国で考える」（後期）である。

授業のキーワードは両科目ともに「少子高齢化」、「地方創生」、「課題解決」、「アイデアの創出」、「グループプロジェクト」からなり、後期の科目には「除雪ボランティア」が加わる。地域の課題にグループワークワカモノ、ヨソモノ目線で取り組むことにより、新鮮なアイデアを自治体に提案するとともに、地域の問題を身近に捉えて、地方を見る目を涵養することを主眼としている。

##### (2) 授業の概要

最初の3～4週は座学である。「地方で考える」では地方の若者が首都圏を目指す理由について考え、地方で顕在化している少子高齢化の実情を学び、地域の課題を共有する。「雪国で考える」では雪の科学や雪害の現状を学び、雪国の問題を共有する。地域の課題を知るために、対象とした自治体の担当部署の職員から地域の現状および学生が取り組むべき課題を提示してもらう。この講義の後、対象とする地域を訪問し、五感で地域を感じて課題に取り組むヒントを得ることとした。教室ではグループで解決案のアイデアを出し合い、そのアイデアを深めながらコミュニケーション能力を高める助けとした。最後に市町村に出向いて首長や職員、住民の前で課題解決の提案プレゼンテーションを行った。

表1 「地方で考える」（前期4～7月）の授業概要（2017～2019年度）

| 開講<br>年度 | 目的：少子高齢化の現状の理解と地域の活性化 |                                                                                                                        |          |
|----------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
|          | 対象<br>地域              | 外部講師による講義と取り組む課題<br>および現地訪問による視察                                                                                       | 受講<br>者数 |
| 2017     | 置賜地<br>飯豊町            | 特別講義 飯豊町総務企画課特別政策室長 高橋弘之氏<br>課 題 (1) 転出させないための環境整備<br>(2) 飯豊町を活性化<br>(3) 未婚率の上昇の歯止め                                    | 30 名     |
|          |                       | 第1回訪問 雪蔵、中津川バイオマス㈱、山居集落展望台、<br>山形大学 xEV 飯豊研究センター、中部地区およ<br>び白樺公民館にて飯豊町住民との意見交換<br>第2回訪問 プレゼンテーション（後藤幸平町長他5名）<br>飯豊添川温泉 |          |
| 2018     | 最上地方<br>戸沢村           | 特別講義 戸沢村総務課課長補佐 清水利枝子氏<br>課 題 (1) 人口流出を防ぐ方法<br>(2) 温泉、畑のメガ団地、養豚場の3つの施設を<br>組み合わせた活用法                                   | 27 名     |
|          |                       | 第1回訪問 メガ団地造成地、廃校舎、移住者用住宅<br>バナナ栽培用ハウス、温泉施設ポンボ館<br>第2回訪問 プレゼンテーション（渡部秀勝村長他17名）<br>最上川舟下り／幻想の森                           |          |
| 2019     | 置賜地方<br>米沢市           | 講義 米沢市総合政策課 相田隆行氏<br>課題 (1) 米沢市を活性化<br>(2) 郷土愛を育てる                                                                     | 14 名     |
|          |                       | 第1回訪問 農家民宿・蕎麦打ち体験・米沢市への移住者と<br>笹野一刀彫後継者の話・松が岬公園見学<br>第2回訪問 プレゼンテーション（中川勝市長他7名）<br>田んぼアート、小野川温泉                         |          |

表2 「雪国で考える」(後期10～1月)の授業概要(2017～2019年度)

| 目的：雪国の問題の理解と地域の活性化・除雪ボランティアの実施 |              |                                                                                                   |          |
|--------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 開講<br>年度                       | 対象<br>地域     | 外部講師による講義と取り組む課題<br>および現地訪問による視察                                                                  | 受講<br>者数 |
| 2017                           | 最上地方<br>戸沢村  | 特別講義 戸沢村総務課課長補佐 清水利枝子氏<br>課 題 (1) 人口流出を防ぐ方法<br>(2) 温泉、畑のメガ団地、養豚場の3つの施設を<br>組み合わせた活用法              | 29 名     |
|                                |              | 第1回訪問 慈姑収穫の手伝い<br>第2回訪問 除雪ボランティア<br>(課題解決プレゼンテーションは大学で実施)                                         |          |
| 2018                           | 村山地方<br>大石田町 | 特別講義 大石田町政策推進課 主幹 土屋弘行氏<br>同 主査 佐々木洋平氏<br>課 題 課題を自由に見つけて解決法を提案                                    | 32 名     |
|                                |              | 第1回訪問 雪囲いの視察、縄結び実習、流雪溝、KOE no KURA<br>駒籠地区、中世の水の駅遺跡<br>第2回訪問 プレゼンテーション（庄司喜代太町長 他9名）<br>除雪ボランティア   |          |
| 2019                           | 村山地方<br>大石田町 | 特別講義 大石田町政策推進課 主幹 大沼進悟氏<br>同 主査 佐々木洋平氏<br>課題 (1) 雪のエネルギー利用 (2) 雪国生活の負担軽減<br>(3) 雪の特産品 (4) 雪対策     | 33 名     |
|                                |              | 第1回訪問 町内古刹、芭蕉関連遺跡、雪囲い、流雪溝、<br>駒籠地区の住居、雪室、次子子窯<br>第2回訪問 プレゼンテーション（本多諭教育長他21名）<br>積雪がないため駒籠地区住民との交流 |          |

- 第1回 山形に住むこと  
地方の問題を考える  
第2回 人口減少・少子高齢化  
第3回 地方再生とは  
第4回 アイデア創出法  
第5回 特別講義「沢市の現状と課題」  
第6・7回(1日)米沢市探訪  
第8～11 課題解決のグループ討論  
第12回 提案用パワーポイント作成  
第13回 発表練習・パワーポイントの修正  
第14回 米沢市中央公民館において  
提案のプレゼンテーション  
第15回 授業の振り返り・アンケート記入

(a) 授業の日程



(b) 米沢市職員の前で課題解決の提案



(c) 中川勝市長による講評

図3 2019年度「地方で考える」の授業

### (3) まとめ

全15回の授業の中で、地域が抱える課題の解決案にグループワークにより取り組んだ。履修学生にとっては自治体担当者の話を聞き、実際に市町村を訪問することで、少子高齢化の真ただ中にある地方の実際の状況を肌で感じるとともに、地域の持つ魅力も感じる事ができたと思われる。グループワークでは学部が異なり留学生も混じった班編成で、議論の進め方、アイデアの変容、意見を聞くこと、妥協することなど多くのことを学ぶことができていた。ただ、課題解決策として提案する内容には未熟なものも多く、自治体が実際に活用したいと思わせるレベルの内容を提案できるようになるまでには、さらなる大学での学びが必要である。後期開講の「雪国で考える」は地域の課題に取り組むだけでなく、除雪ボランティアを養成することも目的としており、ボランティアの意味を学ぶだけでなく、以後の人生の中で活かしていくことが望まれる。

## ②山形県立米沢栄養大学

### COC+事業4年間の活動内容・取組について

#### I. 県内就職率向上に向けた取り組み

##### ● 人材ニーズ把握と企業訪問

県栄養士会、病院、福祉施設をはじめ、各方面から県内の管理栄養士に対する人材ニーズの把握を積極的に行い、それを踏まえて企業訪問を実施。

##### ● 県内での実習実施（臨地実習・栄養教育実習）

必修科目として、県内の福祉施設、医療施設及び保健所等で、計4週間の「臨地実習」を実施。

これら県内施設での実習を通して、学生が県内就職先の生の情報を得ることができるとともに、“山形県で働く”具体的なイメージにつながっている。

##### ● 「学内合同企業説明会」の開催

県内の中小企業、病院、施設等を中心に参加企業を選定。

##### ● 「就活ワークショップ」の開催

山形県若者就職支援センターの「キャリアカウンセラー派遣事業」を活用

##### ● 「保護者向け地元企業ツアー」の実施

米沢市商工会議所及び山形大学工学部と連携し、保護者向けに地元企業の魅力を知ってもらう事業を実施。

##### ● 「OB・OGの話を聞く会」の開催

県内に就職した卒業生と在校生が交流を行い、在校生が県内就職を考える機会を設けた。



#### II. COC+事業におけるフィールドワークの活用

学生の教育を通じた地域活性化や、地域に必要な人材の育成の一環として、以下のフィールドワークを実施。

##### ● 大量調理施設の見学

県内最大規模の「山形市学校給食センター」の見学を実施。

##### ● 県立病院でのフィールドワーク

3年次に県内の病院へ出向き、臨床の現場を知る機会を設けた。

##### <病院まつりへの参加>

県立病院において開催される“病院まつり”に参加し、食育 SAT システムを利用した栄養評価を通して外来患者及び入院患者との交流を図った。

##### <学生考案メニュー提供時の喫食調査>



学生考案の病院食提供実施時に調理現場を体験し、患者さんの状態に合わせた献立を展開するときのポイントを学んだ。また配膳時に実際の患者と接し、嗜好や残量の調査等を実施。病院での栄養管理の実際を見学しながら、栄養管理の流れについて学習した。



### III. 教養科目・地域学「山形の食と歴史」

地域に対する興味や愛着心を深めるため、1年次前期必修科目として「山形の食と歴史」を開講  
＜内容＞

- 「山形県民の栄養調査」による食生活の現状と 2022 年度まで実施される「健康やまがた安心プラン」の理解、および地域における食の特徴等を学ぶ。
- 山形県および米沢市の歴史と文化について、その概要を画像や資料などから学び、地域の特色を理解する。
- 地産地消の取り組みや鷹山公の「かてもの」を紹介し、先人の知恵を学ぶ。
- 地域協力のもと、農業体験を行う。



### IV. 人材育成の取り組み

#### ● 県立病院との連携

「県立4病院で一斉に“学生コラボ・おいしい減塩メニュー”の提供や各種情報発信等を実施。また、この連携を通して、2018年度から県立病院において本学学生のインターンシップを実施。

### ③鶴岡工業高等専門学校

学生の地元への貢献と地域定着を目指し、主に次に示す4つの取組を行いました。

#### CO-OP 教育

3年から専攻科1年までの学生が、長期休暇を利用し同じ企業で数回繰り返し就業体験を行うプログラムです。授業で学んだ知識を活かし、実際に現場で働くことでさらなる専門知識と技術の習得、就業意識の向上へと繋がります。そして、地域に貢献できる優秀な人材の育成と地元産業の活性化を目指します。実績として受入企業数 30 社、累計就業学生数 142 名。本プログラムで就業体験を行った学生の内定者数 16 名。（H26 年度春期～R 元年度夏期）

【写真：就業中の様子】



#### 地域企業訪問研修

県内企業の皆さまにご協力いただき実施するプログラムです。これは、本校のOB・OGが技術者として勤務する企業を訪問し、少人数での詳細な工場見学や交流・懇談を通して業務に関する深い理解と社会人としての知識、技術者の心構えなどを学んでもらうことを目的としております。このような会社や地域を知る機会を大切にして自らの就業意識を高めるとともに、地域理解の一助となることを期待しております。実績として受入企業数 40 社、累計参加学生数 610 名。（H24 年度～R 元年度）

【写真：工場見学の様子】



## キャリア教育

学生生活の充実と豊かな将来設計のためにキャリア教育を行いました。

県内外で社会人や大学院生として活躍している本校卒業生の方々を招き、毎年、講演会を開催しています。先輩である講師の方々から後輩に向けて、学生時代をどう過ごすかのアドバイスや、実社会で働く際に大切なことなどを話していただき、その後質疑応答も行いました。

【写真：講演に耳を傾ける学生達】



## 政治参加講座

新たに選挙権を得る本科3年生に対し、国会から県政・市政に渡って興味を持ってもらい、投票を促すために企画した講座で、模擬投票も実施しました。鶴岡市選挙管理委員会のご厚意で、記載台・投票箱・投票用紙など実物同様のものを準備していただき、受付から投票用紙の記載、紙を折っての投票と一連の流れについて体験を通して学ぶことができました。

【写真：模擬投票の様子】





#### ④東北公益文科大学

##### 1. 地域志向の教育

学生が地域で実践する応用演習科目を開講（**地域志向の教育**）

地元・地域マインドを高める取組みとして、2012年度から選択必修科目として実施しています。2年生および3年生が履修可能で、約70%の学生が取り組みました。

- ・平成28年度 210人履修 66%      ・平成29年度 266人履修 74%
- ・平成30年度 289人履修 70%      ・令和元年度 297人履修 66%

この科目の中から、下記の学生団体が結成され、活動を行っています。

- ・2014年 4月 酒田おもてなし隊（庄内地域の観光を切り口とした学生活動団体）活動開始
- ・2018年 7月 Praxis（酒田市日向地区を拠点とした学生活動団体）活動開始
- ・2018年 10月 SCOP（海ゴミ問題解決のための学生活動団体）活動開始

2018年度には、「酒田おもてなし隊」が『輝けやまがた若者大賞』を受賞しました。

<2019年度 春学期9科目、秋学期6科目を開講>

- ・Koeki Kids Project
- ・飛島地区「防災」の仕組みづくり
- ・酒田市地理情報システム構築(さかたまっふ)
- ・酒田の寺町調査研究とまちづくり
- ・舟形町の住民主体のまちづくりへの参画
- ・地域の「記憶」を紡ぐ  
(鶴岡市加茂地区・酒田市日向地区)
- ・新規開業ホテルの事業開発コンペ
- ・海洋ごみ問題解決のための行動計画づくり など

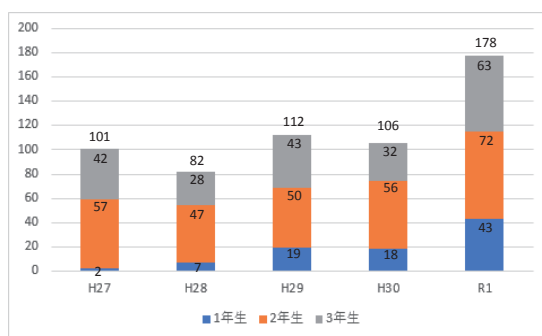


##### 2. インターンシップ

インターンシップを選択必修科目として取組んでいます。1年生の早い段階からの履修を奨励し、平成27年度1年生は2名でしたが、令和元年は43名と増加しました。令和元年度は、202名の学生が履修し、内、山形県内での実習学生数は、178名となった。

また、2012年度から本学の特徴のある取組みとしてスタートした『**社長インターンシップ**』は、総勢73名の学生が履修しています。内、3名が山形大学農学部学生。そして、3名が実習先に就職しています。

『社長』の仕事、地域への強い思いに触れ多くの貴重な体験をしています。



##### 3. 地域人材育成

地域との対話と協働を広げる「ファシリテーション」と「コーディネーター」力を身に付ける『地域共創コーディネーター養成プログラム』を平成25年度から開講し、修了生は、10歳代から60歳代まで、115名（内、大学・大学院生34名）を輩出しており、企画・運営・テーブル



ファシリテーター・コーディネーター等、地域のリーダーとして多様な現場で活躍しています。

#### <活動例>

- ・「酒田市総合未来会議」
- ・「鶴岡市総合計画市民ワークショップ」
- ・「田川地区生徒会リーダー研修会」
- ・「山形県活力ある地域づくり推進事業」
- ・「舟形町住民主体の地域づくり事業」 など

#### 高大連携

- ・「酒田南高校版元気みらいワークショップ」  
＝「私たちのまちづくり提案企画カイギ&相談会」
- ・「鶴岡中央高校地域課題探究学習」  
＝「鶴岡市の地域課題とこれからの地域づくり」



#### 4. キャリア教育

- ・「働く事とは」を考える1年生必修授業（平成29年.7）  
近隣市町村から18の企業・官公庁等で働く28人の社会人と学生とのグループインタビュー
- ・「庄内で働く事」学生と地元企業経営者との意見交換（平成30年.12）  
庄内が若者に選ばれるにはどうしたらよいか
- ・「働く卒業生に聞く」OGとの座談会（令和元年.10）  
6人のOGを囲んで、学生への先輩からのアドバイス



#### 5. 若者定着活動『ハタラクカタチ』プロジェクト

大学生の若者の視点から庄内地域の企業研究を行い、若者にとって魅力ある企業の取材を行い、庄内地域の企業に若者がどのような職場に魅力を感じるかを知ってもらう機会とすることを目指しています。初めに本学卒業生を対象に取材を行います。

◆『ハタラクカタチ』実行委員会組織化、学内募集メンバー 9名（令和元年9月活動開始）

##### ◆勉強会の実施

- ・取材の仕方について講義 講師：フリーライター及び山形新聞社
- ・就職内定学生とのディスカッション
- ・事例研究（他大学での実施例）
- ・取材企業について事前学習 等

◆取材（令和2年1/中旬4社、2/上旬4社）

- ・本学卒業生とその仕事場（企業）へインタビュー

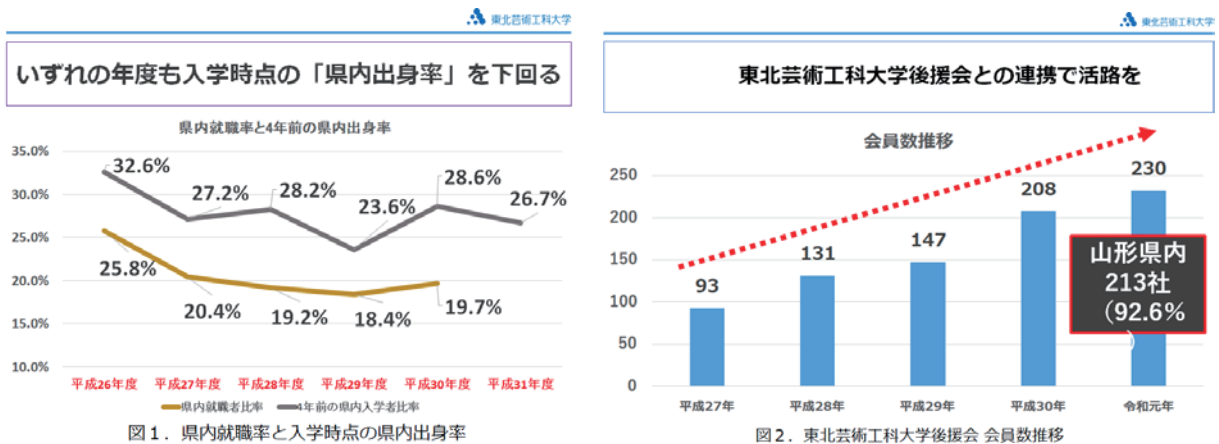
◆冊子作製、動画（YouTube）発信を計画（令和2年3/末）

◆来年度も継続して活動を計画



## ⑤東北芸術工科大学

本学の県内就職率を4年前の入学率と比較してみると、いずれの年度も入学時点の県内出身率を5.2ポイントから9.0ポイント下回る状況で推移してきた。（図1参照）



一方で、平成30年度の事業共同機関へのインターンシップ参加者数は、目標数7名に対して22名（214%増）、寄附講座数については目標数4件に対して7件（75%増）と目標数を上回った。

また、平成26年1月に発足した「東北芸術工科大学後援会」の企業数は年々増加している。令和元年12月31日時点で231社に達し、県内企業数は214社（92.6%）に及んでいる。（図2参照）

本学では県内就職率の低迷を受け、この状況を打破するために大学後援会との連携を深めてきた。交流会や情報交換会などを通じて学生の県内企業への理解を促進し、地元への定着を向上させることが効果的であると判断し、2017年度から積極的に後援会企業との交流を図ってきた。

以下、取り組みの概要を紹介する。

### 1 大学イベントへ後援会企業を招待し、教職員との「交流会」を開催

平成29年度から5月中旬に開催している薪能鑑賞会の後に、後援会企業との密接な関係構築を図るために交流会を開催している。大学側では事前に出席予定企業及び入社実績の情報を取りまとめ、出席者は状況を把握したうえで交流会に臨んでいる。懇談の中では企業側から卒業生の現況や選考時における本学学生の強みや弱みを直接聴取し、今後の進路指導に役立てている。

後援会企業の出席者数は年々増加しており、ほとんどが県内企業である。また、出席者の多くが採用に深く関わっている人事採用担当者や経営者であり、企業側の満足度も高い。（表1参照）



表1 交流会出席企業数及び開催後のアンケート調査による満足度

| 開催年度   | 出席企業数<br>(出席者数) | 満足度 ↑↑↑<br>(大変満足) | 満足度 ↑↑<br>(満足) | 満足度 ↑<br>(やや満足) | 満足度 ↓<br>(やや不満) | 満足度 ↓↓<br>(不満) |
|--------|-----------------|-------------------|----------------|-----------------|-----------------|----------------|
| 2017年度 | 28社(31名)        | 59%               | 23%            | 18%             | 0%              | 0%             |
| 2018年度 | 36社(41名)        | 84%               | 11%            | 5%              | 0%              | 0%             |
| 2019年度 | 55社(67名)        | 76%               | 17%            | 7%              | 0%              | 0%             |

## 2 後援会企業の人事採用担当者と「情報交換会」の開催

平成29年度から、後援会の事業計画における基本方針の一つである「学生と地元企業との相互理解の推進」の一環として、新卒学生の採用に積極的な企業と大学教職員及び学生が活発な意見交換を行い、学生の指向性を十分に理解したうえで地元企業の経営・採用計画に生かしてもらうことを目的とした情報交換会を開催している。

情報交換会では、採用に関する先進事例等の講演や、協議テーマに沿って企業及び教職員・学生が一緒になったグループディスカッションと発表、最後に懇親会を行っている。その場で懇意になった地元企業と学生が会場内で面接日時を決定し、結果的には内定に結びつくなど、意義のあるイベントへと発展している。



グループディスカッション後の発表の様子



企業・教職員・学生の懇親会の様子

なお、3カ年の出席者数及び協議テーマは表2のとおりである。また、開催後のアンケート調査結果による出席者満足度は表3のとおりであり、出席企業・学生の満足度は高い。

表2 交流会出席企業数及び協議テーマ

| 開催年度   | 出席企業数  | 出席教職員 | 出席学生 | 協議テーマ                  |
|--------|--------|-------|------|------------------------|
| 平成29年度 | 15社15名 | 17名   | 16名  | 企業・大学・学生の観点から地方の採用を考える |
| 平成30年度 | 31社31名 | 7名    | 12名  | これからのインターンシップのあり方      |
| 令和元年度  | 39社39名 | 7名    | 21名  | 地方企業における魅力ある選考活動を考える   |

### ○企業からの主な声

- ・学生の疑問、発想、他社と意見交換を通じ、学びや気付きを得ることができました。（2017年度/卸売業）
- ・学生の自由な発想、アイデアを共有させてもらえたので、大変有意義でした。採用の参考にさせていただきます。（2017年度/金融業）
- ・インターンシップのメリットだけでなく、きっかけづくりの情報やアイデアが聞けたのでよかった。（2018年度/サービス業）
- ・様々な先進的に取り組んでいる企業から、有益な助言をいただき、かつ学生たちのニーズを把握できてよかった。（2018年度/卸売業）
- ・年ごとに変化する採用活動に対し、その年に合った情報を得ることができる。（2019年度/製造業）
- ・情報交換会の進め方、内容、すべてにおいて大満足でした。特にグループディスカッションが非常にためになりました。（2019年度/サービス業）

表3 情報交換会アンケート結果による企業及び学生満足度／情報交換会全体について

| 開催年度   | 回答者数 | 満足度 ↑↑<br>(満足) | 満足度 ↑<br>(やや満足) | 満足度 →<br>(どちらとも) | 満足度 ↓<br>(やや不満) | 満足度 ↓↓<br>(不満) |
|--------|------|----------------|-----------------|------------------|-----------------|----------------|
| 平成29年度 | 31名  | 61%            | 36%             | 0%               | 3%              | 0%             |
| 平成30年度 | 41名  | 80%            | 20%             | 5%               | 0%              | 0%             |
| 令和元年度  | 55名  | 63%            | 31%             | 4%               | 2%              | 0%             |



## ⑥東北文教大学/東北文教大学短期大学部

### ○フィールドワーク

学生の県内定着につながる取組みとして、バス借上げによるフィールドワークを各学科にて実施した。県内全域にわたって実施し、東北文教大学では 22 件、東北文教大学短期大学部では 24 件の活動実績となった。

【東北文教大学】

|      | 件数 | 参加人数 |
|------|----|------|
| 2017 | 11 | 488  |
| 2018 | 7  | 135  |
| 2019 | 4  | 159  |
| 合計   | 22 | 782  |

【東北文教大学短期大学部】

|      | 件数 | 参加人数 |
|------|----|------|
| 2017 | 13 | 436  |
| 2018 | 6  | 164  |
| 2019 | 5  | 84   |
| 合計   | 24 | 684  |

※実施件数の増減は予算配分による

活動内容としては、小学校社会科教材に関わる施設や企業を訪問する子ども教育学科の「社会Ⅰ」、市内中心地へ出向き、地域活性化の課題および解決策を探る総合文化学科の「社会コース演習」、保育現場での観察参加実習を行う子ども学科の「保育実習ⅡA、ⅡB」、防災・減災のための生活支援技術を学ぶ人間福祉学科の「家事生活支援技術Ⅱ」など、多岐にわたるテーマで実施をした。

これらの活動を通し、県内企業や施設等、地域への理解を深めることが、学生の県内定着に結びついていると考える。



＜社会Ⅰ＞子ども教育学科  
オリエンタルカーペットでの施設見学



＜社会コース演習＞総合文化学科  
市内中心部（七日町）での実地調査

### ○インターンシップ

【東北文教大学】小学校教員志望の学生は、スクールサポーターとして山形県内の小学校教育現場にて授業補助を行なった。2年次から4年次中に36時間以上実施した場合、単位として認定していることも参加を後押しした。保育者（保育士・幼稚園教諭）志望の学生についても、1年時夏休みに3日以上のインターンシップに参加し、入学後の早い時期から県内の施設で経験を積む機会をもった。



【東北文教大学短期大学部】総合文化学科では、1年後期開講「企業体験演習Ⅰ・Ⅱ」（選択科目）において1週間の職場体験を実施し、県内企業への理解を深めた。人間福祉学科では、福祉施設と本学とで協定を結んだ事業所での有償インターンシップに取り組んだ。

#### ○就職支援取組

- ・地元企業の説明会

##### 企業研究会（東北文教大学）

一般職希望者に対する、採用試験のための模擬面談会を実施。地元企業の人事担当者を講師に迎え、グループ面談形式で会社の概要説明を受け、各企業への理解を深めた。



- ・就職予定分野ごとのセミナー

##### 保育職セミナー（東北文教大学）

保育職志望者向けに「保育職セミナー」を実施。前段は、県内の幼稚園及び保育園・認定こども園の園長先生による模擬面接を、後段はグループにわかれてワークショップを行った。



- ・卒業生との懇談

##### 進路ガイダンス（東北文教大学短期大学部）

人間福祉学科、子ども学科、総合文化学科の学生に対して、県内企業で就職をした勤務1年～2年目の卒業生から体験談およびアドバイスを受け、就職意欲を高める機会となった。



#### ○その他の取り組み

大学卒業時だけでなく、高校生の進路選択への働きかけ、およびさらなる前段階として、中学生への進路選択の働きかけを目的とし、中高生向けの「保育ワークショップ」を実施した。附属幼稚園と連携して実施し、ワークショップを通して本学および保育の魅力を伝える機会とした。



## 7. 2 最上地域の取組

### 1 「オールもがみ若者定着・人材確保推進会議」の立ち上げ

最上地域は人口が 75,000 人（山形県人口の 7 %）新庄市を中心に金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村の 1 市 4 町 3 村が放射状に位置し新庄を中心とした生活圏域が築かれています。若年層（特に女性）の社会流出が深刻な問題であり、県内の他の地域と比較し速いペースで人口減少、少子高齢化が進んでいる地域です。

その原因の一つが県内 4 地域の中で唯一“高等教育機関”の無い点が挙げられます。高校生が進学を選択した場合、必ず地域を離れなければなりません。

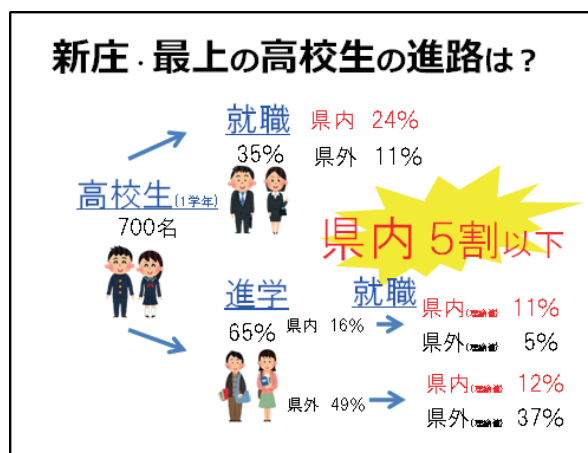


図1 最上地域の高校生の進路

高校卒業後、若者の5割以上が流出してしまう現実に対して、今まで若者定着に対するアプローチが十分ではありませんでした。COC+事業がはじまった平成27年に管内の高校2年生を対象としたアンケート調査によると、地元になどの様な働く場（企業が）あるのかわからないといった解答が多くありました。

進学で最上地域を離れる学生は地元企業のことをほとんど知らずに地域から出ていく事になり、地域で仕事をすることを意識する機会が無いことが現状です。

最上地域では県・市町村の行政、小・中・高・大学の教育関係・地元企業等、様々な機関で構成された「オールもがみ若者定着・人材確保推進会議」を立ち上げ、この課題に取り組みました。

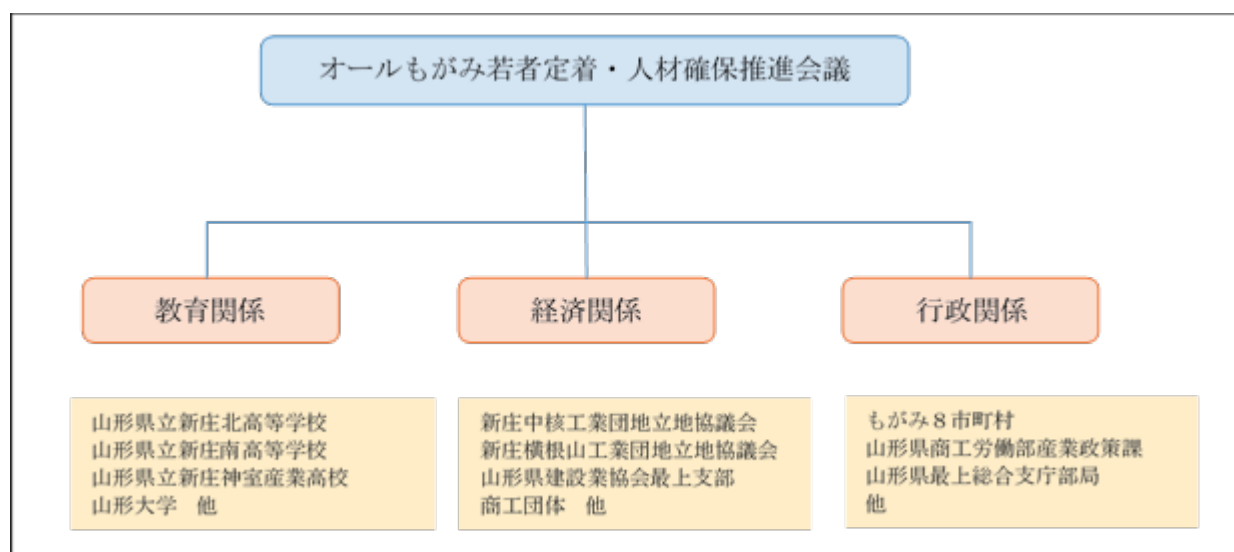


図2 オールもがみ若者定着・人材確保推進会議 組織図

## 2 「5つの視点」による取り組み

今年度の取り組みの柱を紹介します。「1 市町村・総合支庁当の取り組みの共有化・連携の推進」、「2 若いときからのキャリア教育の充実」、「3 保護者の地元企業に対する理解の促進」、「4 企業の情報発信力強化・職場体験等の受入態勢の充実」、「5 若者の住みやすい環境の整備促進」と5つの視点で構成され、小学生から中学生、高校生、大学生、社会人まで、「漏れなく、ダブリなく、オール最上の推進体制」で取り組んでいます。

### 「1 市町村・総合支庁当の取り組みの共有化・連携の推進」

- (1) 「オールもがみ若者定着・人材確保推進会議」による情報の共有化、連携事業の実施
- ・「オールもがみ」で情報を共有して、事業間の連携を促進する。

※図2 オールもがみ若者定着・人材確保推進会議 組織図参照

### 「2 若いときからのキャリア教育の充実」

- (1) 「働くってナンだ？」フォーラム〔豆記者企業訪問バスツアー〕
- ・小学生等に働くことの意味をセンパイから語ってもらう。小学生が企業を訪問し取材を行う。
- (2) 中学校での出張職業体験（Shin-job 等）
- 開催町村拡大に向けた働きかけ
- ・中学生に学校体育館で様々な職業を体験してもらう。また開催町村拡大に向け関係機関へ働きかけを行う。
- (3) ジョブシャドウイング
- ・中学生が企業の特定の従業員と行動をともにし、仕事の内容、仕事への姿勢、職場環境、やりがい等を学ぶ。
- (4) 小中学校教員を対象とした企業見学会
- ・小中学校教員に地元企業見学、経営者・従業員との意見交換を開催する。
- (5) 医療分野での小中学生向け動機付け学習会
- ・小中学生向けに地域で活躍する医療従事者の講話・体験学習を行う。
- (6) 新庄中核工業団地オーダーメイド工場見学会
- ・工業団地企業の工場見学等調整の窓口を協議会事務局に一本化して受入れを促進する。
- (7) 新庄・最上ジモト大学
- ・コンソーシアムを立ち上げ、地元大学の運営基盤を強化、提供プログラムを充実させる。
- (8) 地元で働き・暮らすセンパイからの高校生への特別授業
- ・高校生に地元で働く身近なOB・OG 従業員から、仕事や生活等の経験談を話してもらう特別授業を行う。
- (9) 輝く女性従業員と女子高校生との交流会
- ・女子高校生に様々な分野で活躍する女性従業員との交流会を開催する。
- (10) 医療・介護分野での医療福祉座談会等
- ・高校生対象医療福祉座談会、高校生対象医療現場見学会等を実施し、参加学生へのフォローアップを行う。
- (11) 建設・農業分野の若者による高校生等との意見交換会等
- ・建設業、農業を目指す学生と若手従業員・従事者との意見交換の開催や開催支援を行う。

(12) 高校の特色ある取組み

新庄北（地域理解プログラム）、新庄南（総合学習）、新庄神室産業（パートナーシップ協議会、企業協賛クリアファイル）、新庄東（地域活性化プロジェクト） など

「3 保護者の地元企業に対する理解の促進」

(1) 小学生親子企業訪問バスツアー

(2) 中学校での出張職業体験（Shin-job 等）への保護者に対する参加呼びかけ

(3) 高校生保護者を対象とした進路選択セミナー

- ・高校生の保護者に保護者会を活用して地元企業の情報や地元就職のメリット等の情報を提供する。

(4) 大学生保護者を対象とした就職活動セミナー

(5) 住民を対象とした企業再発見バスツアー

(6) ものづくり博 しんじょう商工見本市開催

「4 企業の情報発信力強化・職場体験等の受入態勢の充実」

(1) 工場見学等の受入れマニュアルの作成

- ・小中高等ごとに工場見学・インターンシップ等の企業向け受入れマニュアルを作成し、配付を行う。

(2) 大学等の高等教育機関の学生採用に向けた取組みの支援

- ・企業と連携して、山形大学工学部、鶴岡高専の学生採用に向けた取組みを行う。

(3) 企業情報等のウェブサイトの運用

- ・最上地域の企業情報、若者定着に向けた取組み、地元での暮らし等を専用ウェブサイトで発信する。

(4) 新庄中核工業団地オーダーメイド工場見学会（再掲）

- ・オーダーメイド工場見学会の受入れ企業を拡充する。

「5 若者の住みやすい環境の整備促進」

(1) 移住定住・人材確保策の一体的な展開に向けた新たな組織の設置等

- ・本県への移住及び就業の促進策の一体的な展開を行う。

(2) ルーキーズカレッジ・プレルーキーズカレッジ

- ・若者の離職防止のため、研修会等を通じて、職場の枠を超えた「地域同期会」づくりを行う。

(3) ライフキャリアアップカフェ・モガミウィズフェスティバル(仮)等の開催

- ・イベント等を開催し、女性が社会参画しやすい環境をつくる。

(4) 若者の住まいとなるアパート建設に対する支援（舟形町）

- ・町内へのアパート建設に対する補助を行う。



### 3 取り組み紹介

#### Shin-job（出張職業体験）

- ・新庄市にある5つの中学校で様々な業種の企業を体育館に集め、生徒が各企業ブースを回り、職業体験を行うプログラムを提供しています。
- ・新庄市から金山町、舟形町、鮭川村にも広がり、同様の体験会を実施しています。



※建設業協会コンクリートパネルづくり体験の様子

#### ものづくり博 しんじょう商工見本市

8回目の開催となる「ものづくり博 新庄商工見本市」は若者定着の取り組みの一環として、「ものづくり企業」を中心とした25団体が参加し開催しました。若者や保護者に対し地域にどのような働く場があるのか紹介しました。会場では展示のほかに、高校生やものづくり企業が参加した「全日本製造業コマ大戦 新庄特別場所」の開催や東山焼絵付け体験、ミニ四駆製作などの「ものづくり」の楽しさに触れていただきました。



※「ものづくり博」会場の様子

#### Next Action 一步踏み出す今日がその日 Agasuke House（新庄・最上ジモト大学）

大学が無い最上地域では大学生は高根の花、「ふれ合う機会」はほとんどありません。そんな環境の中、Agasuke Houseの協力により山形大学、公益文科大学、東北芸術工科大学、東北大学、早稲田大学の大学生が集まりリアルな大学生活を体験することが出来ました。

大学生と中学生・高校生が一緒になって「大学・大学生」のイメージを広げるワークやブーストーク、自己理解を深める自己分析ワーク、ぐんぐん伸びる目標設定ワーク等々！内容がぎっしり詰まった1日を提供して頂きました。自分の思いを「自分の言葉にする」そんなワークを沢山行ったことで、イベントが終盤になるにつれて参加した中高生からは「自分らしい言葉」が沢山飛び交っていました！将来や自分自身について、大学生や参加した仲間同士で語り合うことで、自分のやりたい事、今日から出来る事が少しでも見えたのではないのでしょうか？



※高校生の大学・大学生のイメージは？



※Agasuke Houseの皆さんと記念写真

## 輝く女性従業員と女子高校生との交流会

### 地元事業所で働く先輩が仕事の魅力を語る特別事業 in 新庄北高等学校（新庄・最上ジモト大学）

女性が最上地域で働き・暮らすイメージをもち、地元への理解を深めるため、地元の様々な職場で働く若手社員の方から、仕事のやりがいや、新庄・最上での暮らしについて語ってもらう特別授業を開催しました。

この特別授業のために手作りして頂いた“紙芝居”を使って、今の仕事に就いたきっかけや仕事での成功・失敗エピソード、休日の過ごし方などありのままに語って頂きました。

先輩方の仕事に対する想いや実際の暮らしぶりを聞いて、仕事に取り組む姿勢や責任感を学ぶとともに、地元企業に対する理解を深め、地元で暮らすことの良さを感じた生徒の方も多いようでした。

先輩方には、いそがしい中、事前にプレゼン研修を受講いただき、この特別授業に臨んでいただきました。参加した皆さんからは、これまでの自分自身を振り返ることができ、今後の成長につながる良い機会となったと感想をいただきました。



※各テーブルに分かれてワークに取り組む様子



※講師の皆さんとの集合写真

## 4 取り組みの成果

新規高校卒業者県内就職率の推移を見ると、今春、最上管内の高校を卒業して就職した生徒のうち、県内に就職した生徒の割合（県内定着率）は、74.0%と前年度末の67.9%から上昇しています。特に女子の県内就職率を高めた背景には女性向けのプログラムを増やし、参加した学生が講師の若手従業員の方から、日々の生活を伺い、将来の自分の姿に重ねられたこと、また、地域が連携して早い時期に女子の求人を出して頂いたことが影響したと思われます。取り組みの成果が着実に実を結んでいることから今後、大学生の地元就職率の向上にも期待しています。

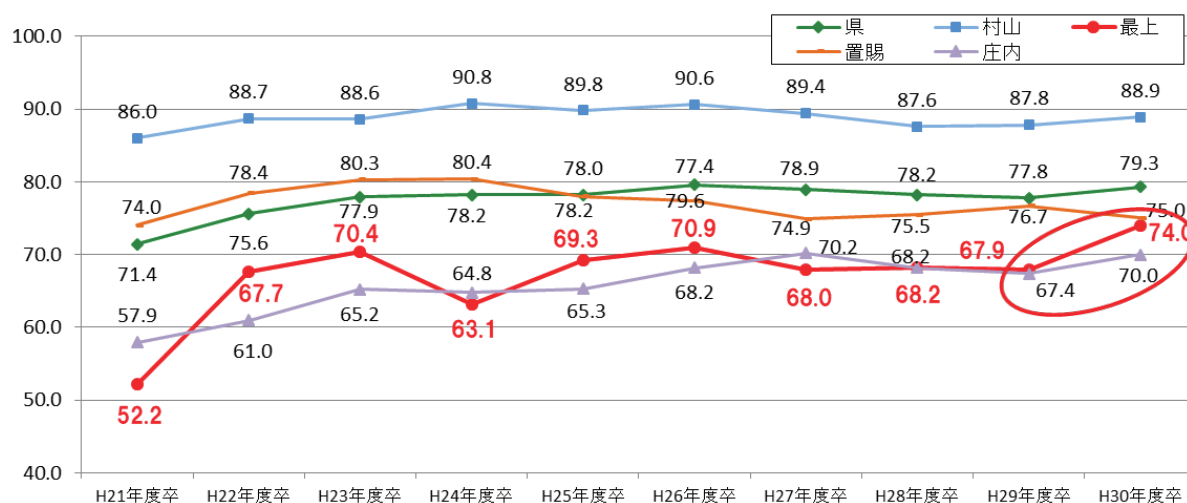


図3 新規高校卒業者県内就職率の推移

## 8 大学生と高校生との協働活動（高大連携事業）

－普通科高等学校におけるキャリア教育事業－

### 1. 概要

山形県では高校卒業後県外に進学する割合が非常に高く、人口減少の大きな要因となっている。この「大学生と高校生との協働活動」は、普通科高等学校生徒の県内各大学への進学を促進するため、大学生との協働活動を通じて地域の良さや地元大学の魅力に気づかせることで、希望する学部・学科への進学の指向性を高め、卒業後は山形県の学術・産業分野を支え、活躍できる人材育成を目指している。2016 年度から始まった協働活動事業は山形大学COC+推進室と山形県教育委員会が連携して主催し、2018 年度からは山形大学校友会の支援を受けて実施している。

高校生の募集対象は、普通科高校 1, 2 年生で、高校在学中から大学の学びを深く理解しようとしている生徒である。県内 4 地域からの交通の便を考慮して、2018 年度からは、表 1 のように鶴岡キャンパスにも会場を設定して 3 会場で実施している。県内大学への進学だけでなく、地域の良さを見直し、将来は山形県のために貢献したいという気持ちを涵養することが大きな目的である。したがって、単なる大学説明会ではなく、地域の課題に高校生とその地域出身の大学生が一緒に取り組むことによって、お互いにとっていい影響を与えあえる活動となっている。

表 1 にこれまでの 4 年間の活動の概要と参加者をまとめた。253 名の高校生、延べ 107 名の大学生が参加している。2017 年の学生グループの協力を得て実施された小白川キャンパスでの活動では、大学の理解や進路に対する目標設定に重点が置かれ、地域の課題に取り組むことから外れていたため、2018 年度からは山形大学の教員がファシリテータを担当することで、地域に根ざす大学としての教員自身の地域を見る目を養うことも意図した。実際には、地域活性化に関心のある教員がファシリテータを務めた。

表 1 山形県教育委員会との連携による協働活動への参加者の概要

| 開催年度 | 月/日     | キャンパス(会場) | ファシリテータ(所属・氏名)       | 参加高校生数(校) | 参加高校生数(名) | 参加大学生数(名)  | 備考                  |
|------|---------|-----------|----------------------|-----------|-----------|------------|---------------------|
| 2016 | 10/1,15 | 小白川       | (COC+)堀内史朗准教授        | 5         | 7         | 4          |                     |
|      | 1/7     | (東根)      | 学生グループ Agasuke       | *         | 33        | 18(内留学生 8) |                     |
| 2017 | 12/23   | 小白川       | 学生グループ Agasuke       | 6         | 44        | 22         |                     |
|      | 1/6     | 米沢        | (COC+)東山禎夫教授         | 6         | 13        | 8          |                     |
| 2018 | 11/23   | 鶴岡        | (農) 藤井弘志教授           | 3         | 32        | 9          | 山形大学<br>校友会<br>支援事業 |
|      | 12/23   | 小白川       | (地教)三上英司教授<br>滝澤匡准教授 | 7         | 27        | 10         |                     |
|      | 1/13    | 米沢        | (工)立花和宏准教授           | 3         | 14        | 4          |                     |
| 2019 | 11/23   | 鶴岡        | (農) 村山哲也教授           | 3         | 16        | 9          |                     |
|      | 12/22   | 小白川       | (地教)滝澤匡准教授           | 7         | 43        | 13         |                     |
|      | 1/13    | 米沢        | (工)立花和宏准教授           | 3         | 24        | 10         |                     |

合計 253 名      合計 107 名

### 2. 2019 年度の活動内容

#### (1) 鶴岡キャンパス会場

山形大学鶴岡キャンパスに鶴岡北高校 5 名、鶴岡中央高校 1 名、酒田西高校 10 名の計 16 名の高校生が集まり、山形大学学生 9 名が参加した。協働活動のテーマは「庄内地域の課題解決」である。5 グループに分かれて地域の課題について話し合い、その中で特に必要な課題についての解決方法を議論した。昼食時間後、高校生は大学進学希望学部ごとに分かれ、大学生が高校生からの疑問に答える時間を持ち、大学生、高校生ともに中身の濃い時間を持つことができた。課題およびその解決案については 5-6 枚のパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションを行った。高校生からの提案は身近な庄内の問題を的確につかんでおり、地域おこし、地域活性化のヒントとなる提案が多くみられた。



表2 2019年度に実施した「大学生と高校生との協働活動」の概要

| 開催月日               | 会場<br>ファシリテータ                                              | 参加高校生                                    | 参加大学生学部<br>(3-4年,院1年)                                      | 課題                             | 発表方法                                    |
|--------------------|------------------------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------------|
| 2019年<br>11月23日(土) | 鶴岡キャンパス<br>3号館211教室<br><br>農学部<br>村山哲也教授                   | 庄内地区<br>普通科在学生<br><br>16名<br>(申込み17名)    | 地域教育文化2名<br>人文社会科学1名<br>理2名<br>医看護2名<br>工1名<br>農1名<br>計9名  | 庄内地域の<br>課題を見つ<br>けて解決案<br>を提示 | 班ごとのア<br>イデアを高<br>校生がppt<br>にまとめて<br>発表 |
| 12月22日(日)          | 小白川<br>キャンパス<br>基盤教育3号館<br>312教室<br><br>地域教育文化学部<br>滝澤匡准教授 | 村山・最上地区<br>普通科在学生<br><br>43名<br>(申込み46名) | 地域教育文化2名<br>人文社会科学3名<br>理2名<br>医看護2名<br>工2名<br>農2名<br>計13名 | 村山地域の<br>課題を見つ<br>けて解決案<br>を提示 | 班ごとのア<br>イデアを大<br>学生が高校<br>生に説明         |
| 2020年<br>1月13日(月)  | 米沢キャンパス<br>工学部百周年<br>記念会館<br><br>工学部<br>立花和宏准教授            | 置賜・村山地区<br>普通科在学生<br><br>24名<br>(申込み27名) | 地域教育文化2名<br>人文社会科学2名<br>理2名<br>医看護2名<br>工2名<br>計10名        | 置賜地域の<br>課題を見つ<br>けて解決案<br>を提示 | 班ごとのア<br>イデアを高<br>校生が絵に<br>描いて説明        |



(a) 参加者全員が自己紹介



(b) 庄内地域の課題に取り組む



(c) 志望学部の先輩の話を聞く



(b) パワーポイントでのプレゼンテーション

図1 山形大学鶴岡キャンパスでの協働活動(2019年11月23日)



議論の途中には、村山教授から庄内柿の差し入れがあり、いい雰囲気での議論を進めることができた。最後に 5 つの班から、「人が少ない!」、「快適な登下校に向けて」、「省内にぎわっちゃお作戦」、「人口減少対策」、「山形サイコーウインウインプロジェクト」と題して、自らが設定した課題の解決策についての提案が行われ、高校生からも質問が出た活発な発表となり、有意義な時間となった。

#### (2) 小白川キャンパス会場

山形大学小白川キャンパスには山形南高校 8 名、山形西 5 名、山形北高校 10 名、上山明新館高校 13 名、谷地高校 7 名、東桜学館高校 1 名、新庄南 2 名の計 46 名が申し込みで当日は 43 名が参加し、大学生 13 名の 12 班編成で実施した。

高校生が同じ班の大学生に質問を行って情報を集め、その情報をもとに、A1 判の用紙を用いて先輩新聞を作成した。その新聞を壁に貼り、高校生が他の班の高校生に大学生の紹介を行った。昼食後、大学生から所属する学部の教育や学生生活について懇談した。その後、班ごとに若者に地域に残ってもらうための案を考え、まとめたアイデアを、大学生が他の班の高校生に説明し、地域の抱える課題とその解決法を共有した。



(a) 大学生が地域の課題について説明



(b) 大学生が地域の課題について説明

図2 小白川キャンパスでの活動の様子 (2019 年 12 月 22 日)

#### (3) 米沢キャンパス会場

米沢東 17 名、上山明新館高校 6 名、南陽高校 4 名の 27 名が申し込み、当日は 24 名の高校生と大学生 10 名が参加して、8 班編成で実施した。教育委員会および C O C + 推進室の教員がそれぞれ 2 名、米沢市役所職員、米沢市理科研修センター指導員それぞれ 1 名の計 6 名もグループに入り、TRPG (Table Talk Role Playing Game) の手法を用いて地域活性化の議論が行われた。ファシリテータ創作のシナリオに基づいて、6 つのシーンごとに解決すべき課題が提示され、その課題に対する考えを示した。TPRG では大学生が進行役を務め、高校生はそれぞれ割り当てられた役になりきって考えたことを提示し、アイデアを出しながら協働活動を進めた。大人の参加者は高校生のアイデアに対する“老害コメント”を出しながら課題解決策を深めた。最後に、アイデアを数枚の絵に描き、紙芝居のようにしてプレゼンテーションを行った。

#### (4) 参加した高校生の感想の例

- ・とても充実した 1 日になりました。このような会をもっとたくさん増やしてほしいです。
- ・初めての活動で緊張しましたが、班で活動してだんだん慣れてきてすごく楽しかったです。各学部での懇談でも質問してそれを詳しく答えてくださって、大学は楽しいと思いました。
- ・大学生が二人の方がたくさん助言してくださってとても安心したし、楽しかったです。

- ・最初はもっとまじめな感じだと思っていたけど、一日すごく楽しく過ごさせてもらいました。大学生の皆さんがすごく優しくていろいろなことを学びました。



(a) シナリオをスマホ画面で確認し TRPG で課題に挑戦



(b) 志望学部先輩の話聞く



(b) 生 BGM 演奏でプレゼンテーション



(d) 記念撮影

図 3 米沢キャンパスでの協働活動（2020 年 1 月 13 日）

### 3. 2020 年度以降の協働活動に向けて

「高校生と大学生との協働活動」を鶴岡、山形および米沢の 3 会場でそれぞれ、11 月、12 月および 1 月の休日に実施した。高校生 83 名に対して、山形大学の 6 つの学部 zu 所属する山形県出身者 29 名と他県出身 3 名（岩手、埼玉、北海道）が参加した。高校生と各地域出身の大学生が地域が抱える課題と解決法を一緒に考えることで、地域に対する関心および問題意識を高める機会となった。また、大学生、高校生両者にとって課題に対するいろいろな見方があることを学ぶこともできた。高校生にとっては希望学部の内容や学生生活を地域の先輩の学生から、直接、詳しく聞く場が設定されているので、希望する学部の内容を深く理解でき、進学希望の学部を固めることができる良い機会となった。

高校生と大学生の協働活動は地域の活性化の基礎となる人材の育成にとって、非常に重要な活動である。協働活動は高校生にとっては、ロールモデルを目の前にして直接聞くことができることから、参加する高校生と同じ地域出身の学生の存在が重要な要素である。協働活動事業をさらに持続的に発展させて、地域人材養成の場としていくためには、高校生の希望進路に対応した学部やコースに所属する大学生が参加しやすい方法を確認しておくこと、さらに、地域の社会人や自治体の職員の参加は、高校生、大学生だけでなく、地域社会の活性化にとっても必要である。



## 9. 1 やまがた創生戦略協議会

やまがた創生戦略協議会は、COC＋事業（地域と協働して地域を志向する教育プログラムの開発、地元就職して地域の課題解決に資する人材の養成、及び山形県全体の雇用創出と地元就職率の向上を図る）を審議するために設置されました。

### （１）構成

別紙名簿のとおり

### （２）開催状況

#### ○ 第１回やまがた創生戦略協議会

日時 令和元年７月３日（水）

会場 山形国際ホテル２階平成・西

#### 議事

- １ 平成３０年度就職状況及び令和元年度入学状況について
  - ２ 若者の県内定着に向けた取り組みについて ―取り組み事例報告と意見交換―  
「オールもがみ若者定着・人材確保会議」
  - ３ 地域創生カリキュラムの平成３０年度の成果について
  - ４ 平成３０年度大学改革推進等補助金実績報告について
  - ５ その他
- （１）今後の１８歳人口の動向について
  - （２）やまがた創生戦略協議会規程の一部改正（案）について
  - （３）次回開催予定について



協議会の様子



山形県



東北文教大学学長

○第2回やまがた創生戦略協議会

日時 令和2年3月3日（火）開催予定

会場 山形国際ホテル2階平成・西

議事 未定



やまがた創生戦略協議会名簿

令和元年 11 月 25 日現在

| 区分     | 委 員 名                 |           |
|--------|-----------------------|-----------|
| 1 号委員  | 山形大学長                 | 小 山 清 人   |
| 2 号委員  | 山形県知事                 | 吉 村 美 栄 子 |
| 3 号委員  | 山形市長                  | 佐 藤 孝 弘   |
| 4 号委員  | 米沢市長                  | 中 川 勝     |
| 5 号委員  | 鶴岡市長                  | 皆 川 治     |
| 6 号委員  | 酒田市長                  | 丸 山 至     |
| 7 号委員  | 上山市長                  | 横 戸 長 兵 衛 |
| 8 号委員  | 長井市長                  | 内 谷 重 治   |
| 9 号委員  | 西川町長                  | 小 川 一 博   |
| 10 号委員 | 真室川町長                 | 新 田 隆 治   |
| 11 号委員 | 戸沢村長                  | 渡 部 秀 勝   |
| 12 号委員 | 飯豊町長                  | 後 藤 幸 平   |
| 13 号委員 | 三川町長                  | 阿 部 誠     |
| 14 号委員 | 庄内町長                  | 原 田 眞 樹   |
| 15 号委員 | 遊佐町長                  | 時 田 博 機   |
| 16 号委員 | 山形県商工会議所連合会長          | 後 藤 完 司   |
| 17 号委員 | 山形県商工会連合会長            | 小 野 木 覺   |
| 18 号委員 | 山形県工業会長               | 松 村 英 一   |
| 19 号委員 | 山形県銀行協会会長             | 長谷川 吉 茂   |
| 20 号委員 | 山形県信用金庫協会会長           | 佐 藤 祐 司   |
| 21 号委員 | 山形県経営者協会会長            | 寒河江 浩 二   |
| 22 号委員 | 山形県立米沢栄養大学長           | 鈴 木 道 子   |
| 23 号委員 | 鶴岡工業高等専門学校長           | 高 橋 幸 司   |
| 24 号委員 | 東北公益文科大学長             | 吉 村 昇     |
| 25 号委員 | 東北芸術工科大学長             | 中 山 ダイスケ  |
| 26 号委員 | 東北文教大学長・東北文教大学短期大学部学長 | 須 賀 一 好   |
| 27 号委員 | 山形大学副学長（社会連携担当）       | 大 場 好 弘   |
| 28 号委員 | 山形大学COC＋推進室長          | 三 上 英 司   |
| 29 号委員 | COC＋チーフ・コーディネーター      | 滝 澤 匡     |
| 30 号委員 | 山形大学地域教育文化学部学部長       | 大 森 桂     |

（敬称略）

## 9. 2 教育プログラム開発委員会

教育プログラム開発委員会は、地域創生に資する人材育成のために必要な教育科目の開発するために置かれました。令和元年度は、就職状況及び地域創生カリキュラムの教育効果について報告しました。

### (1) 開催状況

#### ○第1回教育プログラム開発委員会

|     |                                                                                                              |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時 | 令和元年6月4日（火） 10:30～11:03                                                                                      |
| 場 所 | 山形大学法人本部第一会議室（各学部TV会議室）                                                                                      |
| 出席者 | 16人<br>(山形大学副学長1人、山形大学COC+推進室長1人、参加大学等4人、山形大学統括教育ディレクター7人、山形県COC+事業担当課長1人、COC+チーフ・コーディネーター1人、COC+コーディネーター1人) |
| 議 事 | 1 平成30年度就職状況について<br>2 地域創生カリキュラムの昨年度成果について<br>3 COC+活動報告「高大連携事業」について                                         |



### (2) メンバー (20 人)

山形大学副学長（教育担当）、山形大学副学長（社会連携担当）、山形大学COC+推進室長、山形県立米沢栄養大学長が推薦した者1人、鶴岡工業高等専門学校長が推薦した者1人、東北公益文科大学長が推薦した者1人、東北芸術工科大学長が推薦した者1人、東北文教大学長・東北文教大学短期大学部学長が推薦した者1人、山形大学統括教育ディレクター（7人）、山形県COC+事業担当課長、COC+チーフ・コーディネーター、COC+コーディネーター（3人）

### 9. 3 協働人材育成部会

COC+事業では、コーディネーターが主催する協働人材育成部会により、地域や企業等と連携して、教育プログラムの開発や地域創生の推進等に取り組んでいます。令和元年度では（令和2年1月15日現在）、本部会を延べ30回開催し、参加人数は926人となっている。以下に開催概要を、別紙によりその開催一覧を示します。

令和元年度協働人材育成部会の開催概要

| 協働形態     | 自治体<br>集落 | 企業 | 大学  |         | 他<br>（高校生、住民等） | 回数 | 事例                                                                                                                                       |
|----------|-----------|----|-----|---------|----------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          |           |    | 教職員 | 学生、サークル |                |    |                                                                                                                                          |
| 自治体<br>型 | ○         |    | ○   | ○       | ○              | 12 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生と高校生による協働活動</li> <li>・31年度科目（地域体験スタートアップ）検討会</li> <li>・ジモト大学</li> <li>・地域体験スタートアップ</li> </ul> |
| 企業<br>型  |           | ○  | ○   | ○       |                | 6  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・31年度科目（山形の森づくり体験）</li> <li>・ジモト大学</li> <li>・キャリアCafé（工学部）</li> </ul>                             |
| 地域<br>型  | ○         | ○  | ○   | ○       | ○              | 12 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オールもがみ若者定着・人材確保推進会議</li> <li>・ジモト大学</li> <li>・オーダーメイド工場見学会</li> </ul>                            |
| 計        |           |    |     |         |                | 40 |                                                                                                                                          |



令和元年度 協働人材育成部会開催状況

令和2年1月15日現在

| No | 開催日     | 開催場所                          | 部会名称                              | 内容                                                                                                                                         |                                                          |
|----|---------|-------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 1  | 4月11日   | 最上総合支庁                        | オーダーメイド工場見学会打合せ                   | 「オーダーメイド工場見学会」の打合せ                                                                                                                         | 7人<br>ヤマトテック2人、航空電子2人<br>最上総合支庁2人、コーディネーター1人             |
| 2  | 4月11日   | 山形市・東部公民館                     | 地域体験スタートアップ                       | 科目「地域体験スタートアップ」の実施にむけた打合せ                                                                                                                  | 8人<br>山形市第八地区社会福祉協議会(8)                                  |
| 3  | 4月19日   | ヤマトテック<br>山形航空電子              | オーダーメイド工場見学会                      | 「オーダーメイド工場見学会」開催<br>見学先: ヤマトテック、山形航空電子                                                                                                     | 7人<br>学生1人、ヤマトテック2人、航空電子2人、最上総合支庁1人、コーディネーター1人           |
| 4  | 4月20日   | 南陽市・上野地内市有林                   | 山形の森づくり体験                         | フィールドワーク科目「山形の森づくり体験」の事前打合せ                                                                                                                | 10人<br>NDソフトウェア社員(10)                                    |
| 5  | 5月23日   | 尾花沢市役所                        | オーダーメイド工場見学会打合せ                   | 尾花沢市役所を訪問し尾花沢地区、新庄地区開催オーダーメイド見学会の打合せ                                                                                                       | 4人<br>尾花沢市1名、フィデア総研1人<br>最上総合支庁1名、コーディネーター1人             |
| 6  | 5月28日   | 最上総合支庁                        | ジモト大学「イノベーションキャンブ」                | 8月5日～8月8日開催イノベーションキャンプ開催の打合せ                                                                                                               | 5人<br>国際事業化研究センター2人<br>最上総合支庁2人<br>コーディネーター1人            |
| 7  | 5月28日   | 新庄ニューグランドホテル                  | 第1回若者定着推進会議                       | 1. 令和元年度重点取り組み説明、2. 基調講演「若者定着・回帰は大人の親近感から」3. 新規卒業者求人早期提出の要請活動、4. 若者定着に向けた「オールもがみの思い」                                                       | 59人                                                      |
| 8  | 6月5日    | 尾花沢市役所                        | オーダーメイド工場見学会打合せ                   | 尾花沢地区見学参加企業との打ち合わせ                                                                                                                         | 10人<br>尾花沢市役所2人、オブテックス2人、大金電子2人、山陽精機1人、最上世紀2人、コーディネーター1人 |
| 9  | 6月11日   | 中核工業団地                        | ジモト大学「理工系大学に進んだその先は」              | ジモト大学「理工系大学に進んだその先は」山大OBとの打ち合わせ                                                                                                            | 山大OB3人、最上総合支庁2人、コーディネーター                                 |
| 10 | 6月13日   | 米沢キャンパス                       | オーダーメイド工場見学会                      | システム創成工学科木俣学科学長を訪問し尾花沢地区、新庄地区開催オーダーメイド見学会の打合せ                                                                                              | 5人<br>工学部教員2名、尾花沢市1名<br>最上総合支庁1名、コーディネーター1人              |
| 11 | 6月25日   | 最上総合支庁                        | ジモト大学「AgasukeHouse」プログラム          | ジモト大学「AgasukeHouse」プログラム打合せ                                                                                                                | 4人<br>学生2人、最上総合支庁1人、コーディネーター1人                           |
| 12 | 7月2日    | 中核工業団地                        | ジモト大学「しごと——ーク」                    | ジモト大学「しごと——ーク」若手女性従業員のリアルな話開催打合せ                                                                                                           | 女性従業員4人、最上総合支庁1人、コーディネーター1人                              |
| 13 | 8月1日    | 新庄北高等学校                       | ジモト大学「理工系大学に進んだその先は」              | ジモト大学「理工系大学に進んだその先は」開催<br>大学進学しジモトに帰ってきた従業員を招き、地元で働くこと暮らしていく事のイメージをの醸成を図り将来的に地元就職に繋げることを目的とする会<br>①オリエンテーション②ゲストトーク③グループトーク④個人ワーク⑤振り返り     | 20人<br>学生12人、OB3人、最上総合支庁4人、コーディネーター1人                    |
| 14 | 8月2日    | 中核工業団地                        | オーダーメイド工場見学会<br>小学生教員による地元企業見学会   | オーダーメイド工場見学会開催<br>小学生教員による地元企業見学会「新庄エレメックス、山形東亜DKK、山形メタル」                                                                                  | 最上郡内小学校教員15人<br>雇対協1人、最上総合支庁1人<br>コーディネーター1人             |
| 15 | 8月3日    | 新庄駅ゆめりあ                       | ジモト大学「AgasukeHouse」プログラム          | ジモト大学「AgasukeHouse」プログラム開催<br>高校生7人中学生2人<br>山大6人、芸工大1人、公益1人、東北大2人、早稲田大学2人<br>①大学生による大学・大学生生活紹介②自己理解を深める自己分析タイム<br>③ぐんぐん伸びる目標の立て方④なんでも相談タイム | 25人<br>高校生7人、中学生2人<br>大学生12人、最上総合支庁3人、コーディネーター1人         |
| 16 | 8月5日～8日 | 協同の杜 JA研修所<br>山形県高度技術研究開発センター | ジモト大学「イノベーションキャンブ」                | たくましく生きていく大人になる為の知恵と態度をが地で学ぶプログラム開催<br>5日:各地域の課題探究<br>6日:チーム作り、テーマ決定、アイデア発表<br>7日:メンタリング、課題解決ブラッシュアップ、プレゼン予選会<br>8日:本選発表審査会(一般公開)          | 107人<br>高校生80人、大学生7人、他20人                                |
| 17 | 8月29日   | 南陽市・夕鶴の里資料館                   | 民話語り部体験                           | フィールドプロジェクト科目「民話語り部体験」のふりかえり                                                                                                               | 3人<br>現地講師(3)                                            |
| 18 | 9月20日   | 神室産業高校                        | ジモト大学「しごと——ーク」<br>若手女性従業員のリアルな話開催 | ジモト大学「しごと——ーク」若手女性従業員のリアルな話開催<br>地元で働く女性従業員を招き、地元で働くこと暮らしていく事のイメージをの醸成を図り将来的に地元就職に繋げることを目的とする会<br>①オリエンテーション②ゲストトーク③グループトーク④個人ワーク⑤振り返り     | 53人<br>高校生43名、女性従業員6名、最上総合支庁3名、コーディネーター1人                |
| 19 | 9月26日   | 米沢キャンパス                       | オーダーメイド工場見学会                      | 米沢キャンパスを訪問、産業研究所事務長高橋由紀子氏、システム創成工学科秋山孝夫氏、吉田一也氏(一年生担任)との打ち合わせ                                                                               | 教員3人、コーディネーター1人                                          |
| 20 | 9月27日   | 新庄地区<br>尾花沢地区                 | オーダーメイド工場見学会                      | 尾花沢地区:オブテックス工業・大金電子工業、山陽精機、最上世紀<br>新庄地区:ヤマトテック・KEBジャパン・山形メタル・新庄エレメックス・マスコエンジニアリング、山形東亜DKK                                                  | 学生52人教員2人産研1人、尾花沢市役所3人、最上総合支庁2人、雇対協1人、新庄市役所1人、コーディネーター1人 |

|    |        |                             |                                  |                                                                                                                                           |                                                    |
|----|--------|-----------------------------|----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 21 | 10月1日  | 新庄北高等学校                     | ジモト大学「しごと——く」<br>若手女性従業員のリアルな話開催 | ジモト大学「しごと——く」若手女性従業員のリアルな話開催<br>地元で働く女性従業員を招き、地元で働くこと暮らしていく事のイメージをの<br>醸成を図り将来的に地元就職に繋げることを目的とする会<br>①オリエンテーション②ゲストトーク③グルーptーク④個人ワーク⑤振り返り | 19人<br>高校生13人、女性従業員3人最上<br>総合支庁2人、コーディネーター1<br>人   |
| 22 | 10月18日 | 山形市・東部公民館                   | 地域体験スタートアップ                      | 科目「地域体験スタートアップ」の実施にむけた打合せ                                                                                                                 | 7人<br>山形市第八地区社会福祉協議会<br>(7)                        |
| 23 | 11月16日 | 新庄駅ゆめりあ                     | 新庄商工見本市                          | 最上地域の優れた技術を持つ企業を一堂に集め、大学進学後、地域に<br>戻ってきて働く場があることを様々な年代の子供たちに紹介する見本市                                                                       | 参加企業25社                                            |
| 24 | 11月23日 | 鶴岡市<br>山形大学農学部3号館201教室      | 高校生と大学生との協働活動                    | 庄内地域の高校生と同地域出身の山形大学学生が、地域の課題について<br>解決策を考えた                                                                                               | 31名<br>高校生16名、大学生9名<br>教職員6名                       |
| 25 | 12月10日 | 米沢市<br>山形大学工学部<br>4号館ゼミ室1、2 | 工学部キャリアCafé                      | 県内企業に在籍する山形大学OBと主に工学部3年生と大学院1年生が対<br>話を行う中で、地域の企業の魅力、地域で働く意味を考える場とした。                                                                     | 46名<br>県内企業OB12名、人事担当者8<br>名大学生20名、教職員3名<br>マイナビ3名 |
| 26 | 12月12日 | 新庄北高等学校                     | 先輩が仕事の魅力を語る特別事<br>業              | 先輩が仕事の魅力を語る特別事業<br>地元で働く従業員を招き、地元で働くこと暮らしていく事のイメージをの醸成<br>を図り将来的に地元就職に繋げることを目的とする会<br>①オリエンテーション②ゲストトーク③グルーptーク④個人ワーク⑤振り返り                | 213人<br>高校生200人、先輩9名、最上総<br>合支庁3人、コーディネーター1人       |
| 27 | 12月22日 | 山形市<br>山形大学基盤教育3号館312<br>教室 | 高校生と大学生との協働活動                    | 村山地域の高校生と同地域出身の山形大学学生が、地域の課題について<br>解決策を考えた                                                                                               | 67名<br>高校生50名、大学生12名<br>教職員5名                      |
| 28 | 12月27日 | 山形市・柏倉地区、米沢市                | 地域のにぎわいづくり体験                     | フィールドワーク科目「地域のにぎわいづくり体験」の打合せ                                                                                                              | 2人<br>現地講師(2)                                      |
| 29 | 1月13日  | 米沢市<br>山形大学工学部<br>百周年記念会館   | 高校生と大学生との協働活動                    | 置賜地域の高校生と同地域出身の山形大学学生が、地域の課題について<br>解決策を考えた                                                                                               | 45名<br>高校生27名、大学生10名<br>教職員6名、米沢市職員2名              |
| 30 | 1月21日  | 米沢市<br>山形大学工学部<br>百周年記念会館   | 工学部キャリアCafé                      | 県内企業に在籍する山形大学OBと主に工学部3年生と大学院1年生が対<br>話を行う中で、地域の企業の魅力、地域で働く意味を考える場とした。                                                                     | 47名<br>県内企業OB10名、人事担当者6<br>名大学生25名、教職員3名<br>マイナビ3名 |

## 9. 4 若者定着推進部会（COC+担当者会議）

若者定着推進部会は、学生の山形県内定着を実質的に協議し推進するため、やまがた創生戦略協議会の下に平成30年度に設置されました。

### （1）構成（37人）

山形県、山形市、米沢市、鶴岡市、酒田市、上山市、長井市、西川町、真室川町、戸沢村、飯豊町、三川町、庄内町、遊佐町、山形県商工会議所連合会、山形県商工会連合会、山形県工業会、山形県銀行協会、山形県信用金庫協会、山形県経営者協会、山形県立米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校、東北公益文科大学、東北芸術工科大学、東北文教大学・東北文教大学短期大学部の担当者（26人）

COC+推進室長、COC+チーフ・コーディネーター、COC+コーディネーター（3人）、COC+推進室（3人）

### （2）開催状況

#### ○第1回若者定着推進部会

|     |                                                                                                                                                                                                |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時 | 令和元年6月20日（木）15:00～17:00                                                                                                                                                                        |
| 場 所 | 山形大学基盤教育1号館会議室                                                                                                                                                                                 |
| 出席者 | 23人（参加大学5人、企業7人、山形大学11人）                                                                                                                                                                       |
| 議 事 | （1）COC+参加大学等の平成30年度就職状況及び今年度の取り組みについて<br>・資料に基づき、平成30年度県内就職状況及び今年度の取り組みについて報告<br>（2）県内就職率向上に向けて<br>・地元企業の人事担当者と大学就職担当者との情報交換<br>（3）山形大学・地域創生カリキュラムの昨年度成果について<br>・資料に基づき、地域創生カリキュラムの昨年度成果について報告 |



○第2回若者定着推進部会

|     |                                                                                                                                                                                                     |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時 | 令和2年1月30日（木） 14:00～15:30                                                                                                                                                                            |
| 場 所 | 山形国際ホテル                                                                                                                                                                                             |
| 出席者 | 24人 （参加自治体10人，参加大学4人，山形大学8人，企業2人）                                                                                                                                                                   |
| 議 事 | <p>（1）オールもがみの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に基づき、今年度の取り組みについて報告</li> </ul> <p>（2）高大連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に基づき、今年度のための取組について報告</li> </ul> <p>（3）その他</p> |



## 10 令和元年度COC+シンポジウム

－高等教育機関による若者定着の“これまで”と“これから”－

日時：令和元年12月19日(木) 13:30～16:20

会場：山形国際ホテル3階富士の間

山形大学は、令和元年12月19日(木)山形国際ホテルを会場に、令和元年度COC+シンポジウム

「高等教育機関による若者定着の“これまで”と“これから”」を開催しました。

シンポジウムには、参加自治体を含む県内の自治体関係者や会社員、県内外からの教職員、学生など約90人が参加し、産学官をはじめ、各機関の強みを発揮した連携を確認する充実の機会となりました。



山形大学長挨拶

冒頭、小山清人学長から、「山形県と全国の人口推移比較で、関東地域への人口流失を食い止め、より良い山形にするため一緒に考えていきたい。」と挨拶があり、来賓の山形県企画振興部企画調整課 鍵水功泰課長から、「オールやまがたの取組で若者の県内定着を促進するため支援したい」と挨拶がありました。



山形県来賓挨拶

第1部では、三上英司（COC+推進室長）から「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」について、趣旨説明が行われました。



趣旨説明

続いて第2部では、滝澤匡（COC+チーフ・コーディネーター）から、COC+事業全体の成果が報告されました。

また、連携高等教育機関の滝澤匡（COC+チーフ・コーディネーター）、山口順子氏（山形県立米沢栄養大学）、和田真人氏（鶴岡工業高等専門学校）、小野敦氏（東北公益文科大学）、野村真司氏（東北芸術工科大学）、南條正人氏（東北文教大学・東北文教大学短期大学部）から、4年間の活動内容と成果報告が行われました。

第3部のパネルディスカッションでは、大森桂（地域教育文化学部長）が進行を務め、県内企業および連携自治体からご意見をいただき、山形県の将来を担う若者の定着にむけて高等教育機関が果たすべき役割について、行政、産業、教育機関が総力をあげ、連携して取り組んでいく必要があることが確認されました。



成果報告



パネルディスカッション

## 11 広報紙「やまがた創生便り」

広報紙「やまがた創生便り」は、学生目線で地方創生・人材育成を考え、大学関係機関に限らず、広く山形県内に情報を発信することを目的として、平成28年1月に第1号を発行し、平成29年度は4回、平成30年度以降は年3回の定期発行に位置付けて取り組んでいる。

「やまがた創生便り」の特徴は、学生からの寄稿を積極的に掲載し、学生が主体的に地方創生に参加している大学教育を周知するとともに、平成30年度からは、参加自治体による地域人材の育成や定着に関する取組を周知していることにある。

特に、学生による記事の執筆と参加自治体による取組の掲載は、地方創生マインドの形成と地域市民の地元定着活動の理解に繋がると期待している。

情報発信による波及効果としては、学生の地域を見る目・地域市民の学生を見る目の形成、学生のまちづくりへの寄与、大学教員の地域貢献活動の高まりと、参加自治体によるまちづくり活動への参加などが挙げられる。

現在、広報活動の一環として、平成29年8月発行の第6号から、米沢市と鶴岡市の協力を得て、同市自治会による「やまがた創生便り」の全戸回覧を実施している。

さらに、平成30年8月発行の第10号からは、長井市と遊佐町から協力が得られ、4市町自治会による全戸回覧が実現している。

これにより、COC+事業における参加校と参加自治体の取組や成果の更なる周知と地域市民の理解促進が図られ、多様な波及効果が期待できると考えている。

今後更に地域市民と意識の共有を図り、地域市民による外部評価等もCOC+事業に取り込んでいきたい。

『やまがた創生便りURL: [http://www.yamagata-u.ac.jp/coc/coc\\_plus/publish/index.html](http://www.yamagata-u.ac.jp/coc/coc_plus/publish/index.html)』





12. 1 新規学卒者採用調査

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

調査の目的は、COC+事業において若者の地元定着に有効な地域創生戦略策を提示するために、県内企業等がどのような学卒者の採用を行っているのかなどの採用実態を把握することです。

(2) 調査の方法

- ・調査主体：山形大学COC+推進室
- ・調査方法：質問紙法（別紙のアンケート用紙を調査対象者に郵送し、調査対象者が回答を郵送する）
- ・調査期間：平成29年8月21日から9月8日まで

(3) 調査内容

- ① 調査対象者の属性（所在地、経営形態、社員・職員数、業種）
- ② 平成27年3月から平成29年4月までの学卒者・新規学卒者の採用人数
- ③ 採用ギャップ等（平成29年採用における採用予定者数の確保、山形県出身者であることの重要度、山形県内大学等の卒業生であることの重要度、平成29年の採用ギャップ）
- ④ 教育、就職支援についての意見等（自由記載）なお、別紙「学卒者採用に関わるアンケート」を参照のこと。

別紙

学卒者採用に関わるアンケート

このアンケートは、山形県内に本店のある会社、そうでない会社でも地元採用を行う会社及び個人経営の事業所を対象としています。それ以外の場合はこのアンケートへの回答は行っていただく必要はありませんのでよろしくお願いいたします。

1 貴社の所在地等についてお伺いします。

- (1) 所在地（本店のある市町村名）
- (2) 経営形態（該当するところに☑を記載ください） □個人経営 □会社 □会社以外の法人
- (3) 社員数[常時雇用されている者の人数]（該当するところに☑を記載ください）  
□1～19 □20～29 □30～49 □50～99 □100～299 □300～
- (4) 業種（該当するところに☑を記載ください）  
□農林水産業 □建設業 □製造業 □電気・ガス・熱供給・水道業 □情報通信業 □運輸業、郵便業 □卸売業、小売業  
□金融業、保険業 □不動産業、物品賃貸業 □学術研究、専門・技術サービス業 □宿泊業、飲食店サービス業  
□生活関連サービス業、娯楽業 □教育、学習支援業 □医療、福祉 □複合サービス業 □サービス業 □公務

2 平成27年3月～平成29年4月までの期間における学卒者の採用についてお伺いします。

- (1) 貴社において採用した学卒者（常時雇用されている者）の人数を記載ください。 \_\_\_\_\_人
- (2) (1)の採用人数のうち、新規学卒者（卒業直後の学生）の人数を記載ください。 \_\_\_\_\_人

- (3) (2)の採用者数を、採用者の卒業学校別に下表に記載ください。計の欄の数は上記(2)の人数と一致します。

| 大学院 | 4年制大学 | 短期大学 | 高等専門学校 | 短期大学校、専修学校 | 計 |
|-----|-------|------|--------|------------|---|
|     |       |      |        |            |   |

- (4) (3)の卒業学校別採用者数を、学校の所在地別に下表に記載ください。

|      | 大学院 |    |     | 4年制大学 |    |     | 短期大学 |    |     | 高等専門学校 |    |     | 短期大学校、専修学校 |    |     | 計   |    |     |
|------|-----|----|-----|-------|----|-----|------|----|-----|--------|----|-----|------------|----|-----|-----|----|-----|
|      | 山形県 | 東北 | その他 | 山形県   | 東北 | その他 | 山形県  | 東北 | その他 | 山形県    | 東北 | その他 | 山形県        | 東北 | その他 | 山形県 | 東北 | その他 |
| 採用者数 |     |    |     |       |    |     |      |    |     |        |    |     |            |    |     |     |    |     |

- (5) 出身地（卒業高校の都道府県名）別採用者数を下表に記載ください。なお(4)とこの表の数値は一致します。

|  | 出身地 | 大学院 |    |     | 4年制大学 |    |     | 短期大学 |    |     | 高等専門学校 |    |     | 短期大学校、専修学校 |    |     | 計   |    |     |
|--|-----|-----|----|-----|-------|----|-----|------|----|-----|--------|----|-----|------------|----|-----|-----|----|-----|
|  |     | 山形県 | 東北 | その他 | 山形県   | 東北 | その他 | 山形県  | 東北 | その他 | 山形県    | 東北 | その他 | 山形県        | 東北 | その他 | 山形県 | 東北 | その他 |
|  | 山形県 |     |    |     |       |    |     |      |    |     |        |    |     |            |    |     |     |    |     |
|  | 東北  |     |    |     |       |    |     |      |    |     |        |    |     |            |    |     |     |    |     |
|  | その他 |     |    |     |       |    |     |      |    |     |        |    |     |            |    |     |     |    |     |
|  | 計   |     |    |     |       |    |     |      |    |     |        |    |     |            |    |     |     |    |     |

3 採用ギャップ（採用の意向と採用実態との違い）についてお伺いします。

- (1) 平成29年の採用（平成29年3月以降の採用をいう、以下同じ）では、当初の採用予定者数を確保できましたか。  
□確保できた □確保できなかった □その他 \_\_\_\_\_

- (2) 採用に当たっては、山形県出身者（山形県の高校を卒業している者）であることを重要な要素としていますか。  
□重要である □重要とはしていない □どちらともいえない □その他 \_\_\_\_\_

- (3) 採用に当たっては、山形県にある大学、短期大学等の卒業生であることを重要な要素としていますか。  
□重要である □重要とはしていない □どちらともいえない □その他 \_\_\_\_\_

- (4) 平成29年の採用では、採用ギャップ（採用の意向と採用実態との違い）について次のどのような状況でしたか。  
□意向以上の採用がなされた □意向どおりに採用された □意向よりも下回って採用がなされた  
□どちらともいえない □その他 \_\_\_\_\_

4 山形県内の大学等高等教育機関における教育及び就職支援について、ご意見、ご要望等をお聞かせください。

以上でアンケートは終了します。ご協力誠にありがとうございました。

#### (4) 調査対象者

調査対象者は、山形県に本店のある会社等及び会社以外の法人並びに地方公共団体であり、その総数は下表のとおり 1,609 件です。

会社等については山形県内の各商工会議所議員及び各商工会役員を、会社以外の法人は学校法人、社会福祉法人、医療法人、J A 及び大学を、地方公共団体は山形県、市町村及び一部事務組合を、それぞれ対象とします。

|         |       |
|---------|-------|
| 会社等※    | 1,219 |
| 会社以外の法人 | 343   |
| 地方公共団体  | 47    |
| 計       | 1,609 |

※個人経営の事業所も含む。

#### (5) 回答状況

全体で 624 となり、回答率は 38.8%でした。

※個人経営事業所も含む。

| 調査対象者   | 対象者数  | 回答数 | 回答率(%) |
|---------|-------|-----|--------|
| 会社等※    | 1,219 | 422 | 34.6   |
| 会社以外の法人 | 343   | 169 | 49.3   |
| 地方公共団体  | 47    | 33  | 70.2   |
| 計       | 1,609 | 624 | 38.8   |

## 2 集計結果

### 2.1 回答者の属性

#### (1) 所在地

|     | 村山地域 |     |  | 最上地域 |    |  | 置賜地域 |     |  | 庄内地域 |     |  |
|-----|------|-----|--|------|----|--|------|-----|--|------|-----|--|
|     | 山形市  | 111 |  | 新庄市  | 32 |  | 米沢市  | 51  |  | 鶴岡市  | 62  |  |
| 市町村 | 寒河江市 | 15  |  | 金山町  | 5  |  | 長井市  | 23  |  | 酒田市  | 65  |  |
|     | 上山市  | 14  |  | 最上町  | 7  |  | 南陽市  | 16  |  | 三川町  | 3   |  |
|     | 村山市  | 8   |  | 舟形町  | 6  |  | 高畠町  | 10  |  | 庄内町  | 9   |  |
|     | 天童市  | 35  |  | 真室川町 | 6  |  | 川西町  | 14  |  | 遊佐町  | 7   |  |
|     | 東根市  | 13  |  | 大蔵村  | 6  |  | 小国町  | 7   |  |      |     |  |
|     | 山辺町  | 10  |  | 鮭川村  | 2  |  | 白鷹町  | 12  |  |      |     |  |
|     | 中山町  | 11  |  | 戸沢村  | 2  |  | 飯豊町  | 7   |  |      |     |  |
|     | 河北町  | 6   |  |      |    |  |      |     |  |      |     |  |
|     | 西川町  | 5   |  |      |    |  |      |     |  |      |     |  |
|     | 朝日町  | 8   |  |      |    |  |      |     |  |      |     |  |
|     | 大江町  | 11  |  |      |    |  |      |     |  |      |     |  |
|     | 大石田町 | 7   |  |      |    |  |      |     |  |      |     |  |
|     | 尾花沢市 | 10  |  |      |    |  |      |     |  |      |     |  |
| 計   | 616  | 264 |  |      | 66 |  |      | 140 |  |      | 146 |  |
| 合計  |      |     |  |      |    |  |      |     |  |      |     |  |

#### (2) 経営形態

|         |     |
|---------|-----|
| 個人      | 32  |
| 会社      | 355 |
| 会社以外の法人 | 204 |
| 地方公共団体  | 33  |
| 計       | 624 |

#### (3) 社員（職員）数

|         |     |
|---------|-----|
| 1～19 人  | 188 |
| 20～29   | 71  |
| 30～49   | 87  |
| 50～99   | 99  |
| 100～299 | 117 |
| 300～    | 53  |
| 計       | 615 |

#### (4) 業種

|                 |    |              |     |               |     |
|-----------------|----|--------------|-----|---------------|-----|
| 農林水産業           | 4  | 建設業          | 86  | 製造業           | 102 |
| 電気・ガス・熱供給・水道業   | 12 | 情報通信業        | 6   | 運輸業、郵便業       | 10  |
| 卸売業、小売業         | 80 | 金融業、保険業      | 13  | 不動産業、物品賃貸業    | 3   |
| 学術研究、専門・技術サービス業 | 12 | 宿泊業、飲食店サービス業 | 15  | 生活関連サービス業、娯楽業 | 4   |
| 教育、学習支援業        | 58 | 医療、福祉        | 105 | 複合サービス業       | 14  |
| サービス業           | 32 | 公務           | 33  | 計             | 589 |

### 2.2 新規学卒者の採用

(注) 採用は平成 27 年 3 月～平成 29 年 4 月までの期間における採用とする。また、高等教育の学校の卒業者を学卒者とし、そのうち、卒業直後の学卒者を新規学卒者とする。

#### (要約)

- ① 学校別採用については、大学・大学院と短大・高専等との比率がおおよそ 60:40 である。  
社員数別で見ると、規模が大きくなるほど大卒者の採用が高まるが、短大の採用はその逆になり、高専等は規模に関係なく一定の率で採用されている。  
業種別では、大学、短大、高専等の比率がそれぞれ高い業種が見られる。
- ② 学校所在地別採用については、山形県と東北・その他との比率がおおよそ 50:50 である。  
一方、大学の場合は、山形県と東北とその他との比率がおおよそ 30:30:40 となり、山形県以外からの採用が非常に多い。また、学校所在地別採用における大学の割合は、東北では 70% 近く、その他では 80% を超えている。
- ③ 出身地別採用については、山形県と東北・その他との比率がおおよそ 90:10 である。大学の場合は、東北・その他の比率がやや高まり、16 となっている。さらに、学校所在地には関わりなく一様に山形県出身者の採用が 80% を超えている。
- ④ ②と③の傾向については、山形県高校生大学進学先（平成 29 年）において山形県と東北とその他との比率が 21:28:51 であることを反映しているものと思われる。

#### (1) 学卒者と新規学卒者の採用

- ・学卒者採用人数は 6,473 人、うち新規学卒者採用人数は 2,783 人（学卒者採用の 43%）

#### (2) 新規学卒者採用（出身地までの有効回答集計）

| 学校<br>(所在地) | 大学院 |    |    | 4 年制大学 |     |     | 短期大学 |     |    | 高等専門学校<br>短期大学校<br>専修学校 |     |     | 計   |      |     |      |
|-------------|-----|----|----|--------|-----|-----|------|-----|----|-------------------------|-----|-----|-----|------|-----|------|
|             | 出身地 | 山形 | 東北 | 計      | 山形  | 東北  | 計    | 山形  | 東北 | 計                       | 山形  | 東北  | 計   | 山形   | 東北  | 計    |
| 出身地         | 山形  | 22 | 5  | 42     | 387 | 374 | 1227 | 318 | 44 | 381                     | 453 | 153 | 670 | 1180 | 576 | 2320 |
|             | 東北  | 3  | 8  | 13     | 44  | 58  | 141  | 1   | 2  | 4                       | 4   | 10  | 15  | 52   | 78  | 173  |
|             | 他   | 5  | 0  | 11     | 14  | 12  | 95   | 2   | 0  | 2                       | 1   | 1   | 6   | 22   | 13  | 114  |
| 計           |     | 30 | 13 | 66     | 445 | 444 | 1463 | 321 | 46 | 387                     | 458 | 164 | 691 | 1254 | 667 | 2607 |

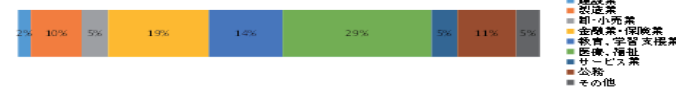
(注) 以下の図表では、「4年制大学」を「大学」、「短期大学」を「短大」、「高等専門学校、短期大学校、専修学校」を「高専等」と表記する。

# ① 社員数別、業種別、学校別、学校所在地別、出身地別及び山形県地域別の新規学卒者採用は次のとおりです。

## ○社員数別



## ○業種別



## ○学校別



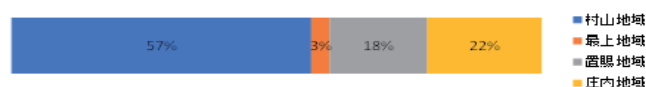
## ○学校所在地別



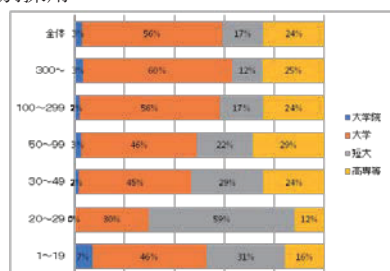
## ○出身地別



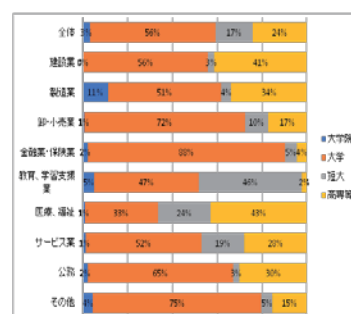
## ○山形県地域別



# ② 学校別採用

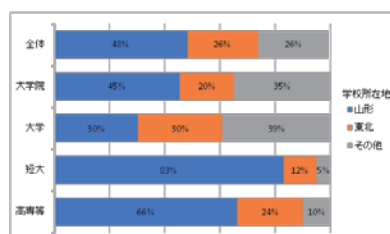


(a) 社員数別



(b) 業種別

# ③ 学校所在地別採用

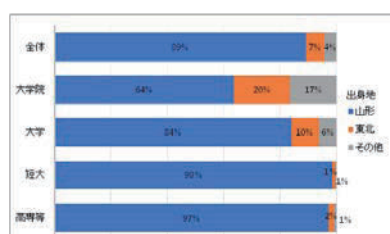


(a) 学校別に見た学校所在地別採用

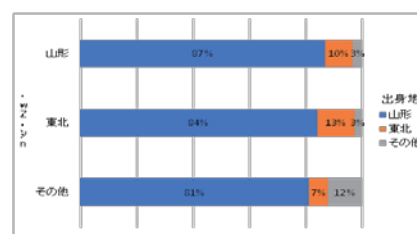


(b) 学校所在地における学校別採用

# ③ 出身者別採用



(a) 学校別



(b) 学校所在地別

# (3) 山形県地域別新規学卒者採用

## (要約)

- 採用の地域別割合(村山 57%、最上 3%、置賜 18%、庄内 22%)は、平成 26 年度市町村内総生産の地域別割合(村山 50%、最上 6%、置賜 19%、庄内 24%)に類似している。
- 学校別の採用では、村山及び庄内が大学の割合、置賜、村山が短大の割合、最上、庄内が高専等の割合が、それぞれ高くなっている。地域における高等教育機関のあり方が影響していると思われる。
- 学校所在地別採用では、特に庄内地域において山形県、東北、その他のいずれからも平均的に採用されている。
- 出身地別採用は、どの地域でも山形県出身者の割合が 90%前後になっている。

- ① 村山地域 学卒者採用 3,625 人（うち新規学卒者 1,778 人 出身地までの有効回答 1,474 人）

|     |    | 大学院 |    |    | 4 年制大学 |     |     | 短期大学 |    |     | 高等専門学校<br>短期大学校<br>専修学校 |    |     | 計   |     |      |
|-----|----|-----|----|----|--------|-----|-----|------|----|-----|-------------------------|----|-----|-----|-----|------|
|     |    | 山形  | 東北 | 計  | 山形     | 東北  | 計   | 山形   | 東北 | 計   | 山形                      | 東北 | 計   | 山形  | 東北  | 計    |
| 出身地 | 山形 | 14  | 2  | 24 | 238    | 215 | 739 | 210  | 13 | 225 | 216                     | 67 | 299 | 678 | 297 | 1287 |
|     | 東北 | 1   | 7  | 10 | 27     | 36  | 92  | 0    | 2  | 3   | 4                       | 3  | 7   | 32  | 48  | 112  |
|     | 他  | 3   | 0  | 7  | 10     | 12  | 63  | 2    | 0  | 2   | 0                       | 1  | 3   | 15  | 13  | 75   |
| 計   |    | 18  | 9  | 41 | 275    | 263 | 894 | 212  | 15 | 230 | 220                     | 71 | 309 | 725 | 358 | 1474 |

- ② 最上地域 学卒者採用 333 人（うち新規学卒者 107 人 出身地までの有効回答 91 人）

|     |    | 大学院 |    |   | 4 年制大学 |    |    | 短期大学 |    |    | 高等専門学校<br>短期大学校<br>専修学校 |    |    | 計  |    |    |
|-----|----|-----|----|---|--------|----|----|------|----|----|-------------------------|----|----|----|----|----|
|     |    | 山形  | 東北 | 計 | 山形     | 東北 | 計  | 山形   | 東北 | 計  | 山形                      | 東北 | 計  | 山形 | 東北 | 計  |
| 出身地 | 山形 | 1   | 0  | 1 | 16     | 10 | 37 | 7    | 3  | 10 | 27                      | 8  | 36 | 51 | 21 | 84 |
|     | 東北 | 0   | 0  | 0 | 2      | 4  | 6  | 0    | 0  | 0  | 0                       | 0  | 0  | 2  | 4  | 6  |
|     | 他  | 0   | 0  | 0 | 0      | 0  | 1  | 0    | 0  | 0  | 0                       | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  |
| 計   |    | 1   | 0  | 1 | 18     | 14 | 44 | 7    | 3  | 10 | 27                      | 8  | 36 | 53 | 25 | 91 |

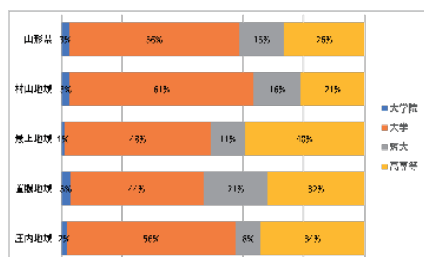
- ③ 置賜地域 学卒者採用 896 人（うち新規学卒者 500 人 出身地までの有効回答 480 人）

|     |    | 大学院 |    |    | 4 年制大学 |    |     | 短期大学 |    |     | 高等専門学校<br>短期大学校<br>専修学校 |    |     | 計   |     |     |
|-----|----|-----|----|----|--------|----|-----|------|----|-----|-------------------------|----|-----|-----|-----|-----|
|     |    | 山形  | 東北 | 計  | 山形     | 東北 | 計   | 山形   | 東北 | 計   | 山形                      | 東北 | 計   | 山形  | 東北  | 計   |
| 出身地 | 山形 | 6   | 1  | 10 | 60     | 54 | 161 | 74   | 19 | 101 | 108                     | 32 | 146 | 248 | 106 | 418 |
|     | 東北 | 1   | 0  | 1  | 7      | 13 | 29  | 1    | 0  | 1   | 0                       | 5  | 5   | 9   | 18  | 36  |
|     | 他  | 1   | 0  | 3  | 2      | 0  | 21  | 0    | 0  | 0   | 1                       | 0  | 2   | 4   | 0   | 26  |
| 計   |    | 8   | 1  | 14 | 69     | 67 | 211 | 75   | 19 | 102 | 109                     | 37 | 153 | 261 | 124 | 480 |

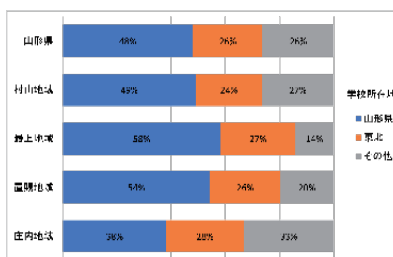
- ④ 庄内地域 学卒者採用 1566 人（うち新規学卒者 746 人 出身地までの有効回答 562 人）

|     |    | 大学院 |    |    | 4 年制大学 |     |     | 短期大学 |    |    | 高等専門学校<br>短期大学校<br>専修学校 |    |     | 計   |     |     |
|-----|----|-----|----|----|--------|-----|-----|------|----|----|-------------------------|----|-----|-----|-----|-----|
|     |    | 山形  | 東北 | 計  | 山形     | 東北  | 計   | 山形   | 東北 | 計  | 山形                      | 東北 | 計   | 山形  | 東北  | 計   |
| 出身地 | 山形 | 1   | 2  | 7  | 73     | 95  | 290 | 27   | 9  | 45 | 102                     | 46 | 189 | 203 | 152 | 531 |
|     | 東北 | 1   | 1  | 2  | 8      | 5   | 14  | 0    | 0  | 0  | 0                       | 2  | 3   | 9   | 8   | 19  |
|     | 他  | 1   | 0  | 1  | 2      | 0   | 10  | 0    | 0  | 0  | 0                       | 0  | 1   | 3   | 0   | 12  |
| 計   |    | 3   | 3  | 10 | 83     | 100 | 314 | 27   | 9  | 45 | 102                     | 48 | 193 | 215 | 160 | 562 |

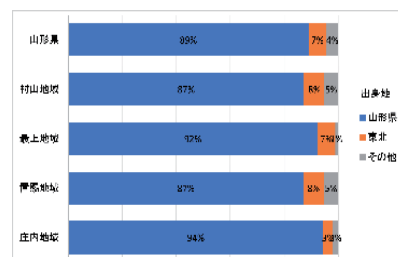
○地域別に見る採用



(a) 学校別



(b) 所在地別



(c) 出身地別

## 2.3 採用ギャップ（採用の意向と採用実態との違い）

（要約）

- ① 山形県という要素の重要性

「山形県内学校卒業生」と「山形県出身者」の重要性は、「重要としていない」がそれぞれ、65%、48%であり、いずれも「重要としていない」>「重要である」の傾向にある。そのような中で、「山形県出身」については「重要である」が29%と小さくはない割合を示している。

- ② 採用ギャップ

「意向以上の採用、意向通りの採用」（37%）が「意向を下回る採用」（29%）を上回っており、社員数の規模が大きくなるほどその傾向が顕著になる。また、業種別にみると、「意向以上の採用」は「サービス業」で、「意向通りの採用」は「金融業・保険業と公務」で、「意向を下回る採用」は「卸・小売業と教育、学修支援業、医療、福祉」で、それぞれ顕著に示されている。



| 設問                                        | 選択肢              | 回答  |       |
|-------------------------------------------|------------------|-----|-------|
|                                           |                  | 回答数 | %     |
| (1) 平成 29 年の採用において当初の採用予定者数を確保できたか        | 確保できた            | 166 | 29.6% |
|                                           | 確保できなかった         | 275 | 49.0% |
|                                           | その他              | 120 | 21.4% |
|                                           |                  |     |       |
| (2) 採用に当たって山形県出身者であることを重要な要素としているか        | 重要である            | 166 | 29.1% |
|                                           | 重要とはしていない        | 275 | 48.2% |
|                                           | どちらともいえない        | 120 | 21.0% |
|                                           | その他              | 10  | 1.8%  |
| (3) 採用に当たって山形県にある大学等の卒業生であることを重要な要素としているか | 重要である            | 70  | 12.3% |
|                                           | 重要とはしていない        | 367 | 64.6% |
|                                           | どちらともいえない        | 121 | 21.3% |
|                                           | その他              | 10  | 1.8%  |
| (4) 平成 29 年採用において採用ギャップについてどのような状況だったか    | 意向以上の採用ができた      | 24  | 5.0%  |
|                                           | 意向どおりに採用された      | 157 | 32.4% |
|                                           | 意向よりも下回って採用がなされた | 139 | 28.7% |
|                                           | どちらともいえない        | 80  | 16.5% |
|                                           | その他              | 84  | 17.4% |

○平成 29 年度における予定者数の確保



○県内学校卒業生の重要性



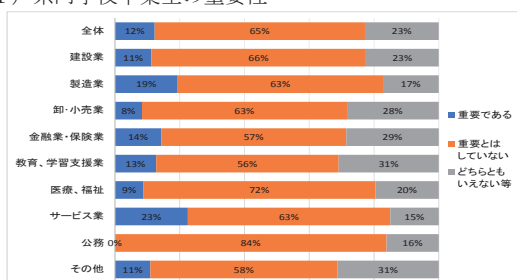
○山形県出身であることの重要性



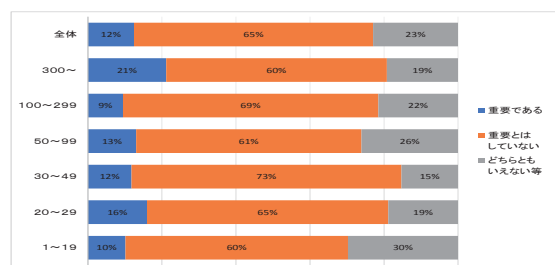
○平成 29 年度採用における採用ギャップ



(1) 県内学校卒業生の重要性

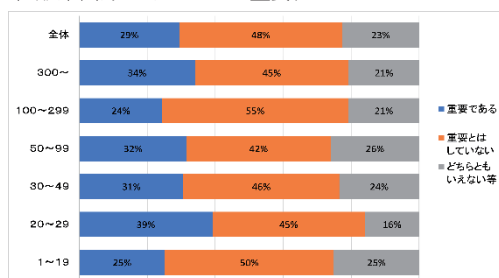


(a) 社員数別

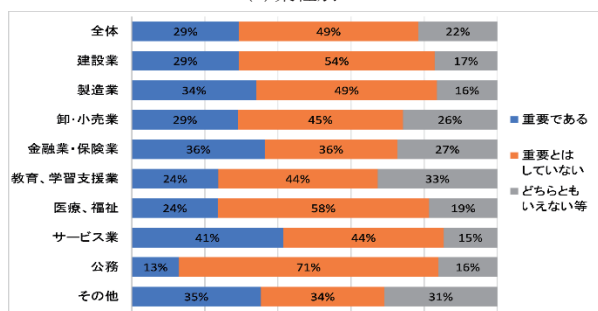


(b) 業種別

(2) 山形県出身であることの重要性

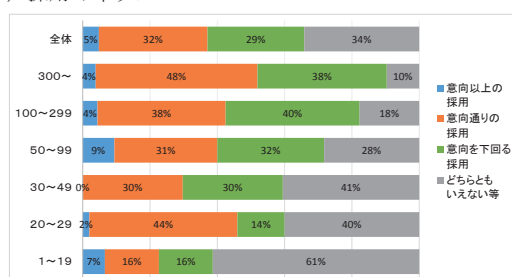


(a) 社員数別

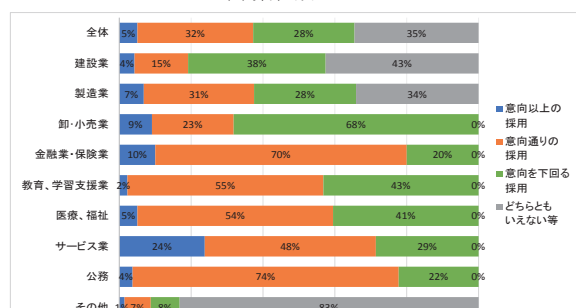


(b) 業種別

(3) 採用ギャップ



(a) 社員数別



(b) 業種別

## 12. 2 山形大学就職調査

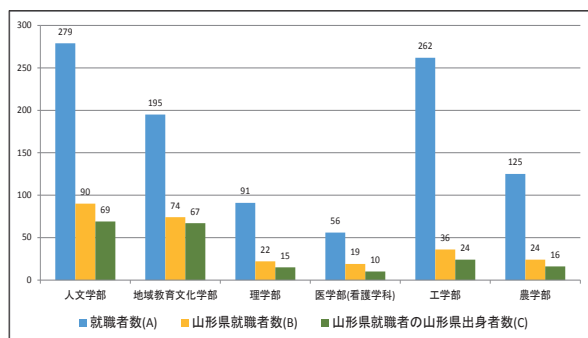
### 1 平成29年度の就職状況

- ・理系の学部での山形県就職者率が低くなっている。

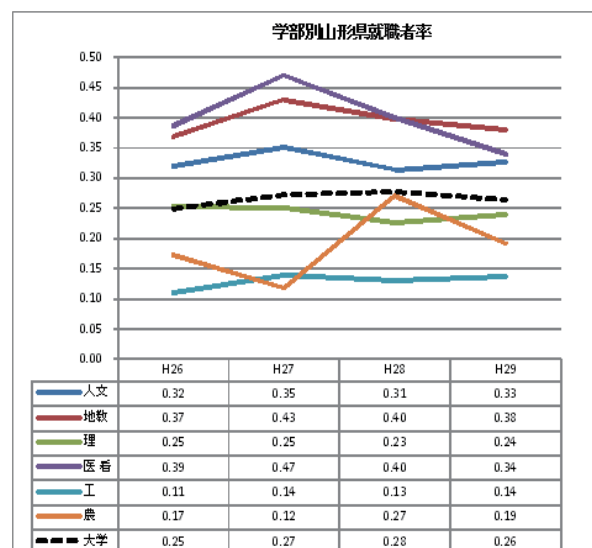
### 2 山形県就職者率<sup>(注)</sup>の推移

(注)「山形県就職者率」とは、山形県への就職者数を全体の就職者数で除した割合。

- ・大学全体としては、ほぼ一定で推移し、増加傾向にあるとはいえない。
- ・学部別にみると、農学部や医学部看護学科では大きな変化(±10%超)が見られる。



|                    | 人文学部 | 地域教育文化学部 | 理学部 | 医学部(看護学科) | 工学部 | 農学部 | 大学  |
|--------------------|------|----------|-----|-----------|-----|-----|-----|
| 山形県就職者率 B/A        | 32%  | 38%      | 24% | 34%       | 14% | 19% | 26% |
| 山形県就職者の山形県出身者率 C/B | 77%  | 91%      | 68% | 53%       | 67% | 67% | 76% |



### 3 山形県出身者の山形県就職者率の推移

- ・山形県出身者の山形県就職者率は、ほぼ一定で推移している。
- ・マイナビ調査<sup>(注)</sup>結果によれば、「地元就職希望(最も就職したい都道府県が卒業校都道府県と一致)の割合の全国平均が逡減傾向にある」が、山形大学では上記のことから必ずしもそのようなことはない。
- (注) (株)マイナビ「2019年卒 マイナビ大学生Uターン・地元就職に関する調査」

### 4 山形県就職者に占める各県の比率

- ・山形県就職者の各県構成については、山形県がほぼ4分の3を占め、宮城県と福島県の3県ではほぼ90%を占める。

### 5 山形県出身者の宮城県就職化

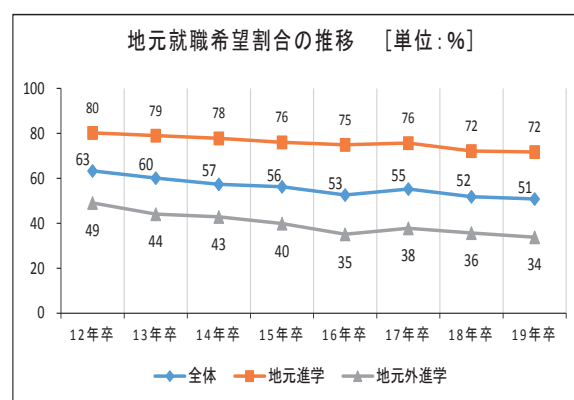
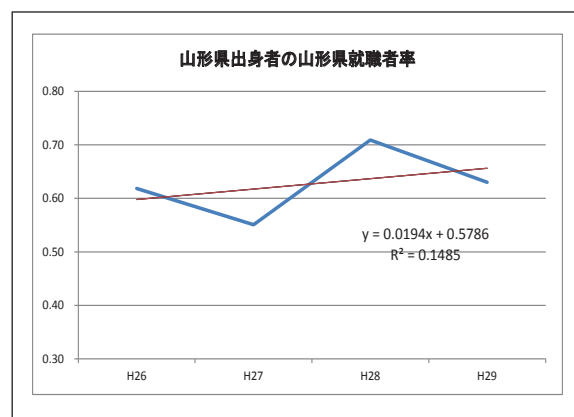
- ・マイナビ調査では、「志望する企業の地理的範囲を隣接する都道府県まで」と回答する学生が39%に及んでいる。これは山形県出身者の宮城県就職化という現象ともいえる。しかしながら、これについては、実態的にははっきり示されていない。
- ・一方で、山形県出身者の山形県就職者率が低下すれば、同宮城県就職者率は高くなるという関係があり、「弱い宮城県就職化」が進んでいるといえる。

### 6 各県の地元定着率

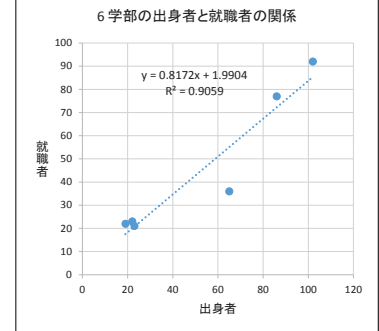
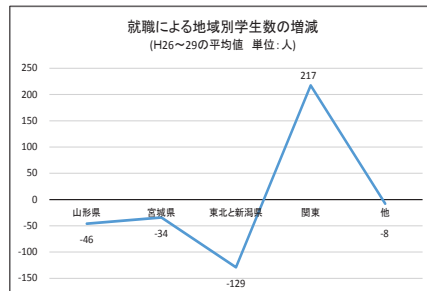
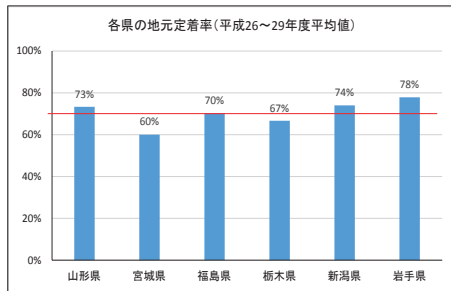
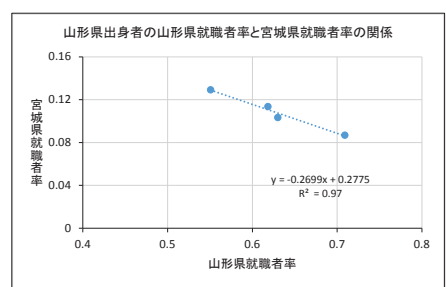
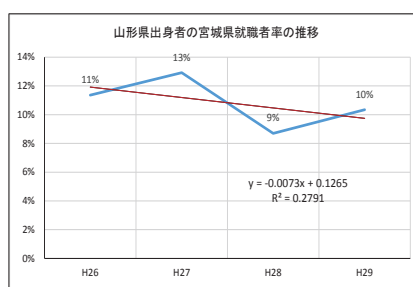
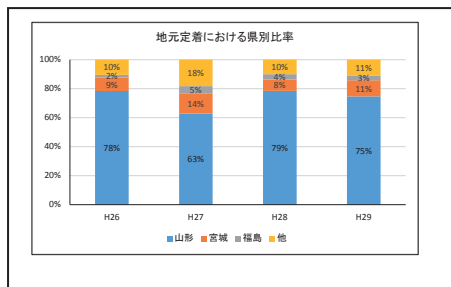
- ・例えば「山形県の地元定着」とは、「山形県出身者が山形県に就職すること」をいう。
- ・入学が多い上位6県の地元定着率については、平成26～29年度のその平均値は70%であり、宮城県を除いて山形県のレベルにある。

### 7 就職による地域別学生数の増減

- ・山形県への就職に伴い入学時点と比較した学生数の増減は、[(山形県への就職者数) - (全就職者のうち山形県出身者数)]として示すことができる。他の地域についても同様に学生数の増減を把握できる。このことについて平成26～29年度の平均値で見ると、右図のようになる。
- ・関東地域(特に東京都)においてのみ学生数が増加している。



引用：(株)マイナビ『2019年卒 マイナビ大学生Uターン・地元就職に関する調査』



(注) 6 学部の数値は平成 26～29 年度の各平均値

## ● 山形県就職者率+10%による山形県出身者の増加推計

COC+事業では山形県就職者率を+10%とすることを目標としている。しかしながら、その目標達成は容易でないのだが、その要因はどこにあるのか、を把握するのが非常に難しい。それは、就職者数の増減要因は、入学者数であったり、さらには大学教育、企業の雇用動向、地域の雇用力、地域文化等の多様な要因が想定されるためと考えられる。ここでは、次の(1)で示されるように、就職者数と出身者数が強い相関関係にあることを利用して、山形県就職者率+10%によって山形県出身者はどれだけ増加する必要があるのか、という推計を試みる。なお、当然のことではあるが、その結果になれば山形県就職者率+10%が達成されるというものではない。

### (1) 就職者と出身者の関係

各学部の、平成 26 年度～29 年度の山形県就職者と山形県出身者を基にして、6 学部の山形県就職者と山形県出身者について相関関係を見ると、右図のように、強い正の相関関係にあることが分かる。

### (2) 山形県就職者率+10%による平成 29 年度山形県出身者の増加推計

上記(1)の相関分析における 1 次回帰式を利用して、山形大学の平成 29 年度の場合に当てはめながら、山形県就職者率+10%となれば山形県出身者数はどのように増減するのか、について推計する。その結果、山形県就職者率+10%による山形県就職者の増加(+102 人)に伴って、山形県出身者は+124 人を必要としている。すなわち山形県出身者率でみれば+12%となるように必要としている、となる。

### (3) 山形県就職者率+10%による平成 29 年度山形県学生数増減の推計

就職者と出身者の相関関係が強い関係であることを前提として、就職者が $\alpha$ 人増えた場合に山形県の出身者が $\beta$ 人増える、と想定する。この時の山形県の学生数増減は $(\alpha - \beta)$ となり、 $\alpha > \beta$ であれば学生数は従前よりも増加する。山形県就職者率が+10%となる場合の $\alpha - \beta$ を推計すると、平成 29 年度の例では、-50 人から-22 人となる。

このようなことから、山形県就職者率が+10%となれば、山形県学生数増減のマイナス幅が小さくなる、と推計される。

### (4) 関東の学生数増減と山形県の学生数増減との関係

上記(3)における山形県の学生数増減が-22 人というのは平成 28 年度レベルであるが、前年度の平成 27 年度と比較した平成 28 年度の学生数増減は、山形県+13 人、関東-19 人、それ以外+6 人となる。山形県の学生数増減は関東のその影響を強く受けていると思われる。

同様に、平成 27 年度、29 年度についても前年度比較を行うと、山形県と関東の前年度比較学生数増減は強い負の相関関係にある( $R=0.89$ )。山形県の学生数増減は関東のそれに正反対の関係で増減する、と推測される。同時に、このことから、関東の学生数増減が減少すれば、山形県出身者が減少する場合でも山形県就職者の増加が生じることもある、と推測される。

### (5) 山形県就職者率が+10%に近づくための大学における方策

今までの検討から、山形県就職者率を+10%とすることは非常に困難であることが分かるが、それに近づくための大学における方策について、現在の取組も含めて、概略を記す。

#### ① 山形県出身者(入学者)率を高めることの方策

- ・ 高大連携
- ・ 山形県出身者の入学者を高める特別な方策

#### ② 山形県出身者又は他県出身者の山形県就職者率を高めることの方策

- ・ 1 年次も含めてインターンシップ者の増加
- ・ キャリア Café
- ・ 1 年次山形志向科目学習の強化
- ・ 専門科目課程における山形志向科目学習の強化

## 12. 3 就職意識調査

### 1 調査の概要

#### (1) 趣旨

山形大学地域教育文化学部学生の就職意識を以下の視点で把握するために調査を行う。

#### ○就職意識

ここでは、就職意識を「就職先を選定する際の考え方」として、進路検討時期、進路検討に影響を及ぼした情報、就職先選定時理由、地元就職理由、親の関心の5項目について調査を行う。

また、地元志向については、先行研究<sup>(注)</sup>があり、そこで把握された傾向が山形大学においても確認できるのか等について把握する。

(注) 平尾元彦、重松正徳 2006、「大学生の地元志向と就職意識」『大学教育』3：161-168

#### ○大学教育と就職意識

就職に影響を与える大学教育とはどのようなものがあるのか、を把握するために、地域創生カリキュラムや地域学習の進路影響度並びにインターンシップの受講状況について調査を行う。県内・県外就職者の比較から県内就職者の特徴を把握する。

### (2) 調査方法

・別紙の質問紙による。

・調査時期は平成31年1月30、31日である。

### (3) 回答状況

・調査対象者は地域教育文化学部卒業予定者270人である。

・回答者234人(回答率87%)のうち、就職者202人、進学者22人、その他10人である。

### 2 調査の結果

以下、調査結果は、「回答者全体」(以下、全体)、「山形県出身者で山形県就職者」(以下、山形就職者1)、「山形県以外出身者で山形県就職者」(以下、山形就職者2)の組み合わせで示す。

#### [調査結果の要約]

・進路検討時期は約60%が3年次で、就職に影響するのは「大学教育」「家族・友人」である。  
 ・山形県出身者で山形県就職者は企業要素よりも地元要素を選択理由とする傾向にある。地元就職の理由は、家族要素23%、地元要素57%に及んでいる。また、就職活動における親との関係は、「就職については親と意見が合わなかった」が14%というように、濃密になっている。  
 ・90%程の就職者は意欲的に、難しい状況を乗り越えて就職活動を行った。・進路に影響を与えた上位5科目は、「フィールドプロジェクト」「キャリア教育」「山形に学ぶ」科目「生涯学習論」「社会体験」となっている。また、進路に影響を与えた学習は、現状把握学習>調査・分析学習>相互作用的学习という順に進路影響度合いが低くなっている。・インターンシップについては、参加率は約40%、参加日数は1dayが主で、参加時期は約80%が3年次であり、74%が就職への影響はあるとしている。

#### (1) 進路検討時期

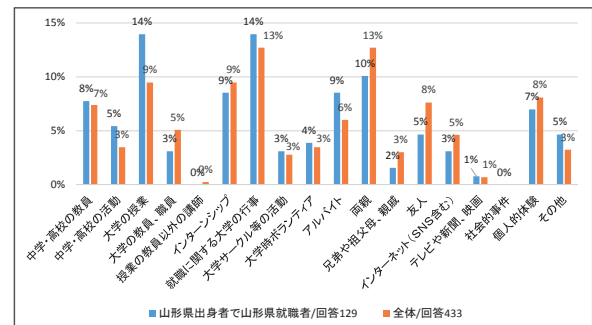
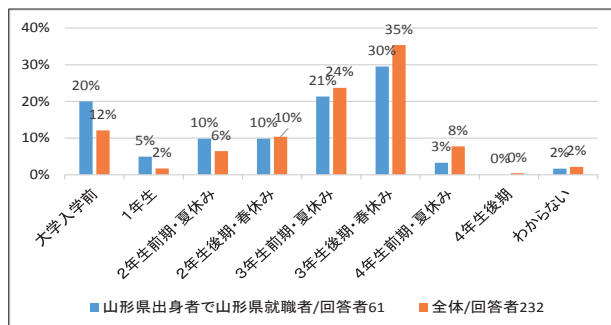
全体の進路検討時期は次のとおり。大学入学前12%、1年次2%、2年次16%、3年次59%、4年次8%

大学入学前～2年次の時期では、「山形就職者1：全体」は「45%：30%」となり、山形就職者1が早期に検討している。

#### (2) 就職に影響した人・活動等

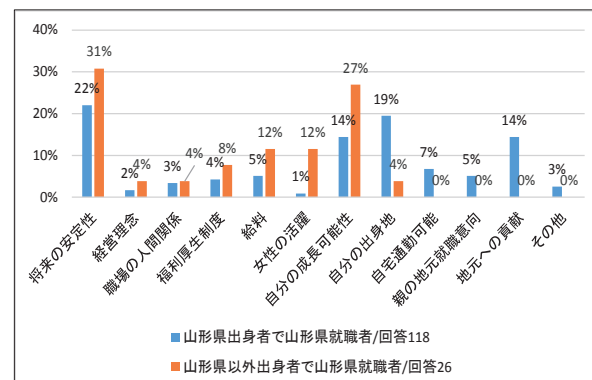
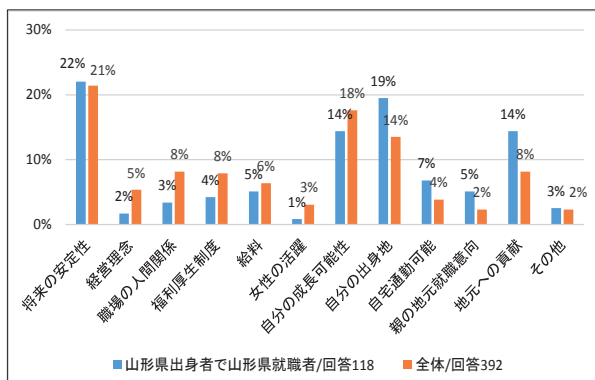
全体については、次のように要約され、「両親」「就職に関する大学の行事」「大学の授業」が強い影響力をもっている。

大学前教員等10%、大学教育36%、大学時活動12%、家族・友人24%、メディア6%、個人的体験等11%



#### (3) 就職先の選択理由

理由のうち、「将来の安定性」から「女性の活躍」までを企業要素とすると、全体の方が山形県就職者1よりも企業要素を選択理由とする傾向が強い。

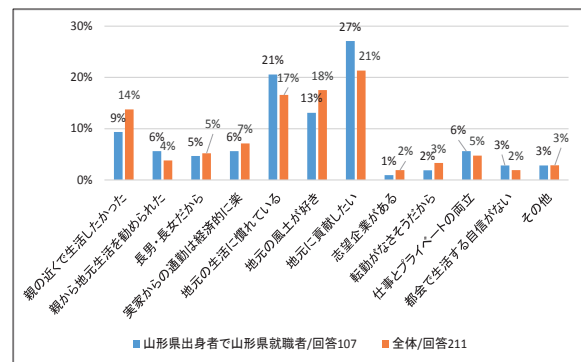




山形就職者1は企業要素よりも、「自分の出身地」「地元への貢献」等の地元要素を選択理由とする傾向にある。また、山形就職者1と山形就職者2とを比較すると、当然ながら、「自分の出身地」「地元への貢献」といった地元に関わる理由に大きな違いが見られる。

#### (4) 地元就職の理由

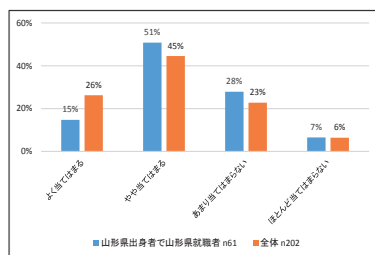
理由のうち、「親の近くで生活したかった」「親から地元生活を勧められた」「長男・長女だから」を家族要素、「地元の生活に慣れている」「地元の風土が好き」「地元へ貢献したい」までの地元要素とすると、全体では、家族要素は23%、地元要素は57%に及び、山形県就職者1の地元要素は61%に達する。この理由については、『2019年卒 マイナビ大学生Uターン・地元就職に関する調査』から引用しているが、上位5番目までの理由について調査結果を比較すると次のようになる。ほぼ類似した傾向にあることが分かる。



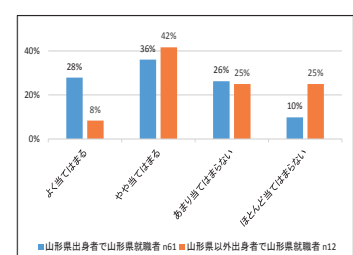
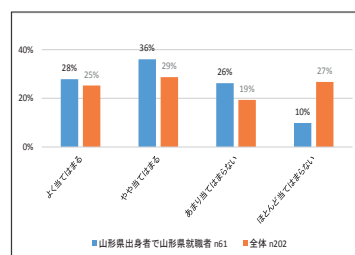
| 2019年マイナビ調査        |    | 山形大学調査（回答者に対する%） |    |                  |    |
|--------------------|----|------------------|----|------------------|----|
|                    |    | 全体               |    | 山形県就職者           |    |
| 親の近くで生活したいから       | 47 | 地元へ貢献したい         | 37 | 地元へ貢献したい         | 48 |
| 実家からの通勤は経済的に楽だから   | 41 | 地元の風土が好きだから      | 30 | 地元の生活に慣れているから    | 36 |
| 地元の風土が好きだから        | 39 | 地元の生活に慣れているから    | 28 | 地元の風土が好きだから      | 23 |
| 地元の生活に慣れているから      | 36 | 親の近くで生活したいから     | 24 | 親の近くで生活したいから     | 16 |
| 仕事とプライベートを両立させたいから | 25 | 実家からの通勤は経済的に楽だから | 12 | 実家からの通勤は経済的に楽だから | 12 |

#### (5) 就職活動における親との関係

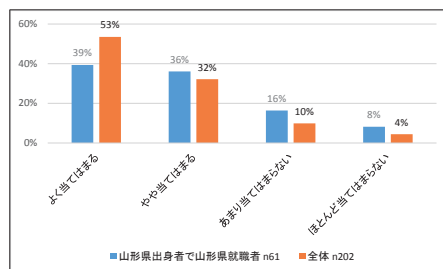
##### ① 親と就職の話をよくしたか



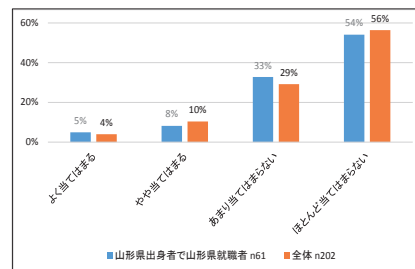
##### ② 親は地元での就職を勧めたか



##### ③ 親から好きにきなさいといわれたか



##### ④ 就職については親と意見が合わなかったか



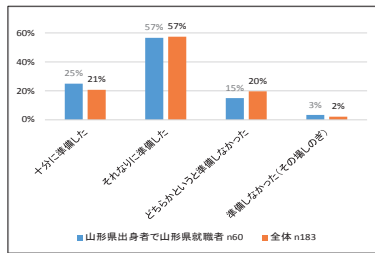
就職活動における親との関係については、「70%近くが親と就職の話をして」「山形就職者1では60%を超えて親は地元就職を勧めているが、山形就職者2では50%程がそうではない」「80%前後で親から好きにきなさいといわれている」「親と意見が合わなかったのは14%である(ほとんどが親と意見が合っている)」となる。このようなレベルがどのようなものか、について、先行研究(注)にある山口大学と比較すると次のようになり、さらに親との関係が濃密になっていることが見えてくる。

(6) 就職活動の取組方ここでは、結果として就職活動の取組方をどのように思っているのか、ということについて聞いている。回答の前提としてある就職状況にも考慮すべきなので、結果を鵜呑みにしてはいけないうのだが、その点についてはひとまず置くとする。それぞれの回答結果を見ると、全体として、90%程の就職者はそれなりの手応えを感じて就職したと思われる。

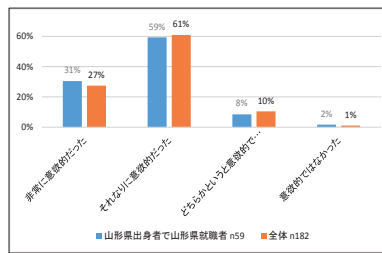
| 質問事項                | 質問事項に対する肯定率 | 山口大学<br>2005年 n 409 | 山形大学<br>2019年 n 202 |
|---------------------|-------------|---------------------|---------------------|
| 親と就職の話をよくしたか        |             | 53%                 | 71%                 |
| 親は地元での就職を勧めたか       |             | 43%                 | 54%                 |
| 親から好きにきなさいといわれたか    |             | 58%                 | 85%                 |
| 就職については親と意見が合わなかったか |             | 13%                 | 14%                 |

(注) 平尾元彦、重松正徳 2006、「大学生の地元志向と就職意識」『大学教育』3：161-168

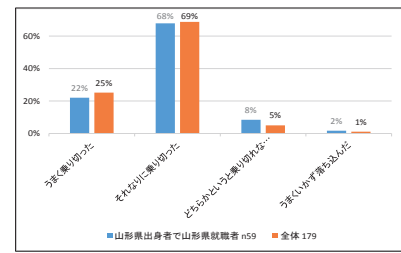
### ①就職活動の準備状況



### ②就職活動の意欲



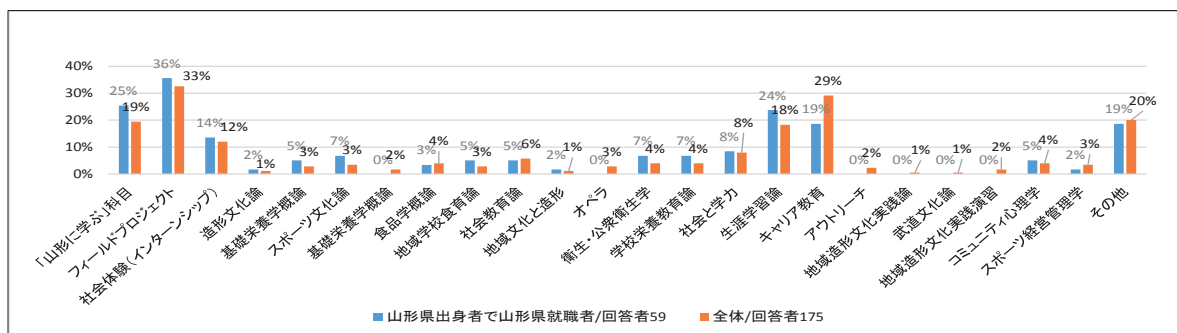
### ③難しい状況の対応



## (7) 進路に影響を与えた科目

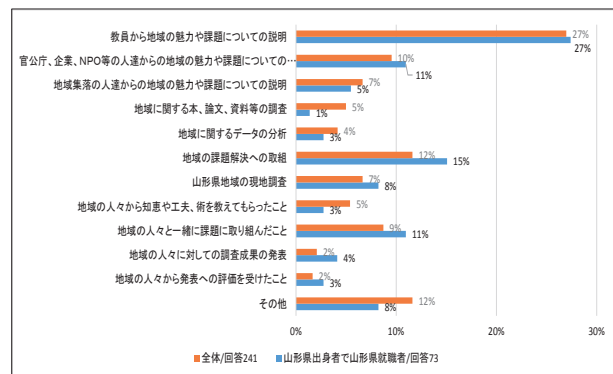
ここでは、地域創生マインドを形成するために地域創生カリキュラムを設定しているが、そのカリキュラムの科目が進路を考える際にどのように影響したのかを見ようとした。

進路に影響を与えた上位5科目は、「フィールドプロジェクト」「キャリア教育」「“山形に学ぶ”科目」「生涯学習論」「社会体験」となっている。いわゆるキャリア形成科目が並んでいる。それでは、他の専門科目は影響が小さかったのかというと、そうではないだろう。全学部的に学ぶか否かで数値は変わるし、進路を専門的に考える(体験する)が進路に影響を与えていると意識されにくい、ということもある。なお、地域創生マインドを形成する科目をカリキュラムとしてどのように設定するかは、進路影響に限らず、キャリア形成や社会人力育成の視点から再考する必要がある。



## (8) 進路に影響を与えた学習

地域志向科目の学習には様々な形があるが、ここでは、現状把握(知識の習得)「教員・・・」から「地域集落・・・」まで、調査・分析「地域に関する・・・」から「山形県・・・」まで相互作用的学习「地域の人々から知恵・・・」から「地域の人々から発表・・・」までというプロセスを想定し、11の学習を提示し、それに対して進路に影響を与えた度合いを把握することとした。その結果は、現状把握学習>調査・分析学習>相互作用的学习という順に進路影響度合いが低くなっている、ということを示している。地域志向科目にディープ・アクティブ学習を期待するなら、この結果は問題を提起していると思われる。



## (9) インターンシップ

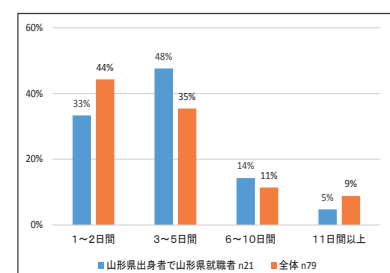
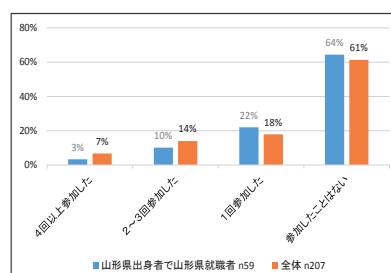
### ①参加状況

インターンシップの参加状況は、全体で39%となっている。先行研究(注)によれば55%であり、低いレベルと見て良いのかもしれない。

(注) 松坂暢浩 2017、「山形県内大学に通う大学生のインターンシップ参加状況の調査」『自立分散型(地域)社会システムを構築し、運営する人材の育成 平成29年度報告書』49-50

### ②参加日数

参加日数については、上述の先行研究によれば、1 day インターンシップ 32%であり、「1~2 日間」の割合がやや高いと思われる。したがって、それ以外の参加日数の割合はやや低いとなる。



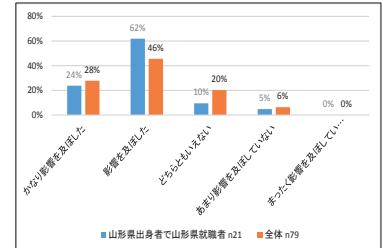
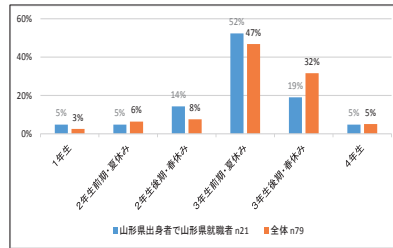
### ③参加時期

参加時期については、3年生以降が80%を超えている。このレベルについて比較考慮するデータがないが、インターンシップのねらいや効果を念頭に置くと、早期のインターンシップが望ましいものであり、2年次に前倒した取組を検討する必要があるように思える。

### ④影響度

インターンシップの参加が及ぼした就職への影響は、74%と高い。山形県就職者1においてはさらに高くなる。

このようなインターンシップの効果をもさらに広めるために、まずは参加状況を拡大していく必要がある。



### 別紙

1 あなたの進路や出身地、就職先についてお伺いします。  
 (1) 進路について、該当するものに✓をつけてください。 就職／進学／その他  
 (2) 出身地（保護者の居住地） 都道府県  
 (3) 就職先（勤務地） 都道府県

2 大学卒業後の進路について本格的に考えるなどの進路検討（会社・大学等情報収集や就業体験、親や教員らとの相談等）を、いつ頃から始めましたか。該当するものに✓をつけてください。  
 大学入学前／1年生／2年生前期・夏休み／2年生後期・春休み／3年生前期・夏休み／3年生後期・春休み／4年生前期・夏休み／4年生後期／わからない

※以下の3～7については、「1で進路を就職」と下方が記入してください。（8以降は全員）

3 就職について考える際に、影響を受けたのは次のどれですか。当てはまるものを三つまで選択し、✓をつけてください。  
 中学・高校の教員／中学・高校の活動／大学の授業／大学の教員・職員／授業の教員以外の講師／インターンシップ／就職に関する大学の行事（セミナー・合同企業説明会等）／大学のサークル等の活動／ボランティア／アルバイト／両親／兄弟・祖父母・親戚／友人／インターネット（SNS含む）／テレビ・新聞・映画／社会的事件／個人的体験／その他（ ）

4 就職先を選択した理由は次のどれに当たりますか。該当するものを二つまで選択し、✓をつけてください。  
 安定性・将来性／経営理念／職場の人間関係／福利厚生制度／給料／女性の活躍／自分の成長可能性／自分の出身地／自宅通勤可能／親の地元就職意向／地元への貢献／その他（ ）

5 就職地が出身地である方（1の（1）と（2）が同じの方）にお伺いします。次の中（注1）から該当するものを二つまで選択し、✓をつけてください。  
 親の近くで生活したかった／親から地元生活を勧められた／長男・長女だから／実家からの通勤は経済的に楽／地元の生活に慣れている／地元の風土が好き／地元へ貢献したい／志望企業がある／転勤がなさそうだから／仕事とプライベートの両立／都会で生活する自信がない／その他（ ）

6 就職活動をする際の親との関係（注2）について、該当するものを選んで、✓をつけてください。  
 (1) 親と就職の話をよくした よく当てはまる／やや当てはまる／あまり当てはまらない／ほとんど当てはまらない  
 (2) 親は地元での就職を勧めた よく当てはまる／やや当てはまる／あまり当てはまらない／ほとんど当てはまらない  
 (3) 親から「好きにしろ」といわれた よく当てはまる／やや当てはまる／あまり当てはまらない／ほとんど当てはまらない  
 (4) 就職については親と意見が合わなかった よく当てはまる／やや当てはまる／あまり当てはまらない／ほとんど当てはまらない

7 就職活動を振り返り、自身の取組方は次のどれに該当しますか。該当するものに✓をつけてください。  
 (1) 情報収集や事前学習など就職活動のための準備はどのようなものでしたか。  
 十分に準備した／それなりに準備した／どちらかという準備しなかった／準備しなかった（その場しのぎ）  
 (2) どのような意欲で就職活動に取り組みましたか。  
 非常に意欲的だった／それなりに意欲的だった／どちらかという意欲的ではなかった／意欲的ではなかった  
 (3) 困った時や難しい状況に直面した際にはどのように対応できましたか。  
 うまく乗り切った／それなりに乗り切った／どちらかという乗り切れなかった／うまくいかず落ち込んだ

※以下の8～10については全員が記入してください。

8 今まで履修した授業科目の中で、進路を考える際に影響を受けたと思われる科目は次のどれですか。該当するものを三つまで選択し、✓をつけてください。  
 「山形に学ぶ」科目（基盤共通教育科目）／フィールドプロジェクト／社会体験（インターンシップ）／造形文化論／基礎栄養学概論／スポーツ文化論／基礎栄養学概論／食品学概論／地域学校食育論／社会教育論／地域文化と造形／オペラ／衛生・公衆衛生学／学校栄養教育論／社会と学力／生涯学習論／キャリア教育／アウトリーチ／地域造形文化実践論／武道文化論／地域造形文化実践演習／コミュニティ心理学／スポーツ経営管理学／その他（ ）

9 今までの地域学習の中で、進路を考える際に影響を受けたと思われる学習（注3）は次のどれですか。該当するものを二つまで選択し、✓をつけてください。  
 教員からの地域の魅力や課題についての説明／官公庁、企業、NPO等の人達からの地域の魅力や課題についての説明／地域集落の人達からの地域の魅力や課題についての説明／地域に関する本、論文、資料等の調査／地域に関するデータの分析／地域の課題解決への取組／山形県地域の現地調査／地域の人々から知恵や工夫、術を教えてもらったこと／地域の人々と一緒に課題に取り組んだこと／地域の人々に対しての調査成果の発表／地域の人々から発表への評価を受けたこと／その他（ ）

10 インターンシップ（「教育実習」は含みません）についてお伺いします。  
 (1) 今までに企業、学校、官公庁などへのインターンシップ（単位にならないものや1日のものも含む）にどの程度参加しましたか。該当するものに✓をつけてください。  
 4回以上参加した／2～3回参加した／1回参加した／参加したことはない

※以下の（2）～（4）については、「1で参加した」と回答した方が記入してください。  
 (2) 参加したインターンシップの中で一番長い日数は次のどれに該当しますか。該当するものに✓をつけてください。  
 1～2日間／3～5日間／6～10日間／11日間以上  
 (3) 最初にインターンシップに参加した時期は次のどれに該当しますか。該当するものに✓をつけてください。  
 1年生／2年生前期・夏休み／2年生後期・春休み／3年生前期・夏休み／3年生後期・春休み／4年生  
 (4) インターンシップへの参加は就職等進路を考える際にどの程度影響を及ぼしましたか。該当するものに✓をつけてください。  
 かなり及ぼした／少し及ぼした／あまり及ぼしていない／まったく及ぼしていない

（注1）回答欄の選択肢は、『株式会社マイナビ「2019年卒 マイナビ大学生Uターン・地元就職に関する調査」』を引用。

（注2）回答欄の選択肢は、『平尾元彦、重松正徳 2006、「大学生の地元志向と就職意識」『大学教育』3：161-168』を引用。

（注3）回答欄の選択肢は、『小山治、2016、「県内就職を促進する効果的なカリキュラム・授業開発—徳島大学を事例として」平成27年度とくしま政策研究センター委託調査研究事業 成果報告書、徳島総合大学校、1-15』を引用。

## 13 アドバイザリーボード

・令和元年度のＣＯＣ＋事業取組についてアドバイザリーボード委員に報告し、本事業の進捗等について点検・評価を行い、目的・目標の達成に向けた改善に資することを目的として開催する予定である。

1 日時 令和２年２月３日（月）開催予定

2 出席者予定者

〔アドバイザリーボード委員〕

|        |       |                         |
|--------|-------|-------------------------|
| (学外委員) | 大山 正征 | 株式会社ユアテック顧問             |
|        | 佐藤 洋樹 | 寒河江市長                   |
|        | 成沢 俊子 | ピーキューブ株式会社代表取締役社長       |
| (学内委員) | 安田 弘法 | 山形大学副学長（教育・学生支援・国際交流担当） |
|        | 大場 好弘 | 山形大学副学長（ＥＭ・入試・社会連携担当）   |

〔事業協働機関〕

|          |       |                       |
|----------|-------|-----------------------|
| (参加大学等)  | 田中 勝  | 鶴岡工業高等専門学校創造工学科特命准教授  |
|          | 小野 敦  | 東北公益文科大学ＣＯＣ＋コーディネーター  |
|          | 工藤 彰  | 東北芸術工科大学総務課           |
|          | 永盛 善博 | 東北文教大学子ども教育学科准教授      |
| (参加自治体等) | 富取 桂樹 | 米沢市企画調整部総合政策課学園都市推進室長 |
|          | 瀬尾 剛志 | 鶴岡市企画部政策企画課政策企画専門員    |
|          | 新野 弘明 | 長井市地域づくり推進課長          |
|          | 大泉 健  | 西川町政策推進課課長補佐          |
|          | 舘石 修  | 飯豊町企画課総合政策室長          |
| (参加団体等)  | 大石 徹  | 山形県銀行協会常務理事           |
|          | 丹 哲人  | 山形県経営者協会専務理事          |
| 〔山形大学〕   | 三上 英司 | ＣＯＣ＋推進室室長             |
|          | 滝澤 匡  | チーフコーディネーター           |
|          | 東山 禎夫 | コーディネーター              |
|          | 高橋 政幸 | コーディネーター              |
|          | 村松 真  | コーディネーター              |
|          | 土井 敬真 | 地域教育文化学部准教授           |
|          | 佐々木 究 | 地域教育文化学部准教授           |
|          | 大森 桂  | 地域教育文化学部長             |

3 議事内容

(1) 令和元年度ＣＯＣ＋事業の取組と成果

- ・事業進捗状況
- ・連携教育機関の取組
- ・昨年度のアドバイザリーボードでの助言への対応（次頁を参照）

(2) アドバイザリーボード委員からの指導・助言等



(昨年度のアドバイザリーボードでの助言)

平成31年3月27日

山形大学長 小山 清 人 殿

山形大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」に係る

アドバイザリーボード委員長 大 山 正 征

山形大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」の充実に向けて（報告）

標記のことについて、平成31年2月21日（木）に山形大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」に係るアドバイザリーボードを開催し、平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」で採択された「協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業」（以下COC+事業）に関して、山形大学及び各事業協働機関の取組み状況を確認するとともに、今後の方向性について議論いたしました。

このたび、その結果について、下記のとおり取りまとめましたので、山形大学における「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に関する規程第13条（アドバイザリーボード任務）に基づき報告いたします。

## 記

平成30年度の、貴学並びに各事業協働機関と連携協働したCOC+事業の取組状況について報告をいただきました。全体的には、特徴が出ていて順調に取り組まれ、教育改革等について着実に成果は上がっているように思われます。

今後、貴学のCOC+事業を更に充実し進展させるための参考としていただくために重要と思われる事項について、以下のとおり意見を申し上げます。

### 1 学生の県内定着を高めるために

COC+事業目標値と大きく乖離している現状である。様々な原因があると思うが、このまま従来のことを続けていくのか、活動を見直し目標値に近づけるのか、という問題に直面している。考え方としては、補助金の交付が終了しても継続すべき事業内容であり、最終的には、目標は変えずに目標達成に向けて努力する必要がある。

そのためには、まず、地元出身者の地元定着率は高いという説明があったように、大学と高校と更に連携し、山形県出身者を高める特別な方策が必要である。例えば、医学部では地元枠を設けているが、地元の若者がある程度優先して入学できる特別枠を広げていけば地元定着率も高まるということが、単純に考えればあると思う。また、地域枠とか推薦入学や奨学金とか様々な方策がとられている中で、地元の若者を優遇することができるか否かを、やまがた創生戦略協議会で議論してもらう必要がある。さらには、大学だけでは無理があり、高校や中学校からいろんな形で地元愛を強めていくことが長い目で見ると効果が出てくるものと思われるし、小中高や家庭での郷土愛を育む教育が企業の競争力も上がることにつながるのではないだろうか。

加えて、新規雇用の創出のために、昔から言われているのは企業誘致である。地方分散という意味で企業誘致を進めることも重要な方策である。

なお、大企業の場合は、首都圏本社採用でカウントされその後山形県に戻る者も多く、実体数としてはかなり高いと見込まれる。企業では公表しないため、実体数把握の工夫が必要である。

## 2 現在の取組のさらなる充実した展開のために

### (1) 連携事業の進め方

本事業の目的として、産学官金連携で雇用促進を進めるとあるが、数値等具体的な活動状況について、例えば、共同研究による雇用創出等について把握することに努めてほしい。

共同研究は年々増加しているが、それが雇用につながるにはもう少し時間がかかる。地元企業の競争力と受け皿の拡大には山形県や市町村の支援を受けながら継続的に行うことが必要である。共同研究に関するデータは本会議にぜひ提示する必要がある。

また、連携強化については、各大学がそれぞれ素晴らしい取り組みを行っている中で、それを総合的に把握する仕組み作りについて、もう少し議論する必要があると感じている。併せて、産学官連携については、産学官金の連携表記もあり金融機関の活用も必要ではないかと思う。

### (2) インターンシップの取組方

鶴岡工業高等専門学校の報告の中で、CO-OP教育の課題の一つに学生の通勤困難を上げているが、あるカーディーラーでは企業と知恵を出し合い新たな通勤カーシェアリング・システムを導入しており、こういう方法を導入することを検討してみてはどうだろうか。

また、山形大学では、インターンシップが直接就職に結びつかないと考えている方が多いと見受けられる。アメリカの大学の例では、4年間の各学期にインターンシップ必修としており大学の方針としてパートナーシップ契約を結び実務を経験させ地元企業に貢献する等の潮流があり、参考に値すると思われる。

現状としては、インターンシップでその効果を上げることにについてはたやすいことではないと思われるが、その対応として、ひとつには、大学教育と連動できるインターンシップ参加企業・団体の発掘が有効であること、また、インターンシップ参加は1年次から、保護者・教員が関わってやるべきことだと思われる。

### (3) 留学生への関わり方

国際化に伴い海外の人も活用する時代であるが、大学そのものは留学生の受入があまり進んでい

ない。山形県は留学生が極めて少なく下位に甘んじている。グローバルにビジネスを展開する意識を持つべき時代にそういう人がいないということを深刻に受け止めないとなかなか様々なチャンスを失う。そのような状況ではあるが、留学生も山形を愛して盛り上げてくれる文化になれるような取組も必要ではないかと思う。

### 3 事業継続のために

この取組の中で、最上地域の取組はCOC+事業の目指す姿ではないかと思う。小学生から大学・社会人までを対象として進めていることは素晴らしい体制である。特に母親の影響力は大きいので保護者の参加も得ながら進めてほしい。

また、COC+シンポジウムにおいて、鼎談からのメッセージが表明されたが、今後具体的にこのメッセージはどこでどういうふうに詰めてCOC+事業として実施していくのか、という課題がある。事業継続のための重要な土台ともいえるものなので、産学官のリーダーによる3人の議論を深めるとともに、多方面からの検討を行いながら組織的に積極的に進めていただきたい。

山形大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業に係るアドバイザリーボード」委員名簿

| 氏 名            | 現 職                        |
|----------------|----------------------------|
| (学外委員) 大 山 正 征 | 株式会社ユアテック相談役               |
| 佐 藤 洋 樹        | 寒河江市長                      |
| 成 沢 俊 子        | ピーキューブ株式会社代表取締役社長          |
| (学内委員) 安 田 弘 法 | 山形大学理事・副学長（教育・学生支援・国際交流担当） |
| 大 場 好 弘        | 山形大学理事・副学長（EM・入試・社会連携担当）   |

平成 30 年度アドバイザーボードにおける助言等への対応（案）

| 助言等                     |                                                  | 対応                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 学生の県内定着を高めるために       | 1) 大学と高校が連携し、県内出身者の割合を高める方策が必要。（“地元枠”の設置等が可能か否か） | ・山形大学の 3 キャンパスで高大連携によるイベントを実施<br>・やまがた創生戦略会議で地元枠について議論                                                                                                                                                           |
|                         | 2) 中学・高校で地元愛を強める取組                               | ・中学校での出張職業体験や高校生保護者を対象とした進路選択セミナーを実施（最上地区）<br>・山形大学の 3 キャンパスで高大連携によるイベントを実施                                                                                                                                      |
|                         | 3) 企業誘致による新規雇用の創出                                | 大学側から企業・地方自治体への呼びかけを検討                                                                                                                                                                                           |
|                         | 4) 大企業の本社採用後に山形県への戻る人数の把握                        |                                                                                                                                                                                                                  |
| 2. 現在の取組のさらなる充実した展開のために | 1) 産学官金連携による具体的な活動状況の把握（共同研究の実態や雇用創出について）        | ・協働機関による寄附講座およびインターシップへの参加数は大幅に増加。<br>・共同研究の事業化による雇用創出までは至っていない。                                                                                                                                                 |
|                         | 2) 各大学での取組を総合的に把握する仕組みづくり                        | ・創生便りを発行し、各大学の地域での取組を幅広く伝えている。                                                                                                                                                                                   |
|                         | 3) 金融機関を活用した連携                                   | ・オーダーメイド工場見学会はフィデア総研との関係により実施。次年度もフィデア総研が受け皿となっている「経済産業省予算：東北地域中小企業・小規模事業者人材確保・定着等支援事業」の予算を活用して開催する。<br><br>・山形県の中小企業へ大学生の地元定着を推進するため、活力のある中小企業を育てることが重要である。産学官金連係により技術開発、経営改善、設備投資の支援、人材育成等様々なサポートを行い成果を創出している。 |
|                         | 4) 鶴高専の CO-OP 教育における学生の通勤困難への対応（例：カーシェアリング）      | 様々な対応を実施<br>①企業所有の寮等へ宿泊、又は民営ビジネスホテルに宿泊し、企業へ通勤（企業所在地が学生の出身地外の場合）<br>②保護者が通勤の送り迎え（企業所在地が学生の出身地等ではあるが、徒歩・自転車・公共交通機関等での通勤が困難な場合）<br><br>今後、企業が契約及び指定した交通手段で、学生の通勤の安全が確保できるのであれば、検討                                   |



|            |                                 |                                                                     |
|------------|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
|            |                                 | していく。                                                               |
|            | 5) 大学教育へ連動できるインターンシップ参加企業・団体の発掘 | ・県内インターンシップの受入先は増加し、その結果、参加学生数も大幅に増加。                               |
|            | 6) 留学生へむけた地域に関連した取組             | ・留学生を対象とした“県内企業合同説明会”や“県内企業バスツアー”を実施<br>・留学生も含め、地域系科目を1年次の必修に（山形大学） |
| 3 事業継続のために | 1) 最上地域の取組を目指してはどうか。            | ・やまがた創生戦略会議やシンポジウムにおいて、最上地域の取組「オールもがみ若者定着・人材確保推進会議」を先進事例として共有       |
|            | 2) 産学官リーダーによる議論を深める必要           | ・やまがた創生戦略会議を中心に連携や今後の課題について議論されている。                                 |

## 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

## 令和元年度フォローアップ報告書

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会

|         |                      |      |   |
|---------|----------------------|------|---|
| COC+大学名 | 山形大学                 | 整理番号 | 6 |
| 事業名     | 協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業 |      |   |

## 1. 進捗状況の概要

## ■特に順調に進捗している点

・「モデルカリキュラム」の受講により、山形県への就労希望の増加が顕著に見られた。カリキュラムを更に充実させることにより、地域創生マインドが一層醸成されることが期待される。

・やまがた創生戦略協議会では、COC+参加校である東北公益文科大学が行っている「地域活性化プロジェクト」の実施事例や、県内就職者に向けた「奨学金返還支援事業」の条件緩和等、将来的な構想について報告が行われ、全県的な取組である本事業の推進に寄与する重要な議論が深められた。また、高大連携事業では三つの会場で「高校生と県内出身大学生の協働活動」を実施するなど、若者の県内定着に向けた連携事業が多角的に進捗した。

## ■課題(事業終了に際し改めて確認を必要とする点)

・事業目標に位置付けられた、「地元就職率10%増」「地元就職者数350人」の達成状況(対平成26年度比)を確認する必要がある。

## 2. 中間評価時に付された留意事項等への対応

## ■特に順調に進捗している点

・地元就職の基盤となる「インターンシップ」の低学年からの取組が強化されており、今後、より一層、学生の地域志向性の動機付けとなることが期待できる。

・「事業協働地域就職率」の低迷については、山形大学工学部(置賜地域:米沢キャンパス)、農学部(庄内地域:鶴岡キャンパス)の県内就職率の低さが主因であると分析しており、“オーダーメイド工場見学会”や“キャリア Cafe”など置賜、庄内地域への対策が着実に実行された。

## ■課題(事業終了に際し改めて確認を必要とする点)

・山形大学地域教育文化学部を責任学部とし地域体験型科目をはじめとするモデルカリキュラムを構築し、全学的な教育プログラムの展開への土台が作られているが、モデルカリキュラムの早期の全学展開や地域系カリキュラムの充実・改善、低学年からの地域志向性の醸成への効果等について確認が必要である。

## 3. 達成目標と事業内容

## ■特に順調に進捗している点

・従来から低迷していた工学系学部(山形大学工学部、東北芸術工科大学デザイン工学部)における、「事業協働地域就職率」が増加した。

## ■課題(事業終了に際し改めて確認を必要とする点)

・工学系学部の「事業協働地域就職率」の増加が、持続的な現象なのか推移を見極める必要がある。

・「事業協働機関雇用創出数」における目標値と実績値が乖離しており、改善に向けた対策が必要である。

## 4. 事業経費その他特筆すべき事項

■特に順調に進捗している点

- ・特になし。

■課題(事業終了に際し改めて確認を必要とする点)

- ・事業経費のうち「その他」の決算額については、予算(計画調書)の約2倍を要しており、補助期間終了後の継続的な財源確保策について確認が必要である。